

小學ノ聘任スル教員ハ特殊事情ニ因リ主管教育行政
機關ノ許可スル者ヲ除キ登記公告セル者ニ限ル
第六十五條 小學教員ニシテ退職ヲ願フ者アラバ校長
ノ同意及自己ノ後任ヲ得ルニ非ザレバ離職スルコト
ヲ得ズ
第六十六條 小學教員ノ俸給ハ月給ヲ以テ給セラル
ルトキハ年十二月トシテ計算ス
小學教員ノ俸給規則養老金及遺族扶助料辦法ハ教
育部之ヲ制定ス
第六十七條 小學教員在校時間ハ毎日八時間トス
第六十八條 小學女教員俸給セルトキハ六週間ノ休
息ヲ與フベシ其ノ代理人ノ俸金ハ學校ヨリ主管教育
行政機關ニ申請シ別ニ之ヲ支給ス
第六十九條 小學教員ハ校長又ハ主管教育行政機關
ノ更迭ニヨリ其ノ進退ヲ左右サレズ
小學教員ハ左ノ事由ノ一ニ該當セザル限り解職
スルコトヲ得ズ
一 刑法ニ違反シ懲罰確カナル者
二 品行又ハ嗜好ノ不良ナル者
三 曠職者
四 成績不良ナル者
五 身體不具又ハ疾病ニ因リ其ノ任ニ堪ヘザル者
第七十條 小學教員前條各號ニ該當セスシテ解職セ
ラレタルトキハ理由ヲ具シ主管教育行政機關ニ書明
糾正方ヲ申請スルコトヲ得
第七十一條 校長小學教員ヲ解職セルトキハ理由ヲ陳
述シテ主管教育行政機關ニ報告シ記録シテ審査ニ備
フベシ
第七十二條 小學教員ノ訓育成績顯著ナルモノアラバ
加俸其ノ他ノ獎勵ヲ與フ其ノ進級及獎勵辦法ハ省市
教育行政機關之ヲ決定シ教育部ノ認可ヲ經テ之ヲ施
行ス
第七十三條 幼稚園主任及教員ノ任用待遇及保障ニ付
テハ本章ノ規定ヲ適用ス
第十二章 輔導研究
第七十四條 小學教員ハ奉職校及地方ノ教育ニ關スル

組織ニ參加シ児童ノ生活ニ現ハレタル事實及ビ教育
方法ヲ研究スベシ
第七十五條 小學ノ教員五人以上ヲ有スルモノハ教員
研究會ヲ組織シ校務ノ改善、教學及訓育等ノ事項ヲ
研究スベシ
教育研究會ハ全教員ヲ以テ會員トシ毎月少クトモ一
回之ヲ開會シ校長ヲ以テ主席トス
第七十六條 一學區内ノ小學ハ聯合シテ區小學教育研
究會ヲ組織シ區小學教育ノ改良方法ヲ研究スベシ區
小學教育研究會ハ區内小學ノ全教員及區教育委員ヲ
以テ會員トシ二月毎ニ少クトモ一回以上之ヲ開會シ
主管教育行政機關ノ指定スル區小學校長又ハ教育委
員ヲ以テ主席トス
第七十七條 中央機關ニ直隸スル市又ハ市縣内ニ在ル
小學ハ聯合シテ市又ハ縣小學教育研究會ヲ組織シ地
方小學教育ノ改良方法ヲ研究スベシ該教育研究會ハ
主管教育行政機關ノ指定スル學區小學代表等ヲ以テ
會員トシ半年毎ニ少クトモ一回以上之ヲ開會シ市縣

スコトヲ得市縣教育行政機關ハ其ノ學區内ノ一小學
ヲ指定シ模範小學ト爲スコトヲ得
前項模範小學ハ其ノ研究ノ結果ヲ報告シテ省分區又
ハ學區内ノ小學ノ參考ニ供スベシ
第八十二條 幼稚園主任教員及小學教育ニ關係アル教
育家ハ小學教育ノ研究ニ參加スルコトヲ得
第八十三條 各種小學教育研究會ハ各級教育行政機關
ニ於テ指導ノ實ヲ負フベシ
第八十四條 省立以下ノ小學教育研究會ノ組織規定ハ
省教育行政機關之ヲ制定シ教育部ノ認可ヲ經ルコト
ヲ要ス
第十三章 附則
第八十五條 本規程ハ必要ニ應ジ教育部之ヲ修正スル
コトヲ得
第八十六條 本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

留學規程

民國二十七年十二月二十六日

第一章 總則

第一條 國外ニ留學セムトスル者ハ本規程ニ依リ
テ辦理ス
第二條 省市教育行政機關(以下省市ト稱ス)又
ハ公共機關ヨリ經費ヲ給與テ受テ試驗成績又ハ銜銜
ノ依リ國外ニ派遣セラレ專門學術ヲ研究スル者ヲ公
費生ト稱ス
自ラ留學費用ヲ辦シ又ハ私法人ヨリ費用ヲ給與テ受
ケテ國外ニ派遣セラレ專門學術ヲ研究スル者ヲ自費
生ト稱ス
第三條 省市ハ學費ノ項目中ニ留學獎勵金ヲ置キ
自費留學生ノ成績優良ナル者ヲ激勵スヘシ
獎勵金名額及辦法ハ各省市ニ於テ規定シ部ニ申請シ
其レ認可ヲ經テ施行ス

第二章 公費生

第四條 公、自費生ニシテ團體ヲ組織又ハ畢業ヲ
懈怠シ其ノ他不法ノ行爲アリタルトキハ所在國ノ留
學管理機關ヨリ部ニ申請シテ其ノ留學資格ヲ取消シ
強制歸國セシムルコトヲ得、公費生ナルトキハ其ノ
以前ニ支給シタル一切ノ費用ヲ返納セシムベシ
第五條 省市ノ專門學術研究者ノ國外派遣派遣ハ
際シテハ理、農、工醫等ノ科ニ重キヲ置キ、研究科
目ノ種類、公費生ノ定員、留學年限、年限及經費狀
況ハ省市ニ於テ地方ノ需要請及其ノ研究科目ノ性質
ニ依リ毎回留學生募集前ニ詳細ニ規定シテ部ニ請シ
テ其ノ認可ヲ經テ施行スルコトヲ要ス、但シ其ノ留
學期間ハ實習及觀察期間ヲ含ミ二年以上六年ヲ越ユ
ルコトヲ得ズ
第六條 省ノ市公費生ハ省市ノ試驗選拔ヲ經タル
後本部ニ於ケル生キ經テ之ヲ決定ス
但シ首都(南京)ヨリ遠隔ノ地其ノ他特殊ノ事情アリ

ル省市ニ在リテハ主管教育行政機関ヨリ部ニ申請シ
認可ヲ經テ初試施行地ニ部ヨリ職員ヲ派遣シ又ハ機
關ヲ指定シテ生試ヲ舉行スルコトヲ得
第七條 各省市ノ考選公費生辦法(公費生試験選
拔辦法)ハ市教育行政機関ニ於テ本規程ニ依リ制定
シ部ニ申請シ認可ヲ經テ施行ス。試験辦法ハ本部ニ於
テ別ニ之ヲ定ム
第八條 凡ソ左記資格ノ一ヲ有スル者ハ試験申込
ヲ爲ス得
一 國內外ノ公立又ハ認可ヲ經タル私立ノ專門以上
ノ學校ヲ卒業シ二年以上履習學科ト關係アル技術
ニ從タル者
二 國內外ノ公立又ハ認可ヲ經タル私立ノ專門以上
ノ學校卒業シ二年以上履習學科繼續研究シテ相當
ノ專門著作其ノ他ノ成績アル者
三 國內ノ公立又ハ認可ヲ經タル私立大學又ハ獨立
學院ヲ卒業シタル者
第九條 申込ノ際ハ卒業證書及最近ノ四寸(キヤ
二〇四
ビキ一型)高眞二葉(一葉ハ各省市ニ存置シ一葉ハ
部ニ送付ス)ヲ提出スルノ外其ノ前條第一號ノ資格
ヲ有スル者ハ履歷書及服務證明書各二通(一通ハ各
省市ニ存置シ一通ハ部ニ送付ス)ヲ提出スルコトヲ
要ス。前條第一號ノ資格ヲ有スル者ハ專門著作其ノ他
ノ成績ヲ提出スルコトヲ要シ。前條第三號ノ資格ヲ有ス
ル者ハ學校ノ成績證明書ヲ提出スルコトヲ要ス
又ハ學校長ニ於テ署名捺印スルコトヲ要ス
第十條 前條要件ヲ具備シ各省市ノ審査ニ合格シタ
ル後ニ非ザレバ考試ヲ受ケルコトヲ得ズ
第十一條 考試事項左ノ如シ
一 初 試
甲 體格検査
體格不合格者ハ乙、丙二項ノ考試ヲ受ケルコト
ヲ得ズ
乙 普通科目
1. 國 文

2. 本國ノ國史、地理
3. 留學國ノ國語(作文、翻譯、會話)
丙 專門科目
專門科目ハ履習シタル各學科ニ依リテ之ヲ定ム
但シ最少三種以上ノ科目ヲ試験スルコトヲ要ス
二 履 試
甲 留學國ノ國語(作文、翻譯、會話)
乙 專門科目
專門科目ハ初試ノ專門科目中ヨリ二種以上ヲ選
ビテ試験ス
第十二條 初試ノ成績計算ハ普通科目中ノ國文及本
國國史、地理ハ總點數ノ百分ノ二十五、留學國ノ國
語ハ總點數ノ百分ノ二十五、專門科目ハ總點數ノ百
分ノ五十ヲ占ムルモノトス
第十三條 省市考試ニ合格シタルトキハ初試合格證
明書ヲ授與シ部ニ送付ス。履試ニ合格シタルトキハ履
試合格證明書ヲ授與ス
各省市ノ初試ハ各學科ニ就キ派遣スベキ定員ノ二倍
ヲ選出シ部ニ於テ履試ノ上所ノ採否ヲ決定スルコト
ヲ得
第十四條 履試ニ合格採決セラレタル公費生ハ三月
以內ニ出國スルコトヲ要シ。正當ナル理由ナクシテ期
間ヲ超過シタルトキハ其ノ資格ヲ取消スルコトヲ得
第十五條 出國及歸國旅費ハ各省市ニ於テ留學國迄ノ
路程其ノ他ノ事情ニ依リテ之ヲ定ム
第十六條 旅費及學費ノ給與手續ハ各省市ニ於テ規定ス。但シ出國
ノ際ニ豫メ三月分ノ學費留學費ヲ支給スルコトヲ要
シ。留學國ノ國幣ヲ以テ標準トス
第十七條 省市ハ公費生ノ出國ノ際シ留學國ノ留學
管理機關ニ準備金一千元ヲ支給シテ保管セシメ以テ
災害救濟、疾病治療等ノ意外ノ用ニ供セシムベシ其
ノ詳細辦法ハ各省市ニ於テ之ヲ規定ス
第十八條 公費生ハ留學期間內ニ於テハ特別ノ事由ニ
ヨリ省市經由本部ニ申請シ其ノ許可ヲ得ルニ非ザレ
バ研究科目及留學國ヲ變更スルコトヲ得ズ。違反者ハ

其ノ留學資格ヲ取消シ強制歸國セシメ其ノ以前ニ支給シタル費用ヲ返納セシム

第十八條 公費生ハ留學期間内ニ於テハ毎學期開始前ニ前學期ノ經過及研究成績ヲ主任教授ノ證明書ト共ニ留學管理機關ニ提出シテ證明ヲ受ケ且各省市ニ提出スルコトヲ要ス

第十九條 公費生ニシテ二年學期開始後一月ヲ經過スルモ未ダ前條ニ規定シタル報告ヲ爲サザルトキハ第一回ニ於テハ記過シ第二回ニ至ルトキハ第十七條ノ辦法ヲ準用シテ之ヲ辦理ス

第二十條 公費生ニシテ疾病ニ因リ學業ヲ繼續スルコト能ハザルトキハ留學管理機關ヨリ省市ニ報告シテ歸國セシムルコトヲ得コトノ場合ニ於テハ省市ヨリ部ニ報告スルモノトス

第二十一條 公費生ニシテ家庭ニ重大事故アリタルトキハ留學管理機關ヨリ省市ニ對シ請假シテ歸國スルコトヲ得但シ許可ヲ經タル後ニ出發スルコトヲ要シ且請假期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ズ請假期間

内ハ學費及往復旅費ヲ支給セズ

第二十二條 公費生ハ卒業後卒業證明書ヲ留學管理機關ニ送付シテ驗印證明ヲ受ケルコトヲ要ス

第二十三條 公費生ハ歸國後二月以内ニ省市ニ歸著報告ヲ爲スコトヲ要シ省市ニ於テ其ノ服務ヲ要スルトキハ其ノ留學期間相當期間以内ニ於テ省市ニ服務セシメ違反者ハ其ノ以前ニ受領シタル一切ノ費用ヲ返納セシムルコトヲ得其ノ詳細辦法ハ省市ニ於テ之ヲ定ム

第二十四條 公費生ハ歸國後二月以内ニ卒業證明書ヲ省市經由部ニ送付スルコトヲ要ス其ノ辦法ハ別ニ之ヲ定ム

第三章 自費生

第二十五條 国外ニ留學スル自費生ハ左記料格ノ一ヲ有シ且本部ノ試験ニ合格スルコトヲ要ス

一 公立又ハ認可ヲ經タル私立ノ「五年制」中學以上ノ學校ヲ卒業シタル者

二 公立又ハ認可ヲ經タル私立ノ高級職業學校ヲ卒業シタル者

第二十六條 自費生ハ毎學期第十八條ノ規定ニ依リ留學管理機關ニ申請シテ審査ヲ受ケ並ニ部ニ報告スルコトヲ要シ、報告セザルコトニ學期ニ及プトキハ留學管理機關ハ警告ヲ與ヘ二學期ニ及プトキハ留學資格ヲ取消シ強制歸國セシムルコトヲ得

第二十七條 自費生ノ留學經費ハ附表保證書説明欄内ニ記載シタル概數以上ノ準備アルコトヲ要ス

第二十八條 自費生ニシテ特別ノ成績アル者ハ留學學校及留學管理機關ニ申請シテ證明ヲ受ケ其ノ特別ノ成績證明書、學歴及最近ノ四寸(キヤビ子一型)半身寫眞二葉ト共ニ省市ノ審査ヲ經テ及本部ノ認可ヲ受ケタルトキハ省市ノ奨勵金ヲ享受スルコトヲ得

第二十九條 自費生ハ奨勵金ノ支給ヲ受ケタル日ヨリ第十七、十八、十九ノ各條ノ制限ヲ受ケベシ

第三十條 自費生卒業ハ後卒業證書ヲ留學管理機關ニ提出シ驗印證明ヲ受ケルコトヲ要ス

第三十一條 自費生ハ歸國後二月以内ニ卒業證書ヲ部ニ提出シテ審査ヲ受ケベシ其ノ辦法ハ別ニ之ヲ定ム

第四章 留學證書

第三十二條 公、自費生出國ノ際ハ本規程ノ規定ニ依リ留學證書ノ下附ヲ受ケルコトヲ要ス

第三十三條 公費生ニシテ留學證書ノ下附ヲ受ケムトスルトキハ最近ノ四寸(キヤビ子一型)半身寫眞一葉、證書費一元、印花稅一元ヲ提出スルコトヲ要ス公共機關ヨリ派遣セラルル者ハ卒業證書及履歷書ヲ提出スルコトヲ要ス

第三十四條 自費生ニシテ留學證書ノ下附ヲ受ケムトスルトキハ卒業證書、保證書、最近ノ四寸(キヤビ子一型)半身寫眞二葉、證書費一元印花稅一元ヲ提出スルコトヲ要ス

第三十五條 公共機關又ハ私法人ヨリ派遣セラルルトキハ派遣機關ハ代リ留學證書ノ發給ヲナシ且第三十三條ニ規程シタル所定各件ヲ提出スルコトヲ要ス

但シ寫眞ハ二葉提出スルコトヲ要ス
第三十六條 公費生ハ留學證書受領後之ヲ外交部又ハ外交部委託ノ施券發給機關ニ對シ鑑定ノ發給ヲ申請シ且關係國ノ領事館ニ國名ヲ申請スルコトヲ要ス
第三十七條 自費生ハ留學證書受領後其ノ出國期日ヲ三月トス期日ニ至ルモ事故ニ因リ出發スルコト能ハザルトキハ理由ヲ具申シテ留學證書ト共ニ本部ニ申請シテ註記ヲ受ケ三月延期スルコトヲ得但シ一回ニ限ル
第三十八條 自費生ニシテ留學證書受領後出國セザル以前ニ改メテ他國ニ赴カムト欲スルトキハ保證書及寫眞一葉、印花稅一元ヲ添ヘテ義ニ受領シタル證書ヲ部ニ提出シ改メテ赴カムトスル留學國ノ留學證書ノ下附ヲ申請スルコトヲ要ス
第三十九條 甲國留學シタル自費生ニシテ改メテ乙國ニ留學セムト欲スルトキハ最近ノ四寸(キヤチビー型)半身寫眞一葉、印花稅一元ヲ添ヘテ部ニ乙國行ノ留學證書ノ審査發給ヲ申請スルコトヲ要ス

第四十條 公費生ハ留學國到着後二週間以内ニ受領シタル留學證書ヲ該國駐在ノ留學管理機關ニ提出シテ檢査ヲ受ケ到着ノ旨ヲ報告スベシ
第四十一條 華僑自費生ニ在リテハ留學管理機關ノ國文及本國ノ歴史、地理ノ試験ニ合格スルニ非ザレバ該留學管理機關ヨリ本部ニ留學證書ノ發給ヲ申請スルコトヲ得ズ
第四十二條 留學證書ヲ受領セズシテ直ニ國外ニ留學シタル者ハ下記制裁ヲ受クベキモノトス
一 留學生ノ名義ヲ以テ旅券ヲ請領スルコトヲ得ズ
二 留學管理機關ノ入學紹介ヲ請求スルコトヲ得ズ
三 奨勵金ノ補助ヲ請求スルコトヲ得ズ
四 歸國ノ際之ヲ登録セズ或ニ其ノ留學資格ヲ承認セズ
第五節 附 則
第四十三條 本規則ハ必要ニ應ジ部ニ於テ之ヲ修正スルコトヲ得

第四十四條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
附表一 保證書(省略)
附表二 履歷書(省略)

學校學年學期及休暇日期暫行規程

民國二十七年十二月二十九日

- 第一條 各級學校ハ毎年八月一日ヲ以テ學年ノ始トシ、翌年七月三十一日ヲ以テ學年ノ終トス
- 第二條 一學年ヲ二學期ニ分チ八月一日ヨリ翌年一月三十一日迄ヲ第一學期トシ、二月一日ヨリ七月三十一日迄ヲ第二學期トス
- 第三條 各級學校ハ每學期第四條甲種休暇日ヲ除キ授業期間ノ日數ハ左ノ規定ニ依ル
專門以上ノ學校ハ第一學期百三十六日、第二學期百三十八日（同年八月二十九日）
中等學校ハ第一學期百四十三日、第二學期百四十五日（同年八月四十六日）
小學ハ第一學期百四十六日、第二學期百四十八日（同年八月四十九日）
- 第四條 各級學校ノ毎年ノ休暇日ハ左ノ規定ニ依ル

甲 例假（定例休暇）

- (一) 暑假 專門以上ノ學校ハ七十日ヲ限トス（六月二十三日ヨリ八月三十一日迄）
中等學校ハ五十六日以内（六月三十日ヨリ八月十四日迄）
小學ハ五十日以内トス（七月三日ヨリ八月二十一日迄）
- (二) 元旦 各級學校一律ニ一日ト定ム（一月一日）
- (三) 寒假 各級學校一律ニ二十四日ト定ム（一月十八日ヨリ一月三十一日迄）
- (四) 春節 各級學校一律ニ三日ト定ム（陰曆一月一日ヨリ一月三日迄）
- (五) 夏節 各級學校一律ニ一日ト定ム（陰曆五月五日）
- (六) 秋節 各級學校一律ニ一日ト定ム（陰曆八月十五日）
- (七) 冬至 各級學校一律ニ一日ト定ム（陰曆十二月十五日）

乙 紀念暇

- (一) 孔子誕生紀念日（陰曆八月二十七日）
 - (二) 國慶紀念日（十月十日）
 - (三) 政府聯合紀念日（九月二十二日）
 - (四) 中華民國維新政府成立紀念日（三月二十八日）
- 右記紀念日ハ各級學校均シク一日休暇スヘシ
- 第五條 各地方ノ特殊紀念日ニシテ休暇スベキモノハ省教育廳又ハ中央直轄市ノ市教育局ニ申請シ査定ヲ經教育部ニ報告スルモノトス
 - 第六條 各級學校ノ學校紀念日ハ一日休暇ス
 - 第七條 日曜日及第四、第五、第六ノ各條ノ各種休暇日ヲ除キ蓋シテ休暇スコトヲ得ズ各種ノ集會ハ日曜日ニ舉行スベシ
 - 第八條 專門以上ノ學校ノ學校歴ハ學年開始二月前ニ學校ニ於テ本規程ニ依據シテ編成シ教育部ニ直送又ハ轉報スルモノトス中等以下ノ學校歴ハ學年開始

始二月前ニ省教育廳又ハ中央直轄市ノ教育局ニ於テ本規程ニ依據シテ制定シ教育部ニ報告スルモノトス
國立又ハ私立ノ專門以上ノ學校附設ノ中等以下ノ學校及維新政府各機關ノ省又ハ中央直轄市ノ市ニ設立シタル中等以下ノ學校ハ所在地ノ教育廳又ハ教育局ノ制定シタル學校歴ヲ運用スヘシ省立ノ中等以下ノ學校又ハ省立ノ專門以上ノ學校附設ノ中等以下ノ學校ノ中央直轄市ノ市ニ在ルモノ亦同シ

- 第九條 暑中休暇日ノ始期、終期ハ鄉村小學ニシテ特殊ノ事情アルトキハ所在地ノ農業狀況ニヨリ適宜移動（繰上ゲ繰延ベノ如シ）又休暇日ヲ數期ニ分チ間隔ノ休暇（放盪暇、夜暇、秋收暇等）ニ分チ暑中休暇ノ日數ヲ減少スルガ如シトナスコトヲ得但シ休暇日ノ總數ハ五十日ノ制限ヲ超過スルコトヲ得スコトヲ得ニ於テハ省教育廳又ハ中央ノ直轄市ノ市教育局ノ認可ヲ經ルコトヲ要ス
- 第十條 寒暑假日ノ始期、終期ハ嚴寒酷暑ノ省市ニ在リテハ當地ノ事情ニ依リ適宜變更スルモノトス

前條(前項?一譯者)ノ休暇期日ノ總數ハ第四條甲項(一)(二)兩號ノ規定ヲ超過スルコトヲ得ズコノ場合ニ於テハ省教育廳又ハ中央直轄市ノ市教育局長ヨリ教育部ニ申請シテ認可ヲ受クルコトヲ要ス
第十一條 本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

宗教團體經營教育事業條例

民國二十八年四月十二日

第一條 各種宗教團體ノ經營スル教育事業ハ本條例ノ規定ニ據ルベシ
第二條 宗教團體ノ經營スル教育事業ハ其ノ主旨ヲ教育行政機關ニ呈示シ其ノ審査許可ヲ得タル上之ヲ設立スベシ
第三條 宗教團體ノ設立セル高等又ハ專門以上ノ學校ハ教育部ヲ主管機關トシ中等以下ノ學校ハ當該各省、市又ハ縣教育機關ヲ主管機關トス
第四條 宗教團體經營ノ教育事業ハ其ノ主管行政機關ヲ通ジテ計畫ヲ樹立シ又ハ計畫書ヲ作成シ且其ノ計畫、書式及手續ハ私立學校ノ規定及文化團體組織大綱ノ規定ニ照シ之ヲ處理スベシ
第五條 外國宗教團體ノ設立ニ係ル學校ハ中國人

ヲ以テ其ノ校長又ハ院長ト爲スベシ

第六條 宗教團體ノ設立セル學校ニ於テハ宗教ヲ以テ必修科目ト爲スコトヲ得ズ又其ノ學課ニ於テ宗教ノ宣傳ヲ爲スコトヲ得ズ
第七條 宗教團體ノ設立セル學校ハ宗教儀式ヲ行フ場合ト雖モ之ニ學生ノ參加ヲ強制スルコトヲ得ズ
第八條 宗教團體設立ノ學校又ハ其他ノ教育事業機關ニ於ケル學制及系統等ハ教育部ニ於テ公布セル規定ニ據リ之ヲ處理スベシ但シ實際實習ヲ行フモノ又ハ既ニ主管行政機關ニ申請シテ其ノ審査許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラズ
第九條 宗教團體經營ノ學校ニシテ社會教育ノ性質ヲ有スルモノ、補習學校、民衆學校等ハ總テ本條例第五條及第六條ノ規定ニ照シ之ヲ處理スベシ
第十條 宗教團體經營ノ教育事業ノ施設方針ニシテ教育ノ主旨又ハ法令ニ違反スル時ハ主管教育行政機關ハ何時ニテモ之ヲ糾正スルコトヲ得事情重大ナルトキ又ハ必要ト認メタルトキハ直接ニ上級機關ニ

上申シ其ノ許可ヲ得タル上之ヲ閉鎖又ハ解散セシムルコトヲ得

第十一條 宗教團體ノ集合、結社、教義又ハ學術ノ研究ハ文化團體組織大綱ニ照シ之ヲ處理スベシ

第十二條 宗教團體ニシテ其ノ信仰セル宗教ヲ布教スル爲其ノ機關ヲ設立シ生徒ヲ募集セントスルモノハ學制ニ依ル學校ノ名稱ヲ用フルコトヲ得又各種學校ノ學則、編制、課程等ニ類似セル施設ヲ爲スコトヲ得

第十三條 宗教團體設立ノ學校ハ私立學校ノ規定ニ據リ之ヲ處理スベシ

第十四條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

文化團體組織大綱

民國廿八年四月十二日

第一條 學術教育ノ増進又ハ風俗習慣ノ改良等ヲ目的トスル性質ヲ有スル團體ハ總テ文化團體ニ屬ス

第二條 文化團體ハ中國ノ文化ヲ増進シ固有ノ道徳ヲ發揚シ世界ノ知識ヲ吸收シ以テ社會ノ進歩ヲ促進シ東亞ノ平和ヲ鞏固ニスルヲ以テ目的トス

第三條 文化團體ハ法律ニ規定セル範圍外ノ政治運動ヲ爲スコトヲ得ズ

第四條 文化團體ハ公共ノ秩序及善良ノ風俗ヲ阻害スル活動ヲ爲スコトヲ得ズ

第五條 文化團體ノ名稱ハ其ノ組織上ノ主旨ト符合セシムルコトヲ要ス

第六條 文化團體ノ組織ニ關スル方式ハ其ノ本質及地方ノ實狀ニ依リ之ヲ定ム

第七條 文化團體ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時又ハ特殊ノ委員會ヲ組織スルコトヲ得但シ此ノ場合

ニ於テハ當該地區主管官署ニ申告スルコトヲ要ス

第八條 文化團體ノ經費ハ原則トシテ會員之自擔スベシ

第九條 文化團體ノ章程規則ハ本大綱ニ遵據シテ之ヲ制定シ且當該地區主管官署ニ提出シ其ノ審査許可ヲ受クベシ

第十條 本大綱ハ宗教團體ニ之ヲ準用ス

第十一條 本大綱ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

文化團體組織大綱施行細則

民國二十八年四月十二日

- 第一條 文化團體組織大綱ニ掲グル主管官署ハ法令ニ別段ノ定アルモノ外左ノ各號ノ規定ニ依ル
 - 一 學術教育ノ増進ヲ目的トスル團體ノ主管官署ハ中央ニ於テハ教育部、省ニ於テハ教育廳、市ニ於テハ教育局、縣ニ於テハ縣公署トス
 - 二 風俗習慣ノ改良ヲ目的トスル團體ノ主管官署ハ中央ニ於テハ內政部、省ニ於テハ民政廳、市ニ於テハ社會局、縣ニ於テハ縣公署トス
- 第二條 文化團體ハ會務ノ進行ニ關シ政府主管機關ノ指揮ヲ受クベシ此ノ場合ニ於テ二以上ノ機關ニ關係アル事項アルトキハ當該關係主管機關ニ於テ協議ノ上ニテ處理スベシ
- 第三條 文化團體ノ設立ニ必要ナル發起人等ハ人民團體組織法案公布前ニ於テハ主管官署ニ申請ノ上ニテ定ムベシ
- 第四條 前年度ノ決算及次年度ノ豫算
及學歴
- 第五條 前年度ニ於ケル新加入會員ノ姓名、年齡、原籍
會員タルコトヲ得ズ
- 第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ文化團體ノ
 - 一 維新政府ノ政綱ニ違背スル言論又ハ行動ヲ爲ス者
 - 二 公權ヲ褫奪セラレ未ダ復權セザル者
 - 三 禁治産者
- 第七條 文化團體法令ニ違反シタルトキハ法定ノ場所ニ依リ之ヲ解散セシム
- 第八條 本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

二一六

- 第九條 文化團體ニシテ會員大會又ハ代表大會ヲ舉行セストストキハ當該地區主管官署ニ其ノ指導及監督ノ爲途員ノ派遣ヲ申請スベシ
- 第十條 文化團體ハ毎年度末ニ於テ左ノ各號ノ會務狀況ヲ當該地區主管官署ニ報告シ主管官署ハ教育部又ハ內政部ニ轉送シ之ヲ保存セシムベシ
 - 一 前年度ニ於テ爲シタル重要事項
 - 二 次年度ニ於テ爲サントスル各種計畫
- 第十一條 文化團體ニシテ會員大會又ハ代表大會ヲ舉行セストストキハ當該地區主管官署ニ其ノ指導及監督ノ爲途員ノ派遣ヲ申請スベシ
- 第十二條 文化團體法令ニ違反シタルトキハ法定ノ場所ニ依リ之ヲ解散セシム
- 第十三條 本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

二一七

寺廟登記條例

民國二十八年二月十三日

第一條 僧道ノ住持シ又ハ居住スル一切ノ官公又ハ私設ノ壇廟、庵觀ハ戸口調査及不動産登記ニ關スル法令ニ依リテ處理スルノ外本條例ニ依リテ之ヲ登記スヘシ
前項ニ關シ僧道ト僧、尼、道士、女冠ヲ指ス
第二條 寺廟登記ヲ左記ノ三種ニ分チ主持ノ僧道ヨリ申請シテ處理ス
一 人口登記
二 不動産登記
三 法物登記
第三條 人口登記ハ僧道ニ限ル但シ寺廟使用人又ハ寄居ノ僧道亦登記スルコトヲ要ス
第四條 寺廟内ノ住持其ノ他職務ヲ有スル僧道ハ登記ニ際シ其ノ職務ヲ註明スヘシ
第五條 僧道更又ハ増減アリタルトキハ登記ヲ申

二一八

請スヘシ
第五條 僧道ニ非ズシテ寺廟ノ主トナリタル者ハ前條ノ規定ヲ準用シテ併セテ登記ス
第六條 未成年者ハ僧道トシテ登記スルコトヲ得ズ
第七條 僧道還俗シタルトキハ登記取消ヲ申請スヘシ
第八條 寺廟不動産トハ寺廟建築物及其ノ附屬土地、家屋ヲ包括ス
法物トハ宗教上、歴史上又ハ美術上ニ重要ナル關係ヲ有スル佛像、神像、禮器、樂器、法器、經典、彫刻、繪畫其ノ他保存ニ係ル一切ノ古物ヲ包括ス
第九條 寺廟ノ不動産及法物ニ増減アリタルトキハ登記ヲ申請スヘシ
第十條 寺廟登記ハ各縣ニ在リテハ縣公署ニ於テ特別市又ハ普通市ニ在リテハ社會局ニ於テ之ヲ處理ス

理ス

第十一條 寺廟登記ヲ處理スル機關ハ左記根據ヲ備ヘ附クベシ
一 寺廟登記總簿
二 寺廟人口登記簿
三 寺廟不動産登記簿
四 寺廟法物登記簿
前項簿式ハ別ニ定ム
第十二條 縣公署、特別市又ハ普通市社會局ハ寺廟登記申請ヲ受理シタルトキハ三日以内ニ職員ヲ派シテ其ノ申請事項ヲ調査スベシ若シ調査事項ト事實ト符合セザルトキハ申請人ヲシテ事實ニ據リテ訂正セシムベシ
第十三條 第一次登記ハ三月以内ニ處理ヲ完了スルモノトス
前項ノ期間ハ本條例郵送到達ノ日ヨリ起算ス
第十四條 第一次登記ノ處理完了シタル後ハ其ノ處理機關タル縣公署ハ省政府民政廳ニ特別市社會局ハ

二一九

特別市政府ニ、普通市社會局ハ當該市政府ヲ經テ省政府民政廳ニ夫々根據ヲ作成シテ報告スベシ報告用根據ヲ按式ハ別ニ之ヲ定ム
第十五條 縣公署、特別市又ハ普通市社會局ハ第一次報告後三、六、九、十二月ノ月末ニ根據ヲ作製シテ登記情況ヲ報告スベシ其ノ報告手續ハ前條ノ規定ニ依ル
第十六條 既ニ縣公署、特別市又ハ普通市社會局ノ登記ヲ經タル寺廟不動産ニシテ不動産登記ニ關スル法令ニ依リ不動産登記事項ヲ辦理スル機關ノ登記シタル各種事項ト符合セザルトキハ發見シタルトキハ直ニ照合シテ訂正スベシ
第十七條 寺廟ニシテ本條例ノ各規定ニ違反シタルキハ事由ノ輕重ニヨリ左記ニ依リテ之ヲ處罰スルコトヲ得
一 事由ナルトキハ輕微二十元以下ノ料科ニ處シ仍強制シテ之ニ登記セシム
二 事由重大ナルトキハ百元以下ノ料科ニ處シ又ハ其ノ住持ヲ更迭ス
第十八條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

監督寺廟條例

民國二十八年一月十八日(內政部部令)

- 第一條 僧侶、道士及住持ヲ有スル宗教上ノ建築物ハ其ノ名稱ノ如何ヲ問ハズ凡テ寺廟トス
- 第二條 寺廟及其ノ財產法物ハ法律ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本條例ニ依リ之ヲ監督ス
- 前項ニ於テ法物トハ宗教、歴史及美術ニ關係アル佛像、禮器、樂器、法器、經典、彫刻、繪畫其ノ他寺廟ニ保存セラルル一切ノ古物ヲ謂フ
- 第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル寺廟ニハ本條例ノ規定ヲ適用セズ
 - 一 政府機關ノ管理スルモノ
 - 二 地方公共團體ノ管理スルモノ
 - 三 個人ノ設立並ニ管理チナスモノ
- 第四條 荒廢セル寺廟ハ地方自治團體之ヲ管理スベシ
- 第五條 寺廟ノ財產及法物ハ管轄地方官廳ニ申請

三三〇

シテ登記ヲ受クベシ

- 第六條 寺廟ノ財產及法物ハ寺廟ノ所有ニシテ住持之ヲ管理スベシ
- 寺廟ニ於テ管理權ヲ有スル僧侶道士ハ其ノ名義ノ如何ヲ問ハズ凡テ住持ト看做ス但シ中華民國人民ニ非ザレバ住持トナルコトヲ得ズ
- 第七條 住持ハ教義ヲ宣揚シ戒律ヲ修持シ其ノ他正當ノ支出ヲ爲ス場合ノ外寺廟財產ヲ收入ヲ使用スルコトヲ得ズ
- 第八條 寺廟ノ不動產及法物ハ所屬教會ノ決議及主管官廳ノ許可ヲ經ルニ非ザレバ之ヲ處分シ又ハ變更スルコトヲ得ズ
- 第九條 寺廟ノ收支ノ款項及施行スル事業ハ半年末毎ニ住持ヨリ主管官廳ニ報告シ並ニ之ヲ公告スベシ
- 第十條 寺廟ハ其ノ有スル財產ニ應ジ公益又ハ慈善事業ヲ行フベシ
- 第十一條 本條例第五條、第六條又ハ第十條ノ規定

- ニ違反スル者ハ主管官廳ニ於テ其ノ住持ノ職務ヲ廢止シ第七條又ハ第八條ノ規定ニ違反スル者ハ之ヲ寺廟ヨリ追放シ又ハ法院ニ送致スルコトヲ得
- 第十二條 本條例ハ西藏、西康、青海及蒙古ノ寺廟ニハ之ヲ適用セズ
- 第十三條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三三一

第九編
司
法

REEL No. A-0709

0006

憲法附則

民國二十七年十一月五日

- 第一條 自己又は其ノ徒黨ノ地位ヲ保持スル爲外
國ト戦端ヲ開キ國土軍隊ヲ失ヒ國家人民ニ禍セル者
ハ國賊トシ死刑ニ處ス
- 第二條 國賊ノ使指又ハ暗謀ヲ受ケ國賊ニ響應シ
テ左ノ行爲ノ一ヲ爲シタル者ハ死刑又ハ無期徒刑ニ
處ス
- 一 焦土政策ニヨリ地方ニ害ヲ給シタル者
- 二 濫ニ徵發ヲ行ヒ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ民財ヲ
詐取シタル者
- 三 軍用品ヲ購入又ハ運輸シタル者
- 四 濫ニ兵役ヲ課シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ民力ヲ
消耗シタル者
- 五 決水又ハ放火シタル者
- 六 治安ヲ擾亂シタル者

- 七 衆ヲ聚メテ暴動シタル者
 - 八 交通ヲ妨害シタル者
 - 九 金融ヲ擾亂シタル者
 - 十 公務員ヲ加害セントシタル者
 - 十一 公務員ノ祖宗ノ墳墓ニ加害シタル者
- 共謀シテ前項第五號乃至第十一號ニ定ムル罪ヲ犯シ
タル者亦同シ
- 第三條 國賊ノ使指ヲ受ケ又ハ國賊ノ爲ニ聲援シ
テ左ノ行爲ノ一ヲ爲シタル者ハ無期徒刑又ハ十年以
上ノ有期徒刑ニ處ス
 - 一 言語、文字又ハ圖書ヲ以テ宣傳ヲ爲シタル者
 - 二 民衆ヲ煽惑シテ盲從又ハ附和セシメタル者
 - 第四條 本條例ニ定ムル罪ヲ犯シタル者ナルコト
ヲ明知シテ之ヲ隱匿シテ報告セザル者ハ其ノ犯シタル
罪ニ依リ之ヲ處斷ス
 - 第五條 本條例ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
 - 第六條 本條例ニ定ムル罪ヲ犯シ自首シタルトキ
ハ其ノ刑ヲ輕減ス自首ニ因リ國賊ノ陰謀ヲ遂行スル

ヲ得ザラシメタルトキハ其ノ刑ヲ免除ス
第七條 本條例ニ定ムル罪ヲ犯シタルトキハ高等
法院ニ於テ第一審裁判ヲ爲ス
第八條 本條例ニ定ムル罪ヲ犯シ死刑ヲ宣告シタ
ルトキハ統制ヲ用フルコトヲ得
第九條 第一條及第二條ノ罪ヲ犯シタルトキハ其
ノ財産ヲ沒收ス
前項ノ没收財産ハ高等法院ニ於テ缺席判決ス
第十條 本條例ニ規定セザルモノハ刑法ヲ適用ス
第十一條 本條例ノ有効期間及其ノ施行期日ハ會令
ヲ以テ之ヲ定ム

二二四

憲治盜匪暫行條例

民國二十七年四月十五日

第一條 左記各款ニ掲グル行爲ヲ爲シタル者ハ死
刑ニ處ス
一 公橋、市、村、鎮、鐵路、港灣、飛行場又ハ
軍用地ヲ占據シタル者
二 衆ヲ聚メテ公署ノ重要物品又ハ水、陸、空ニ於
テ公衆ノ運輸ニ供スル舟、車、航空機ヲ掠奪シ
タル者
三 衆ヲ聚メ兇器ヲ携帯シ竊盜ヲ常業ト爲ス者
四 海洋ニ在リテ竊盜ヲ行フ者
五 竊盜シテ故意ニ殺人シ又ハ傷害致死若ハ重傷ニ
至ラシメタル者
六 竊盜シテ放火又ハ強姦シタル者
七 財物強要ノ意圖ヲ以テ人ヲ擄ヘ又ハ屍體ヲ盜取
シタル者
八 財物強要ノ意圖ヲ以テ人ヲ擄ヘテ強賣シ又ハ強

二二五

姦シテ之ニ害ヲ與ヘタル者
九 衆ヲ聚メ兇器ヲ携帯シ墳墓ヲ發掘シテ殮物ヲ盜
取シ又ハ墳墓ヲ發掘シテ殮物ヲ盜取スルヲ常業
ト爲ス者
十 恐嚇取財ノ意圖ヲ以テ爆裂物其ノ他ノ危險物ヲ
投擲シ人ヲ死又ハ重傷ニ至ラシメタル者
十一 衆ヲ聚メ強暴脅迫ヲ以テ法ニ依リ拘禁セラレ
タル者ヲ強奪シ又ハ法ニ依リ拘禁セラレタル者
衆ヲ聚メ強暴脅迫ヲ以テ脱逃シタル者ノ各首謀
者
十二 強盜ヲ爲ス意圖ヲ以テ暴動ヲ煽動シ公安ヲ擾
害シタル者
十三 公安ヲ擾害スル意圖ヲ以テ放火又ハ決水シ其
ノ他公署軍事設備若ハ現ニ多衆居留シテ執業セ
ル建築物ノ所在セル場所又ハ水、陸、空ニ於テ
公衆ノ運輸ニ供スル舟、車、航空機其ノ他公衆
交通ノ設備ニ關係アルモノヲ毀壞シテ人ヲ死又
ハ重傷セシメタル者

十四 作賊又ハ戒嚴區域内ニ在リテ一切ノ交通設備ニ用ヒタル物品ヲ盜取シタル者

第二條 治安維持又ハ盜匪ヲ查緝スル職責ニアル者自ラ第一條ニ定ムル罪ヲ犯シ又ハ結託、庇護、隠匿シ若ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ第一條ニ定ムル罪ヲ犯シタル者ヲ幫助シタル者ハ死刑ニ處ス

第三條 左ニ掲グル情狀ノ一ニ該當スル者ハ本刑ヲ二分ノ一ニ輕減スルコトヲ得

一 第一條第七號ノ財物ヲ強要スル目的ヲ以テ人ヲ擄フルノ罪ヲ犯シ未ダ不正ノ所得物ヲ得ズシテ擄ヘラレタル者ヲ釋放シタル者

二 第一條第七號ノ財物ヲ強要スル目的ヲ以テ屍體ヲ盜取スルノ罪ヲ犯シ未ダ不正ノ所得物ヲ得ズシテ屍體ヲ送回シタル者

三 第一條第八號ノ財物強要ノ意圖ヲ以テ人ヲ強要スルノ罪ヲ犯シ決前ニ擄ヘタル人ヲ送回シ又ハ所在地ヲ明示シタル爲所在列明スルヲ得タル者

第三六

第四條 本條例ニ依リ死刑ノ判決ヲ受ヒ渡シタル當該司法機關ハ判決後七日以内ニ判決牒本ヲ具シ調査及證據書類ヲ添附ノ上當該省高等法院ニ提出シ院長ハ意見書ヲ具シ司法行政部ニ進達ノ上再審査ヲ受ケ其ノ許可ヲ得タル後刑ヲ執行ス

第五條 前條ノ規定ニ依リ呈送シテ再審査ヲ求ムル場合ニ於テ邊境又ハ交通不便ノ區域ニ於テハ高等法院院長ニ於テ當該省公署ニ轉送シ再審査ノ上其ノ許可ヲ得タル後刑ヲ執行ス

第六條 現ニ軍隊駐屯シ掃蕩中ノ剿匪區域内ニ於テ本條例ニ定ムル罪ヲ犯シタル者ハ該區域内高級軍事機關之ヲ審判ス

第七條 前條ニ定ムル送付再審査ノ案件ニ對シテハ被告又ハ其ノ法定代理人若ハ配偶者ハ判決後五

日以内ニ原審判機關ニ辯駁書ヲ提出スルコトヲ得前項ノ辯駁書ハ原審判機關ニ於テ一括シテ再審査ニ同付ス

第八條 第四條及第五條ノ再審査機關ニ於テ原審判機關ノ判決ニ疑義アリト認メタルトキハ理由ヲ明示シ再審査命令シ又ハ係員ヲ派遣シテ審査ニ立會ハシメ若ハ高等法院ニ再審査仰グモノトス第六條ノ上級軍事機關ニ於テ原審判機關ノ判決ニ疑義アリト認メタルトキハ理由ヲ明示シ再審査命令シ又ハ係員ヲ派遣シテ審査ニ立會ハシム

第九條 死刑ノ執行ハ銃決ニ依ルコトヲ得

第十條 本條例ニ依リ死刑ヲ執行スル犯人ノ姓名年月日及犯罪事實ハ高等法院院長ニ於テ毎月末日司法行政部ニ報告スルモノトス省公署ニ於テ審査ノ上許可シタルモノ及省公署ニ通知シ軍事機關ニ於テ審査ノ上許可シテ刑ヲ執行シタルモノニ付テハ該執行機關ハ檢査部ニ報告シ同時ニ司法行政部ニ記録ヲ送付スルベシ

第三七

第十一條 刑法總則及刑事訴訟法ノ規定ニシテ本條例ニ抵觸セザルモノハ仍ホ之ヲ適用ス

第十二條 本條例ノ施行期間ハ一年ト暫定ス

第十三條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

戒煙暫行條例

民國二十八年四月三十日

- 第一條 本條ニ掲グル鴉片トハ生鴉片、鴉片煙膏及藥用鴉片ヲ謂フ
- 第二條 鴉片ノ吸食ハ之ヲ禁止ス但シ鴉片中毒ニ罹リ治療上期ヲ分チテ戒絶スルノ必要ヲ認メタル者ハ此ノ限ニ在ラズ
- 第三條 政府ハ吸煙者ノ醫藥ヲ矯正スル爲メ鴉片中毒者ニ對シ必要ノ取締ヲ加フル事ヲ得
- 第四條 鴉片又ハ鴉片吸食用具ノ携帶及鴉片又ハ鴉片吸食用具ノ製造又ハ販賣ハ政府ノ許可ヲ經ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ
- 第五條 營利ノ目的ヲ以テ他人ニ鴉片ヲ吸食セシムル場所ヲ設置シ又ハ其ノ設備ヲ爲スコトヲ得ズ但シ鴉片ノ小賣場ニシテ已ニ政府ノ許可ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラズ
- 第六條 政府ノ許可ヲ經ズシテ鴉片又ハ其ノ代用品ヲ製造スル目的ヲ以テ鴉片ニ類似ヲ栽培スルコトヲ得ズ
- 第七條 前條ノ目的ヲ以テ罂粟ノ種子ヲ賣買又ハ授受スルコトヲ得ズ但シ賣買又ハ授受ニ付已ニ政府ノ許可ヲ經タル罂粟栽培者ハ此ノ限ニ在ラズ
- 第八條 政府ノ許可ヲ經タル罂粟栽培者ハ其ノ生産シタル鴉片ヲ政府ノ指定スル者ニ賣却スベシ
- 第九條 鴉片類似品ハ總テ之ヲ製造、賣買、授受、所有又ハ所持スルコトヲ得ズ
- 第十條 該管官吏ハ第三條ニ規定スル者ノ店舗、製造場其他ノ場所ニ入り帳簿、書類、原料、製品、器具、機械其他ノ物件ヲ検査シ關係者ニ對シ訊問又ハ取締上必要ナル處分ヲ加フルコトヲ得
- 第十一條 第四條乃至第六條ノ規定ニ違反シタル者ハ七年以下ノ徒刑又ハ五千元以下ノ罰金ニ處ス
- 第十二條 第七條又ハ第八條ノ規定ニ違反シタル者ハ五年以下ノ徒刑又ハ三千元以下ノ罰金ニ處ス

三二八

- 前項ノ徒刑及罰金ハ之ヲ併科スルコトヲ得
- 第十三條 第十條ニ定ムル該管官吏ノ検査ヲ妨害シ訊問ニ對シ答辯セズ又ハ虛偽ノ答辯ヲ爲シ其ノ他該管官吏ノ處分ニ服セザル者ハ五月以下ノ徒刑又ハ千元以下ノ罰金ニ處ス
- 第十四條 前項ノ徒刑及罰金ハ之ヲ併科スルコトヲ得
- 第十五條 本條例ノ規定ニ違反シタル者ノ鴉片、罂粟又ハ鴉片吸食用具ハ犯人ニ屬スルト否トテ問ハズ總テ之ヲ沒收ス
- 第十六條 前項ノ物品ニシテ沒收スルコト能ハザルトキハ相當ノ價格ヲ追徴ス
- 第十七條 團體代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者ニシテ團體ノ業務ニ關シ本條例ニ違反シタルトキハ團體ノ代表者及違反者ヲ處罰ス
- 第十八條 本條例ノ施行期日ハ別ニ之ヲ公示ス

三二九

戒烟暫行條例施行細則

民國二十八年五月八日

- 第一條 戒烟總局ハ心要ト認ムルトキハ鴉片中毒患者ヲ救済機關ニ收容スルコトヲ得
- 第二條 鴉片又ハ鴉片吸飲用具ヲ移輸入セントスル者ハ戒烟局長ノ許可ヲ受クベシ
- 第三條 鴉片又ハ鴉片吸飲用具ヲ製造シ又ハ販賣セントスル者ハ戒烟局長ノ許可ヲ受クベシ
- 第四條 鴉片販賣者及鴉片吸飲用具製造者ハ指定場所以外ニ於テ營業スルコトヲ得ズ鴉片吸飲用具製造人ニシテ店舗ヲ設ケ營業セントスルトキハ戒烟局長ノ許可ヲ受クベシ
- 第五條 鴉片又ハ鴉片吸飲用具ヲ移輸入セントスル者ハ出賣人ノ住所、姓名、數量、價格及移輸出ノ經過ヲ明記シ戒烟總局長ノ許可ヲ受クベシ
- 第六條 鴉片販賣者及鴉片吸飲用具製造者ハ帳簿ヲ備ヘ鴉片及鴉片吸飲用具輸出入ニ付其ノ種類、數量、價格、年月日及出入場所ヲ明記スベシ
- 第七條 鴉片販賣者又ハ鴉片吸飲用具販賣者ハ鴉片又ハ鴉片吸飲用具輸出入ニ付毎月十日迄前月分ノ狀況ヲ明記シ所轄戒烟局長ニ報告スベシ
- 第八條 罂粟ノ種植區域及其ノ面積ハ毎年戒烟局長之ヲ指定ス
- 第九條 罂粟ヲ種植セントスル者ハ左ノ事項ヲ明記シ毎年所轄戒烟局長ニ申請シテ其ノ許可ヲ受クベシ
 - 一 住所、姓名及生年月日
 - 二 種植場所及面積
- 第十條 前條ノ許可ヲ得タル者ハ一種植地毎ニ一標柱ヲ立テ該場所、面積、種植者ノ住所及姓名ヲ明記スベシ
- 第十一條 罂粟ヲ種植スル者ハ其ノ生産日中ニ生産セル鴉片ノ數量ヲ所轄戒烟局長ニ報告スベシ
- 第十二條 罂粟ノ種植者ハ其ノ生産セル生ノ鴉片ヲ所轄戒烟局長ノ指定スル場所ニ置クベシ

三三〇

- 第十二條 鴉片販賣者及鴉片吸飲用具製造者ハ戒烟總局長又ハ戒烟分局長ノ定ムル保證金ヲ納ムベシ
- 第十三條 本細則ニ依リ指定及許可ヲ受ケタル者ニシテ其ノ指定及許可ヲ取消サレ又ハ指定期間満了後未分繼續ノ許可ヲ受ケズ又ハ死亡シ又ハ停業セルトキハ事實ノ發生シタル日ヨリ三十日以内ニ本人承認人又ハ財產管理人ヨリ所轄戒烟局長ニ對シ現存鴉片又ハ現存鴉片吸飲用具ノ處分ニ付其ノ指令ヲ仰グベシ
- 第十四條 鴉片販賣者ニシテ他人ニ鴉片吸飲ノ場所及設備ヲ供セントスルトキハ左ノ事項ヲ明記シ所轄戒烟局長ニ提出シテ其ノ認可ヲ受クベシ
 - 一 住所姓名及生年月日
 - 二 場所及設備
- 第十五條 第四條ノ規定ニ違反スル者ハ三月以下ノ拘留又ハ二百元以下ノ罰金ニ處ス
- 第十六條 第六條又ハ第八條ノ規定ニ違反スル者ハ一月以下ノ拘留又ハ百元以下ノ罰金ニ處ス
- 第十七條 本細則ニ依リ鴉片又ハ鴉片吸飲用具ヲ製造販賣シ又ハ許可ヲ得テ罂粟ヲ種植スル者ニシテ業務上不正ノ行為アリタルトキハ其ノ業務ヲ停止シ其ノ指定又ハ許可ヲ取消シ又ハ其ノ保證金ヲ沒收スルコトヲ得
- 第十八條 本細則ハ戒烟暫行條例施行ノ日ヨリ之ニ施行ス

三三一

戒烟獎勵規則

民國二十八年五月八日

- 第一條 官廳ニ出頭シテ戒烟條例ニ違反スル鴉片及所有者不明又ハ所有者所在不明ノ鴉片ヲ告發シ因リテ查獲ニ資シタル者又ハ取締官吏ニシテ之ヲ查獲シタル者ニハ本規定ニ依リ獎勵金ヲ支給ス
- 第二條 查獲シタル鴉片ハ價格ヲ評定シ保管及運搬ニ要セシ費用ヲ控除シテ得タル殘余金ノ十分ノ六ヲ以テ獎勵金トス
- 第三條 前條ノ獎勵金ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ支給ス
 - 一 獎勵金ノ十分ノ七ヲ以テ告發者ニ支給シ十分ノ三ヲ以テ查獲ニ從事シタル官署ノ官員ニ支給ス但シ告發シタル者ナキトキハ獎勵金全額ヲ查獲ニ從事シタル官署ノ官員ニ支給ス
 - 二 二以上ノ官署協力シテ查獲シタルトキハ獎勵金ノ十分ノ七ヲ以テ告發者ニ支給シ殘額ヲ查獲ニ

二三三

- 從事シタル官員ノ人數ニ按分比例シテ各官署ニ分配ス但シ告發者ナキトキハ獎勵金全額ヲ查獲ニ從事シタル官員ノ人數ニ按分比例シテ分配ス
- 官署ノ官員ニ支給スル前二號所定ノ獎勵金ハ各官署長官ニ於テ各官員ノ功績ヲ考慮シ之ヲ支給ス
- 告發者ノ獎勵金ハ告發ヲ受ケタル官署長ニ送附シ署長ヨリ之ヲ支給ス
- 第四條 本規則ハ戒烟暫行條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鴉片稽查私章程

民國二十八年五月八日

- 第一條 戒烟局員ハ戒烟條例違反者ト認メタル者又ハ犯罪ニ供セラレタル鴉片及鴉片吸用具ヲ發見シタルトキハ本章程ニ依リ逮捕又ハ押收スベシ
- 第二條 戒烟局員ハ所有者不明又ハ所有者所在不明ノ鴉片及鴉片吸用具ヲ發見シタルトキハ之ヲ押收スベシ
- 第三條 戒烟局員ハ戒烟條例違反ノ嫌疑アリト認メタルトキハ搜查ヲ爲シ必要アルトキハ嫌疑者又ハ參考人ヲ訊問スルコトヲ得
- 第四條 戒烟局員搜查、訊問、押收又ハ逮捕ヲ爲ストキハ其ノ身分ヲ證明スベキ證明書ヲ携帯シ要求アルトキハ即時之ヲ提示スベシ
- 前項ノ證明書ハ別記様式ニ依ル
- 第五條 戒烟局長ハ必要ト認ムルトキハ戒烟局員ヲシテ武器ヲ携帯セシムルコトヲ得

- 第六條 戒烟局員搜查、押收又ハ逮捕ヲ爲スニ當リ必要アリト認ムルトキハ警察官吏又ハ軍隊ニ應接ヲ求ムルコトヲ得
- 第七條 警察官吏、職務官吏、稅務官吏及稅關官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ戒烟條例違反者ト認メタル者又ハ所有者不明ノ鴉片及鴉片吸用具ヲ發見シタルトキハ第一條及第二條ノ規定ヲ準用ス
- 附則
- 第八條 本章程ハ戒烟暫行條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

式 樣 判 別

第 號

戒烟局員之印
姓名
年齡

官職

二三三

修正人事登記暫行條例

民國二十七年九月五日(內政部令)

- 第一條 各省市、縣、鄉、鎮、坊等ノ公所ニ分送シ隨時項ヲ分テ登記セシム
- 第二條 原籍地復歸者ノ登記事項ハ十日以内ニ前條各公所ニ詳細報告シ其ノ財產ニ契約關係アルモノハ證據書類及口籍證明書ヲ提出スベシ
- 第三條 各自治會又ハ各區、縣、鄉、坊公所ハ毎月末登記整理簿ヲ作成シ直轄市縣公署ニ報告シ審査ヲ受クベシ但シ重要ナル事項ハ直ニ報告スルコトヲ要ス
- 第四條 市縣公署ハ各自治會又ハ各區、縣、鄉、坊公所ノ登記表ヲ接收シタル後ハ戶口調査統計報告規則及様式ニ依リ市縣戶口變更統計表ヲ編製シ所轄道尹ヲ經テ民政廳ニ呈出スベシ民政廳ハ統計表ヲ作成シ省政府ヲ經テ內政部ニ呈送シ登錄ヲ受クベシ
- 第五條 區、縣、鄉、坊公所又ハ自治會未成立ノ地方ニ於テハ人事登記ノ事務ハ管區之ヲ代行ス
- 第六條 人事登記事務取扱機關ハ登記申請人ヨリ費用ヲ要求又ハ徵收スルコトヲ得ズ

一三四

- 第一條 各省市政府ハ戰後從來ノ戶數人口ニ變動ヲ生ジ調査上正確時期ヲ確キテ以ツテ茲ニ條例及表式ヲ制定シ人事登記ヲ開始シ以テ調査ノ便ニ備フ
- 第二條 人事登記ハ暫時左ノ八項ニ分ツ
- 一 原籍地復歸
- 二 原籍地未復歸
- 三 轉居
- 四 別居
- 五 死亡
- 六 婚姻
- 七 出生
- 八 繼承

- 第三條 各省市政府ハ民政廳ニ於テ規定ノ表式ニ照シ登記簿ヲ作製シ之ヲ備附スルト共ニ各道尹ニ交附シ道尹ヨリ各縣公署及各自治會ニ轉送シ更ニ同所ヨリ
- 前項ニ違反シタル者ハ嚴罰ニ處スベシ
- 第九條 第九項人事登記取扱人員ニシテ成績優良ナル者ハ直轄市縣公署ヨリ所轄道尹ニ報告シ更ニ民政廳ニ於テ之ヲ取懸メ省政府ヲ經テ內政部ニ轉送シ特ニ之ヲ褒獎ス
- 第十條 人事登記表ハ原登記機關ニ於テ之ヲ保存ス
- 第十一條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一三五

第三審上訴臨時法庭組織條例

二十八年一月五日(司法行政部令)

- 第一條 司法院成立前ニ於テハ第三審上訴臨時法庭ヲ設ケ最高審判及法令ノ解釋統一ニ關スル職權ヲ行使セシム
- 第二條 第三審上訴臨時法庭ハ當分ノ內司法行政部ニ隸屬シ維新政府所在地ニ之ヲ設ク
- 第三條 第三審上訴臨時法庭ニ簡任ノ廳長一人、列事四人、庶任又ハ委任ノ書記官若干人ヲ置ク
- 第四條 第三審上訴臨時法庭ニ簡任ノ檢察官二人ヲ置キ檢察事務ヲ辦理セシメ庶任又ハ委任ノ書記官若干人ヲ置ク
- 第五條 第三審上訴臨時法庭ニ簡任ノ檢察官二人ヲ置キ檢察事務ヲ辦理セシメ庶任又ハ委任ノ書記官若干人ヲ置ク
- 第六條 第三審上訴臨時法庭ノ職員ハ總テ司法行政部ヨリ選拔推薦シ又ハ任命選置スルモノトス

二二六

第六條 本條例ニ規定ナキ事項ニ付テハ暫行法院組織法ノ規定ヲ適用ス

第七條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

訴訟費用規則

民國二十七年十一月二十八日司法行政部令

- 第一條 訴訟費用ハ本規則ニ依リ之ヲ徵收ス
- 第二條 民事ニシテ財產權ニ因リ起シタルトキハ訴訟目的物ノ金額又ハ價額ニ依リ裁判費用ヲ徵收ス
- 一 五十元以上七十五元未滿ハ二元二角
- 二 七十五元以上百元未滿ハ三元
- 三 百元以上二百元以下ハ六元
- 四 二百元ヲ逾クモノハ百元トシテ計算ス
- 五 千元以上二千元未滿ハ二十五元
- 六 二千元以上四千元未滿ハ三十二元
- 七 四千元以上七千元未滿ハ四十二元
- 八 六千元以上八千元未滿ハ五十五元
- 九 八千元以上一萬元未滿ハ七十元
- 十 一萬元ヲ逾クモノハ千元毎ニ三元ヲ加ヘ千

元未滿八千元トシテ計算ス

訴訟目的物ノ金額又ハ價額ノ五十元ニ滿タザルトキハ審判費ノ徵收ヲ免除ス

訴訟目的物ノ金額ヲ銀兩、銅貨又ハ外國貨幣ヲ以テ計算スルトキハ市價ニ依リテ國幣ニ換算スベシ

訴訟目的物ノ價額ノ計算ハ民事訴訟法第四百四十四條乃至第四百七十七條ノ規定ニ依ルベシ

第三條 民事ニシテ財產權ニ因ルニ非ズシテ起シタルトキハ前第一項第二號ニ依リ審判費ヲ徵收ス

前項ノ訴ニ於テ併セテ財產權上ノ請求ヲ爲シ請求金額又ハ價額百元以上ナルトキハ其ノ金額又ハ價額ニ依リテ審判費ヲ徵收スベシ

第四條 本訴ト反訴ト訴訟目的物相同ジキトキハ反訴ニ付別ニ審判費ヲ徵收セズ

第五條 民事ニシテ第二審法院ニ上訴スルトキハ第二條及第三條ノ規定スル審判費ニ十分ノ四ヲ加徵シ、第三審法院ニ上訴スルトキハ十分ノ六ヲ加徵ス

二二七

更審後上訴ヲ爲ストキ亦同ジ
第六條 民事ニ於ケル再審ノ訴ハ再審管轄法院ノ審級ニ按シ第二條、第三條及前條ノ規定ニ依リ審判費ヲ徴收スベシ
第七條 左ノ民事申請又ハ申立ハ審判費一元ヲ徴收ス
一 抗告又ハ再抗告
二 原狀回復ノ申請
三 假差押又ハ假處分ノ申請
四 除權判決ノ申請
前項以外ノ民事申請又ハ申立ハ審判費五角ヲ徴收ス但シ訴訟救助ノ申請ニハ暫時徴收ヲ免除ス
第八條 民事訴訟法五百十五條第一項ノ規定ニ依リ支拂命令ノ申請ヲ起訴ト看做ストキハ第二條ノ規定ニ依リ審判費ヲ徴收ス
第九條 民事強制執行ハ執行目的物ノ競賣金額ニ依リ執行費ヲ徴收ス
一 五十元以上百元未満ハ一元

二 百元以上二百五十元未満ハ一元八角
三 二百五十元以上五百元未満ハ二元五角
四 五百元以上千元以下ハ三元五角
五 千元ヲ逾エタルトキハ千元毎ニ一元五角ヲ加シテ計算ス
執行目的物ニシテ競賣ヲ經ザルトキハ其ノ金額又ハ價額ニ依リ前項所定ノ等級ニ按シ十分ノ五ヲ徴收ス
第二條第二項、第三項及第四項ノ規定ハ本條ニ之ヲ準用ス
第十條 民事ニ於ケル判決文、召喚狀及其ノ他訴訟ニ關スル文書ノ送達ハ一件ニ付一角ヲ徴收ス一日ノ内ニ往復スルコト能ザルトキハ一日ニ付別ニ食費、宿泊料五角並ニ船車賃ヲ徴收ス郵便局ヨリ送達シタルトキハ第十四條ノ規定ニ依リ之ヲ處理ス
第十一條 抄録費ハ百字毎ニ一角ヲ徴收シ百字未満ハ百字トシテ計算ス送達スベキ裁判正本ハ別ニ抄録

費ヲ徴收スルコトヲ得ズ
第十二條 觀護費ハ百字毎ニ四角乃至八角ヲ徴收シ法院ニ於テ之ヲ酌定ス百字未満ハ百字トシテ計算ス
第十三條 官報及新聞紙ノ登載費ハ定價ニ依リ計算ス
第十四條 郵便費、電信費及運送費ハ其ノ實數ニ依リ計算ス
第十五條 證人ノ出席費ハ毎回五角トス 鑑定人及通譯ノ出席費ハ毎回一元以上五元以下トシ法院ニ於テ之ヲ酌定ス
證人、鑑定人及通譯ニシテ詢問又ハ通譯ニ因リ一日以上滯留シタルトキハ出席費ノ外ニ證人ニハ毎日滯留費五角ヲ支給シ、鑑定人及通譯ニハ毎回一元以上五元以下ヲ法院ニ於テ酌定シテ之ヲ支給ス
證人、鑑定人、通譯ノ途中旅費ハ實費ニ依リテ計算スベシ但シ法院ニ於テ相當ト認メタルモノニ限ル
第十六條 推事及書記官ノ證據調査ノ爲ノ出張旅費ハ官吏出張旅費暫行章程ニ依リ之ヲ處理ス

第十七條 本規則ニ規定セザル必要費用ハ實費ニ依リ之ヲ計算ス
第十八條 第二條乃至第九條、第十條第一項、第十一條及第十二條ニ依リ徴收スベキ費用ハ高等法院ニ於テ司法行政部ニ申請シ其ノ認可ヲ經テ適宜加減又ハ免除スルコトヲ得
第十九條 以前ニ施行シタル訴訟費用規則及該規則ニ依リ制増徴收ノ命令ハ之ヲ廢止ス
第二十條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

非訟事件徴收費用規則

民國二十七年十一月二十八日司法行政部令

- 第一條 非訟事件ニ關シ法院ニ申請ヲ爲ストキハ本規則ニ依リ費用ヲ徴收ス
- 第二條 財産權ニ因リ申請ヲ爲ストキハ財産權ノ金額又ハ價額ニ依リ費用ヲ徴收ス
 - 一 五百元未満ハ一元
 - 二 千元未満ハ二元
 - 三 五千元未満ハ三元
 - 四 一萬元未満ハ五元
 - 五 五萬元未満ハ十二元
 - 六 五萬元以上ハ三十元
- 第三條 財産權ニ因ルニ非ズシテ申請ヲ爲ストキハ費用三元ヲ徴收ス
- 第四條 繼續シテ申請又ハ異議申立ヲ爲ストキハ毎回費用五角ヲ徴收ス
- 第五條 非訟事件ノ費用徴收ハ前三條ノ規定ニ依

二四〇

ルノ外其ノ他法令ニ依リテ徴收スベキ費用ハ訴訟費用規則第十條乃至第十七條ノ規定ヲ準用ス

第六條 第二條乃至第五條ニ依リ徴收スベキ費用ハ高等法院ニ於テ金額ヲ擬定シ司法行政部ニ申請シテ其ノ認可ヲ經タル後之ヲ加減スルコトヲ得

第七條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

司法印紙規則

民國二十七年十一月二十一日司法行政部令

- 第一條 司法印紙ハ司法行政部ニ於テ之ヲ製造ス司法印紙ヲ偽造又ハ變造シタルトキハ刑法印花稅票偽造及變造ニ依リ處罰ス
- 第二條 司法印紙ハ司法機關ニ於テ之ヲ發賣ス司法印紙發賣規則ハ別ニ之ヲ定ム
- 第三條 司法印紙ヲ左ノ各種ニ分ツ
 - 一 一分 赭黃色
 - 二 五分 藍色
 - 三 一角 花青色
 - 四 二角 紫色
 - 五 五角 綠色
 - 六 一元 赭色
 - 七 五元 黃色
 - 八 十元 紅色
- 第四條 司法印紙ノ價格ハ國幣ヲ以テ計算シ其ノ

一元ニ滿タザルモノハ小銀貨又ハ銅貨ニ依リ收納スルコトヲ得

小銀貨又ハ銅貨ノ國幣換算ハ各地ノ市價ニ依リ之ヲ定メ收支一律トス

第五條 貼用スベキ印紙ノ數額ニ端數アリタルトキハ五厘以上ノモノニ在リテハ印紙一分ヲ購買シ五厘ニ滿タザルモノハ計算スルコトヲ要セズ

第六條 司法機關ニ提出スル書狀ニシテ規定ニ依リ部發行ノ狀用紙ヲ購買使用スベキモノハ司法印紙ノ貼用ヲ要セザルモノヲ除クノ外司法印紙一角ヲ貼用スベシ

第七條 左ノ司法收入ニハ司法印紙ヲ貼用スベシ

- 一 訴訟費用規則第二條乃至第九條、第十條第一項、第十一條、第十二條ニ依リテ徴收スル費用
- 二 登記費、登錄費及公證費
- 三、罰金及科料 但シ賞ニ充ツベキ部分ハ此ノ限ニ在ラス
- 四 過怠金

二四一

第八條 貼用スベキ印紙ノ價格ハ司法機關ノ主管官ニ於テ計算シ且證明書ヲ作成ス
 前項ノ證明書ハ計算ヲ請求シタル本人ニ交付シタル上本人自身之ヲ携行シ印紙發售處ヨリ印紙ヲ購買シテ貼用スベシ

第九條 司法印紙貼用後金錢收納係員ハ直ニ抹消シ且領收證ヲ發給ス

第十條 印紙抹消ノ機械ハ司法行政部ニ於テ製造シタル上之ヲ配布シ又ハ各高等法院ニ於テ定式ニ依リ之ヲ製造ス

第十一條 購買貼用シタル司法印紙ハ司法機關ノ計算ノ錯誤ニ因リ定額ヲ超過シタル場合ヲ除クノ外原價額ヲ返却セズ

第十二條 管轄邊ノ事件ニ付已ニ司法印紙ヲ購買貼用シ裁列費ヲ納入シタルトキハ事件ト共ニ管轄權ヲ有スル機關ニ通知スベシ此ノ場合ニ於テハ新タニ裁列費ヲ徴收セズ

第十三條 司法機關ハ第六條及第七條ニ依リ司法印紙ヲ貼用スベキ印紙ノ價格ハ司法行政部令ニ付夫々日記簿ヲ備ヘ附ケ司法印紙貼用者ノ姓名、住所、件名若ハ事由、貼付司法印紙ノ數額及其ノ月日ヲ記載スベシ

第十四條 高等法院ハ毎月末ニ前條ノ各日記簿ノ記載事項ヲ表ニ記入シ部ニ報告スベシ高等以下ノ司法機關ハ所屬高等法院經由部ニ報告スベシ

前項ノ記載報告ノ時期ハ週クトモ一月ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十五條 各種ノ印紙收入ハ毎月記載報告ト共ニ司法行政部ニ呈送シテ查收スルコトヲ要シ他項ニ流用スルコトヲ得ズ

第十六條 第八條ノ證明書、第九條ノ領取書、第十三條ノ各日記簿及第十四條ノ月報表ノ定式ハ司法印紙發售細則ニ規定スル各種附式ニ依リ之ヲ辦理ス

第十七條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

司法印紙發售細則

民國二十七年十二月二十二日司法行政部令

第一條 司法機關ハ司法印紙發售處ヲ設ケ職員ヲ派シテ印紙發售事務ヲ管理セシムベシ

第二條 徵收スベキ費用ニシテ印紙ヲ貼用スベキトキハ其ノ印刷ハ徵收スベキ司法機關ニ於テ發售スベシ

第三條 省高等法院ノ毎年ノ印紙請求受領ハ三月六、九、十二月ノ四回ニ分チ之ヲ辦理シ每次請求受領ノ時期ニ豫メ所屬各機關ノ一季内ニ要スル印紙總額ヲ算出シ種類ヲ分チ枚數ヲ表ニ記入シ司法行政部ニ申請シ發給ヲ受クベシ但シ發賣ニ不足シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 司法機關ノ受領シタル印紙ハ會計主任者ニ負責保管セシメ主任ハ逐日其ノ所製數ニ依リ發售處ニ交付シテ發賣セシムベシ

第五條 徵收スベキ費用ノ印紙ヲ貼用スベキモノニシテ當事者ニ於テ豫納金ヲ納入シアルトキハ豫納金中ヨリ購入貼付スルコトヲ得執行費ニ在リテハ執行所得ノ金額中ヨリ購入貼付スルコトヲ得送達費ハ執達員ニ於テ被送達者ヨリ現金ヲ徵收シ購入貼付スルコトヲ得

第六條 印紙ハ所定ノ用紙又ハ書狀ニ貼付シ隨時關係書類ニ添付スベシ

第七條 案件擔當者ニシテ印紙ヲ貼付セズ又ハ貼付セルモ金額ノ不足ナル書狀ヲ發見シタルトキハ訴訟救助案件ヲ除クノ外貼付又ハ追補貼付スベキ數額ヲ算出シテ證明書ヲ作製シ當事者ニ交付シテ發售處ヨリ購入シ追補貼付セシムベシ

第八條 司法印紙規則第十一條ノ規定ニ依リ返却スベキ印紙ノ價額ハ案件擔當者ニ於テ印紙價額返却證書ヲ作製シ返却金額ヲ記入シテ原納金者ニ交付シ前ニ受領シタル領取證ト共ニ携行シテ發售處ヨリ受領スベシ

發售處ハ前項ノ返却金支拂後ニ受領者ノ領取書ヲ徵

取シ原領收證ニ貼付シテ證據ト爲シ前ニ發給シタル領收證内ニ返却金額ヲ明記シ受領者ニ交付スベシ

第九條 印紙ハ貼付スベキ金額ニ依リ之ヲ發賣ス(例ハ貼付スベキ金額ガ一角、五角又ハ一元ナルトキハ一角、五角又ハ一元ノ印紙ヲ發售シテ貼付セシムベシ)

相當ノ印紙ナキトキハ金額ノ大ナル印紙ヨリ順次發賣シテ貼付セシムベシ(例ハ貼付スベキ金額九十六元八角五分ナルトキハ十元ノ印紙九枚、五元、一元、五角、二角、一角及五分ノ印紙各一枚ヲ發賣シテ貼付セシムベシ)

第十條 印紙ハ該發售處ニ於テ購入貼付シタルモノニ非ザレバ抹消ヲ拒絕スベシ

印紙ニシテ該發售處ノ抹消ヲ經ズシテ機接呈遞シタルトキハ收件處ハ直ニ查明シ發售處ノ流漏ニ係ルトキハ抹消ヲ補行スルノ外其ノ事由ヲ該管長官ニ報告シ審査ヲ受ケタル上之ヲ處置スベシ

第十一條 發售處ノ印紙發賣時間ハ司法機關ノ執務時間ニ同ジ

第十二條 發售處ハ收受シタルトコロノ金錢ヲ發售司法印紙日記簿ニ添ヘ逐日會計主務者ニ送致シ查收ノ上捺印ヲ受クベシ

印紙價額ノ返却等ノ事アリタルトキ印紙價額返却登記簿ニ記入ノ上之ヲ會計主任者ニ送致シ查收ノ上捺印ヲ受クベシ

第十三條 發售處ハ左ノ各簿ヲ備ヘ附クベシ

一 發售司法印紙日記簿

逐日發賣シタル印紙ノ各項司法收入額、印紙ノ種類枚數ヲ記入シ毎日一回決算ス

二 印紙價額返却登記簿

返却シタル印紙原價ノ金額、印紙ノ種類及枚數ヲ記入シ毎月一回決算ス

第十四條 發售處ハ各項費用ノ徵收金額及印紙購入ニ付辦法ヲ夫々表ニ記入シテ揭示シ以テ大衆ノ觀覽ニ供スベシ

第十五條 發售處ハ司法印紙規則第十四條ノ規定ニ

依リ毎月ノ受入及賣殘印紙數ヲ原簿ニ記入シ徵收報告表及返却印紙價額書ト共ニ一括シテ報告スベシ

第十六條 發售處又ハ收受處ノ職員ニシテ左ノ事由ノ一ニ該當スルトキハ該管長官ニ於テ適宜處分シ又ハ申請シテ懲戒ニ附スベシ

一 發賣時間中ニ印紙ヲ發賣セザルトキ

二 貼用シタル印紙ヲ抹消セザルトキ

三 各項帳簿證憑ノ記載ヲ誤リ又ハ報告ヲ遲延シタルトキ

四 本細則第十條ノ規定ニ違反シタルトキ

第十七條 本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ旅行ス附屬證書表様式(省略)

司法狀用紙規則

民國二十七年十一月二十一日司法行政部令

- 第一條 民事又ハ刑事訴訟ニシテ口頭ニ依ルコトヲ得ルモノヲ除ク外ハ司法狀紙ヲ購入使用スルモノトス
- 第二條 司法狀紙ヲ左ノ二種ニ分ツ
 - 一 民事狀
 - 二 刑事狀
- 第三條 司法狀紙ノ費用徵收ハ左ノ規定ニ依ル
 - 一 民事狀 一通ニ付國幣六角
 - 二 刑事狀 一通ニ付國幣三角一角ヲ國幣ノ十分ノ一ト計算シ小銀貨又ハ銅貨ヲ以テ換算スルトキハ各地ノ市價ニ依リ之ヲ定メ收支一律トス
- 第四條 司法狀紙ハ司法行政部ニ於テ製造、編號及捺印シテ配布シ製造又ハ副狀ヲ製造シテ發賣スルコトヲ得ス
- 第五條 狀紙ノ表紙ト狀内用紙ヲ貼合シタル箇所ニハ高等法院ノ官印ヲ押捺シ且末頁ニ發賣機關ノ官印ヲ押捺スベシ
- 第六條 司法狀紙ハ定價ニ依リ發賣スルコトヲ要シ司法行政部ノ認可ヲ經ルニ非ザレバ加減スルコトヲ得ス
- 第七條 司法狀紙ノ發行徵收事項ハ發賣機關ニ於テ職員ヲ派シ管理ス高等法院ニ在リテハ毎月表ヲ作製シ司法行政部ニ報告シテ查收スベシ高等以下ノ司法機關ニ在リテハ毎月表ヲ作製シ所轄高等法院ニ報告シテ其ノ審査ヲ經タル上司法行政部ニ轉報スベシ
- 第八條 狀内用紙不足ノ際ハ出訴人ニ於テ隨意用紙ヲ備へ原狀ノ寸法ニ依リ頁數ヲ增加スルコトヲ得但シ接合箇所ニ出訴人ニ於テ印章又ハ捺印ヲ押捺スベシ
- 第九條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

司法訴狀用紙規則

民國二十七年十一月十一日司法行政部令

第一條 民事又ハ刑事訴訟ニシテ口頭ニ依ルコトヲ得ルモノヲ除ク外ハ司法狀紙ヲ購入用スルモノトス

第二條 司法狀紙ヲ分クシテ

一 民事狀

二 刑事狀

第三條 司法狀紙ノ費用徴收ハ左ノ規定ニ依ル

一 民事狀 一通ニ付國幣六角

二 刑事狀 一通ニ付國幣六角

一角ヲ國幣十分ノ一ト計算シテ銀貨又ハ銅貨ヲ以テ換算スルトキハ各地ノ市價ニ依リ之ヲ定メ收支ス

第四條 司法狀紙ハ司法行政部ニ於テ製造、編號、及捺印シテ配布シ製造又ハ編號ヲ製造シ、發賣スルコトヲ得ス

二四六

第五條 狀紙ノ表紙ト狀内用紙ヲ貼合シタル箇所ニハ高等法院ノ官印ヲ捺捺シ且表頁ニ發售機關ノ官印ヲ捺捺ス

第六條 司法狀紙ハ定價ニ依リ發賣スルコトヲ要シ司法行政部ノ認可ヲ經ルニ非サハ加減スルコトヲ得ス

第七條 司法狀紙ノ發行徵收事項ハ發售機關ニシテ職員ヲ派シ管理シ高等法院ニ在リテハ每月表ヲ有シ司法行政部ニ報告スルコトヲ要ス

第八條 狀内用紙不足ノ際ハ出訴人ニ於テ隨處用紙ヲ備へ原狀ヲ守リ依リ買取ヲ增加スルコトヲ得但シ接合箇所ニ出訴人ニ於テ印章又ハ捺印ヲ捺捺ス

第九條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十編 産業、諸法

鑛業法

民國十九年五月二十六日公布
民國二十一年一月二十三日改正

第一章 總則

第一條 中華民國領域土内ノ鑛物ハ國有トシ本法ニ依リ鑛業權ヲ取得スルニ非ザレハ試掘又ハ探掘ヲ爲スコトヲ得ズ

第二條 本法ニ於テ鑛物ト稱スルハ左記ノ鑛物ヲ謂フ

- | | | |
|--------|--------|--------|
| 金 | 銀 | 銅 |
| 鐵 | 錫 | 鉛 |
| アンチモニー | ニッケル | コバルト |
| 亜鉛 | アルミニウム | 水銀 |
| 銻 | モリブデン | 白金 |
| イリヂウム | クロシウム | ウラニウム |
| タンタル | ラチウム | マグネシウム |
| バナヂウム | カリウム | 硫黃 |

- | | | |
|------|------|-------|
| 煑 | 硝素 | 水晶 |
| 石棉 | 雲母 | 石膏 |
| 岩鹽 | 明礬 | 金剛石 |
| 天然曹達 | 電晶石 | 硝鹼鹽 |
| 礬砂 | 黑鉛 | 綠松石 |
| 弗石 | 耐火粘土 | 滑石 |
| 磁土 | 大理石 | 若土石 |
| 石灰類 | 石油類 | 天然瓦斯類 |
| 礫砂類 | 顔料石類 | 其他 |
- 第三條 試掘探掘及其附屬事業ヲ鑛業トス
 第四條 試掘探掘權ヲ鑛業權トス
 第五條 第二條ニ列舉シタル鑛物ハ第九條ニ定ムル開鑛權及第十條ニ定ムル國家保留區域ヲ除キ中華民國人民本法ニ依リ鑛業權ヲ取得スルコトヲ得但シ所在地ノ縣市政府ハ優先權ヲ有ス
 前項ノ中華民國人ノ經營ニ係ル鑛業力會社組織ナルトキハ株式會社ナル場合ニ限リ外國人ノ株主タルコ

トヲ許可スルコトヲ得但シ左記ノ制限ヲ受クルモノトス

一 會社ノ總株數ノ過半數ハ中華民國人ノ所有タルベシ

二 會社ノ取締役ノ過半數ハ中華民國人民タルベシ

三 會社ノ主席取締役及支配人ノ職ハ中華民國人民ヲ以テ之ニ充ツベシ

第六條 本法ニ依リ鑛業權ヲ取得シ登記ヲ爲シタル地域ヲ鑛區トシ鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地上境界線ノ直下ヲ以テ限リトナスニ箇以上ノ鑛區相隣接スルトキハ其隣接境界ハ少クモ二十「メートル」ノ距離アルコトヲ要ス

第七條 鑛區ノ地表水面積ハ炭鑛ハ十五「ヘクタール」以上五百「ヘクタール」以下トシ其他ノ鑛物ハ二「ヘクタール」以上二百五十「ヘクタール」以下トス河底ニ存在シテ面積ヲ計算スルコト能ハザル砂鑛ハ河身ニ沿ヒテ其長サヲ計算シ「キロメートル」以上五「キロメートル」以下トス

第十條 前條各鑛物及左記各鑛物ハ農鑛部が保留ノ必要アリト認メタル場合一定區域ヲ劃シテ國家ノ保留區域トシ試掘探掘ヲ禁止スルコトヲ得

一 タングステン

二 マンガン

三 アルミニウム

四 アンチモニー

五 ウラニウム

六 ラヂウム

七 放射性ウラン

八 燐

第十一條 第九條及第十條所定ノ各鑛物ヲ發見シタル者ハ直チニ農鑛部ニ報告スベシ農鑛部ハ調査ノ結果其報告者力最初ノ發見者タルコト列明シ且ツ國家ニ於テ探掘ヲ爲シ又ハ國家ノ保留區域ト爲スコトヲ必要ト認メタル場合其報告者ニ發見ニ要シタル實際費用ノ五倍以上ノ獎勵金ヲ交付スベシ

第二章 鑛業權

二四八

前項ノ鑛區面積ノ最大限度ハ特別ノ事情アル場合農鑛部ヨリ部員ヲ派シ又ハ省主管官署ニ命ジ部員ヲ派シテ調査ヲ爲サシメ必要ト認メタルトキハ之ヲ増加スルコトヲ得

第八條 探掘地域ノ面積ガ前條所定ノ最大限度ニ及バザルモノハ小鑛業トス

第九條 鐵鑛、石油鑛、銅鑛及冶金用ニ適スル有煙炭ハ國營トシ國家自ラ試掘探掘ヲ行フコト必要ナキトキハ之ヲ貸貸シテ試掘探掘ヲ爲サシムルコトヲ得但シ貸借人ハ中華民國人ニ限ル

天然瓦斯ニシテ「ヘリウム」「瓦斯」ヲ含ムトキハ政府ハ其天然瓦斯ニ對シテ「ヘリウム」ヲ採取スル權利ヲ保留スルコトヲ得鉄石油銅等ノ鑛產物ハ政府優先買取權ヲ有ス

前項ノ鑛產物ノ外國輸出數量及期限ハ其契約ヲ中央主管機關ニ提出シテ其許可ヲ經ルニ非ザレハ効力ヲ有セズ許可ヲ經タル場合ト雖モ必要ニ依リ制限ヲ加フルコトヲ得

第一節 鑛業權ノ性質ト效力

第十二條 鑛業權ハ物權トシ本法ニ特別ノ規定アル場合ノ外不動産ニ關スル諸法律ノ規定ヲ準用ス

鑛業權ハ物權トシ本法ニ特別ノ規定アル場合ノ外不動産ニ關スル諸法律ノ規定ヲ準用ス

第十三條 鑛業權ハ分割スルコトヲ得ズ

第十四條 鑛業權ハ相續、讓渡、擔保、消滅處分及強制執行ノ目的タルノ外權利ノ目的ト爲スコトヲ得

前項ノ鑛業權ノ抵當ハ探掘權ニ限ル

第十五條 試掘權ノ存續期間ハ二年トス

第十六條 探掘權ノ存續期間ハ二十年ヲ超過スルコトヲ得ズ期限到來シタルトキハ農鑛部ニ出願シ其許可ヲ得テ之ヲ延長スルコトヲ得但シ期間ノ延長ハ二十年ヲ超過スルコトヲ得ズ

第十七條 左記各項ハ農鑛部ニ出願シ其許可ヲ經タル後省主管官署ニ登記スルコトヲ要ス

一 鑛業權ノ設定、變更、移轉

二四九

一 探掘権ヲ抵當トスルトキハ其抵當權ノ設定、變更、移轉
 農務部ハ前項第一號ノ許可ヲ爲ス場合ハ鑛業許可證ヲ下付シ又ハ許可證ニ其旨ヲ記入スベシ

第十九條 左記各事項ハ主管官署ニ登記ヲ爲スベシ
 一 鑛業權ノ消滅及處分ノ制限
 二 探掘權及ニ抵當權ヲ設定シタルトキハ其抵當權ノ消滅及處分ノ制限

第二節 鑛業權ノ設定

第十九條 鑛業權ノ設定出願人ハ願書ニ鑛區圖ヲ添附シ主管官署ヲ經テ農務部ニ許可ヲ出願スベシ探掘權出願ノ場合ハ鑛床説明書ヲ添附スベシ

前項ノ出願ニ關係アル事項ニ就キ主管官署又ハ農務部力必要アリト認メタルトキハ調査員ヲ派遣シ又ハ所管地方官署ニ調査ヲ命ズルコトヲ得

第二十條 前條第一項ノ出願鑛區圖及説明書ハ各一通ヲ作成シ同時ニ所在ノ縣市政府ニ提出スベシ縣市政府ガ報告受領後六月内ニ上級主管官署ニ對シ自ラ

探掘申請ヲ爲サザルトキハ第五條ニ規定スル優先權ヲ放棄シタルモノト看做ス
 縣市政府自ラ探掘ヲ爲ス場合ハ原出願人ニ相當ノ價金ヲ交付スベシ若シ其鑛業權力第四十一條ノ規定ニ依リ取消サレタルトキハ原出願人ハ其ノ鑛業權ヲ優先シテ取得スル權利ヲ有ス

第二十一條 鑛業出願人ノ作成シタル願書、鑛區圖、鑛床説明書不充ナルトキハ主管官署又ハ農務部期限ヲ附シテ訂正又ハ補足ヲ命ズルコトヲ得若シ期限内ニ訂正又ハ補足ヲ爲サザルトキハ其出願ヲ取消スベシ

第二十二條 左記各地域内ニ於テハ鑛業權ノ設定ヲ出願スルコトヲ得ズ
 一 砲臺、要塞、軍港及一切ノ軍用工場ニ關係ヲ有シ禁止區域トシテ指定セラレタル地域内ニシテ所管官署ノ許可ヲ經サル土地
 二 通商市場ノ境界ヲ距ルコト「一キロメートル」以内ニシテ所管官署ノ許可ヲ經サル土地

三 國有又ハ公有建築物、國界地、鐵道、公用道路、重要水利地及移轉不可能ナル著名ノ古跡等ノ境界ヲ距ルコト百五十「メートル」以内ニシテ所管官署又ハ所有者及占有者ノ許可ヲ經サル土地

第二十三條 鑛業出願人ハ鑛業出願地ノ増減ヲ出願スルコトヲ得

第二十四條 農務部又ハ主管官署ハ試掘出願地カ探掘ニ適スルモノト認メタル場合附シ出願地ニ探掘出願ヲ爲スコトヲ命ズルコトヲ得若シ期限迄ニ探掘ノ出願ヲ許サザルトキハ試掘出願ヲ取消シ第三者ノ探掘出願ヲ許可スルコトヲ得

農務部又ハ主管官署ハ探掘出願地ニ對シ引續キ試掘ヲ爲スコトヲ要スト認メタル場合前項ノ規定ヲ準用ス

第二十五條 二以上ノ鑛業出願地相重複シ鑛物同種ナルトキハ其重複部分ハ主管官署ニ對シ先ニ出願シタル者優先シテ鑛業權ヲ取得ス

前項出願ノ願書到達月日相同シキトキハ主管官署ハ期限ヲ附シ各出願人ニ協議ノ上出願ヲ爲スベキコトヲ命ジ協議調ハザルトキハ主管官署抽籤ヲ以テ優先權者ヲ決定ス

第二十六條 試掘出願地ト探掘出願地ト重複シ出願同時ニシテ且鑛物同種ナルトキハ其ノ重複部分ノ探掘出願人ニ於テ鑛業權取得ノ優先權ヲ有ス

第二十七條 試掘出願人ガ同種ノ鑛物ニ對シ更ニ探掘ヲ出願シ其出願地ガ他人ノ探掘出願地ト重複セル場合ハ其試掘出願者到達ノ日ヲ探掘出願者達ノ日ト看做ス

第二十八條 試掘出願地ガ他人ノ鑛區ト重複シ鑛物同種ナルトキハ其重複部分ハ許可スルコトヲ得ズ

第二十九條 探掘出願地ガ他人ノ鑛區ト重複シ鑛物同種ナルトキハ其重複部分ハ許可スルコトヲ得ズ但シ第三十八條ノ事由アル場合ハ此限りニ在ラズ

第三十條 試掘出願地ニ就テ他人ガ更ニ探掘ノ出願ヲ爲シ且鑛物同種ナルトキハ他人ノ探掘出願ト重複

セル部分ニ就テハ第二十四條第一項ノ規定ヲ準用ス
 第三十一條 鑛業出願地ガ他人ノ鑛業出願地又ハ他人ノ鑛區ト相重疊シ鑛物異ナル場合主管官署ハ先ニ出願者又ハ鑛業権者ニ通知スベシ
 先ノ出願者又ハ鑛業権者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日より九十日以内鑛業権ヲ取得スル優先権ヲ有ス
 前項ノ規定ノ第三十八條ノ場合ニ於テ鑛業権者ノ承諾ヲ得タルトキハ之ヲ適用セズ
 第三十二條 試掘権者ハ試掘期間ノ満了後三十日以内ニ其ノ地域内ノ同種ノ鑛物ニ對シ鑛業権取得ノ優先権ヲ有ス
 第三十三條 鑛業出願地ノ位置形狀ト鑛床ノ位置形狀ト合致セズ鑛利ヲ損スルトキハ農務部又ハ省主管官署ハ期限ヲ附シ出願人ニ更正ヲ命ズルコトヲ得期限迄ニ更正ヲ申請セザルトキハ其出願ヲ取消ス
 前項ノ場合出願人ニ於テ自ラ更正ヲ申請スルコトヲ得
 第三十四條 農務部分又ハ省主管官署ハ鑛業出願地ガ

ニ掘進スル必要アルトキハ隣接鑛業権者ト協議ノ上シテ其ノ承諾書ヲ取得シ鑛床圖及説明書ヲ添附シテ省主管官署ヲ經テ部ニ鑛區ノ増改ヲ出願スベシ
 前項ノ事由ニ因リ隣接鑛業権者ト協議スル場合隣接鑛業権者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒絕スルコトヲ得ズ
 第三十九條 鑛業権者鑛區外ニ於テ排水通氣及運送ノ爲坑道ヲ掘鑿シタルニ因リ鑛物ヲ發見シタルトキ又ハ鑛區内ノ同一鑛床中ニ於テ異種ノ鑛物ヲ發見シタルトキハ直ニ省主管官署ヲ經由シテ農務部ニ報告スベシ
 省主管官署ハ前項鑛區外發見鑛物ニシテ採掘ノ價値アリ且單獨ニ採掘スルコトヲ得ザルモノト認メタルトキハ期限ヲ附シ該鑛業権者ニ増區ヲ命ズルコトヲ得
 第四十條 鑛業権ガ移轉スルトキハ移轉前其鑛業権者カ鑛業権ニ關シテ有シタル一切ノ權利義務亦之ニ

隨ヒテ移轉ス
 第四節 鑛業権消滅
 第四十一條 鑛業権ハ左記事由ノ一アルトキハ之ヲ取消ス
 一 登記後不可抗力ノ故障ナクシテ二年内ニ採掘ニ着手セザルトキ又ハ一年以上作業ヲ停止シタルトキ
 二 鑛業権者外國人ニ移轉又ハ抵當ニ供シタルトキ
 三 鑛業公益ヲ害シ除害ノ方法ナキトキ
 四 正當ノ理由ナクシテ二期以上鑛業稅ヲ納入セザルトキ
 五 正當ノ理由ナクシテ第三十五條及三十七條ノ規定ニ依ル鑛區ノ訂正ヲ許サザルトキ
 第四十二條 鑛業権ノ處分ガ制限ヲ受ケタルトキハ廢業スルコトヲ得ズ
 第四十三條 鑛業権者ハ採掘権ガ取消サレ又ハ自ラ廢業ヲ爲シタルトキハ一年以内ニ限リ鑛業財産ヲ處分スルコトヲ得但シ特別ノ事由アリ且鑛利ヲ害セザルトキ

ハ農債部ニ一年ノ期間延長許可ノ申請ヲナスコトヲ得

第五節 國營鑛業

第四十四條 探掘權者ガ探掘權ヲ抵當ニ供セントスルトキハ願書ニ抵當權設定契約書ヲ添附シ省主管官署ヲ經由シテ農債部ニ許可ヲ出願スベシ

第四十五條 抵當權設定後探掘權者ニ於テ鑛區ノ分割、合併、減少又ハ増加ヲ爲サントスルトキハ抵當權者ノ承諾ヲ經ルコトヲ要ス

第四十六條 滿期ニ因ル探掘權ノ消滅ハ抵當權ノ拘束ヲ受ズ

第四十七條 省主管官署ハ抵當權ヲ設定シタル探掘權ニ關シ取消又ハ廢棄ノ登記ヲナストキハ直チニ抵當權者ニ通知スベシ

第四十八條 省主管官署ハ通甲ヲ受ケタル後六十日以内ニ該鑛業權ノ競賣ヲ申請スルコトヲ得但シ第四十一條第三號ニ依リ取消シタルトキハ競賣ヲ申請スルコトヲ得ズ

探掘權ハ前項ノ所定期間内及競賣手續完了ノ日迄競賣目的ノ範圍内ニ於テ存續スルモノト看做ス

前項鑛業權、競落ノ探掘權ハ原探掘權消滅登記ノ日ヨリ承繼シタルモノト看做ス

第三章 國營鑛業

第四十八條 國營鑛業ハ農債部ニ於テ管理ス

第四十九條 國營鑛業ハ農債部ニ於テ其鑛區ヲ劃定シテ國營鑛業權ヲ設定シ行政院ニ報告並ニ鑛區所在地ノ主管官署ヲシテ登記ヲナシタルコトヲ要ス

第五十條 國營鑛業ニ於テ國家ガ探掘又ハ探掘セムトスルトキハ會社組織トシ私人ノ加入ヲ許可スルコトヲ得但シ外國人ノ加入スル場合ハ第五條第一項ノ規定ヲ適用ス

第五十一條 國營鑛業權ヲ貸貸セントスルトキハ其ノ條件ハ農債部ト貸借人トノ契約ヲ以テ之ヲ定ム

ノ最低投資額ヲ定ムルコトヲ要ス

第五十二條 國營鑛業權ヲ私人ニ貸貸ヲ許可セザル以前ニ於テハ同條件ノ下ニ所管地方政府ハ貸借ノ優先權ヲ有ス出願人私人ナルトキハ農債部ニ對シ出願ノ先ナル者貸借ノ優先權ヲ有ス

第五十三條 國營鑛業權貸借人ハ貸借セル國營鑛業權ヲ轉貸若クハ抵當、典質ニ借シ又ハ讓渡スルコトヲ得ズ

第五十四條 國營鑛業權ノ貸借期間ハ二十年以内トシ期間満了後國家ガ自營ノ爲之ヲ回收セザル限り貸借人ハ繼續貸借ノ優先權ヲ有ス

第五十五條 貸借人ハ左記ノ規定ニ依リ毎年貸借料ヲ納入スベシ

一 純利益ガ拂込資本ノ一割以下ナルトキハ貸借料ヲ免除ス

二 純利益ガ拂込資本ノ一割以上三割五分以下ナルトキハ超過部分ノ五割ヲ貸借料トシテ納入スベシ

三 純利益ガ拂込資本ノ三割五分ヲ超過シタルトキハ三割五分迄ハ前項ノ規定ニ依リ、三割五分ヲ超

過シタル部分ニ就テハ七割五分ヲ貸借料トシテ納入スベシ

第五十六條 貸借期間満了シ國家カ回收シテ自營スルトキハ貸借人ガ鑛業上ニ使用シタル財産又ハ設備ハ公平ナル評價ヲ以テ之ヲ買收スベシ貸借期間満了スルモ、國家カ回收ヲ必要トセザルトキハ原貸借人ニ繼續シテ貸借契約ヲ締結スルコトヲ許可ス

第五十七條 貸借人ニ左記事由ノ一アル場合ハ其ノ貸借契約ヲ取消ス

一 第五十三條ノ規定ニ違反シタルトキ

二 期間内ニ貸借料ヲ納入セザルトキ

三 貸借後三年内ニ正當ノ理由ナクシテ鑛場ノ設備ヲ爲ササルトキ

四 貸借後二年内ニ正當ノ理由ナリ探掘ニ着手セズ又ハ中途一年以上作業ヲ停止シタルトキ

第五十八條 前條各號ノ事由ニ依リ貸借契約ヲ取消シタルトキハ原貸借人ノ所有ニ係ル鑛業上ノ附屬財産及一切ノ設備ハ保安ノ範圍ニ屬スルモノ又ハ國

家ニ於テ買取スルモノヲ除キ半年以内ニ之ヲ移轉スベシ但シ特別ノ事由ニ因リ農務部ノ許可ヲ得タル場合ハコノ限ニ在ラズ

第五十八條 第十四條第十五條第十六條第四十一條及第四十三條ノ規定ハ國營鑛業ニ適用セズ

第四章 小鑛業

第五十九條 小鑛業權ハ左記各款ノ事由ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ設定スルコトヲ得

- 一 交通不便ナル地方ニシテ當該主管官署ヲ農務部ニ申請シテ許可ヲ得テ小鑛業區域ト定メタルトキ
- 二 鑛業費額ニシテ大規模鑛業ノ價值ナキトキ
- 三 鑛業ノ發達セザル區域ニシテ其鑛產物ヲ該地方ニ於テ需要スルトキ

前項第一號ノ小鑛業區域ハ省主管官署ノ申請アルトキ又ハ農務部ニ於テ必要ト認ムルトキハ之ヲ取消スコトヲ得

第六十條 小鑛業權ハ探掘權ニ限ルモノトス

第六十一條 小鑛業ニハ外國資本ヲ加入セシムルコトヲ得ズ

第六十二條 小鑛業權ハ十年間存続ス期間満了後續利ニ害ナキトキハ五年ノ延期ヲ出願スルコトヲ得但シ第五十九條第一項第一號又ハ第三號ニ規定スル事由消滅シタルトキハ延期スルコトヲ得ズ

小鑛業ノ存在ハ鑛業權ノ出願ヲ妨ケルコトヲ得ズ但シ出願區域カ小鑛區ト重疊スルトキハ小鑛業權者ニ對シ小鑛業權ノ許可期間内ニ於ケル探掘ノ繼續ヲ許可スベシ但シ期間満了後ハ再延期スルコトヲ得ズ

第六十三條 小鑛業權ノ設定出願人ハ願書ニ鑛區圖ヲ添附シテ省主管官署ニ出願スベシ主管官署之ヲ許可シタルトキハ登記ノ上小鑛業許可證ヲ下付スベシ但シ農務部ニ報告スルコトヲ要ス

前項ノ小鑛業許可證ハ農務部ヨリ豫メ省主管官署ニ配付ス

第六十四條 農務部ハ前條ノ許可ガ第五十九條ノ規則ニ違反スルモノト認メタルトキハ之ヲ取消スコトヲ得

第六十五條 小鑛業權者カ期間内又ハ期間満了六月以内ニ第三十六條ノ規定ニ依リ各小鑛業區ノ合併ヲ出願スルトキハ鑛業權取得ノ優先權ヲ有ス

第六十六條 第九條第十五條第十六條第九十五條第九十八條九十九條及第一百一條ノ規定ハ之ヲ小鑛業ニ適用セズ

第五章 土地使甲

第六十七條 鑛業ニ實際使用スル地面ヲ使甲土地トス

第六十八條 探掘者鑛業出願人又ハ鑛業權者ハ必要ノ場合他人ノ土地ニ於テ測量又ハ調査等ヲ爲スコトヲ得但シ所在地地方官署ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

前項ノ許可ヲ得テ測量又ハ調査ヲ行フトキハ豫メ土地占有者ニ通知スルコトヲ要ス

第六十九條 測量及調査ノ爲障礙物ヲ除去スル必要アルトキハ土地所有者又ハ土地占有者ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス前項ノ承諾ヲ得ルコト能ハザルトキハ所在

地ノ地方官署ニ障礙物除去ノ許可ヲ申請シ同時ニ土地所有者又ハ土地占有者ニ通知スベシ

第七十條 鑛業權者ハ鑛業上緊急ノ危險ヲ防禦スル爲他人ノ土地ニ立入り又ハ之ヲ使用スルコトヲ得但シ遲滞ナク所在地地方官署ニ届出ア且土地所有者又ハ土地占有者ニ通知スベシ

第七十一條 前三條ニ依リ土地所有者又ハ土地占有者カ損害ヲ受ケタルトキハ探掘者鑛業出願人又ハ鑛業權者ハ相當ノ賠償金ヲ交付スベシ

第七十二條 鑛業權者ガ鑛業上就人ノ土地ヲ使用スル必要アル場合ニ於テ二十四時間以内ニシテ且土地及其附屬物ヲ害セザルトキハ一日前ニ使用目的ヲ土地所有者又ハ土地占有者ニ通知スルコトヲ得土地所有者又ハ土地占有者ハ正當ノ理由アルニ非ザレハ之ヲ拒絶スルコトヲ得ズ

第七十三條 鑛業權者ハ左記各款ノ一ニ因リ必要アルトキハ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得

- 一 炭坑及坑道ノ開鑿

二五八

二 鑛物、土石、燐後藥、薪炭、鑛滓、灰燼又ハ一切ノ鑛業用材料ノ堆積

三 鑛業關係ノ工場倉庫其他必要家屋建築

四 鐵道軌道、道路、運河、水道、汽管、溝渠、池井、索道又ハ電線等ノ設置

五 其他鑛業上必要ナル各種工事又ハ工作物ノ施設

第七十四條 前條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ヲ使用セントスルトキハ省主管官署ノ許可ヲ經テ施工計畫圖及説明書ヲ省主管官署ニ提出シ其ノ審査ヲ受クベシ省主管官署ハ前項ノ許可ヲ爲シタルトキハ直チニ之ヲ公告シ且土地所有者及關係者ニ通知スルコトヲ要ス

前項ノ公告又ハ通知ノ後鑛業權者ハ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲メ土地所有者及關係者ト協議スルコトヲ要ス第一項ノ規定ニ於テ其土地カ公有地ナルトキハ省主管官署ハ許可前ニ該土地主管者ノ同意ヲ求ムルコトヲ要ス

第七十二條ニ規定スル各地域及地方ノ公共事業ノ必要トスル地域ニシテ省主管官署ニ於テ鑛業用地ト爲スベカラスト認メタルトキハ許可スルコトヲ得ズ

第七十五條 鑛業權者ハ鑛區内ノ土地カ自己ノ鑛業ニ使用ノ必要アル場合ノ外正當ノ理由ナクシテ隣接鑛業權者ノ鑛業上必要トスル使用ヲ阻止スルコトヲ得ズ

第七十六條 鑛業權移轉スルトキハ鑛地使用ノ權利義務亦之ニ從ヒ移轉ス鑛業權ヲ喪失スルトキハ土地使用者ノ權利ヲ喪失スルモノトス

第七十七條 鑛業權者カ他人ノ土地ヲ使用スルトキハ土地所有者及關係者ニ相當ノ價金ヲ支拂フコトヲ要ス

第七十八條 土地ノ使用三年以上ヲ要シ又ハ使用ニ因リ性質ヲ變ズベキ場合ハ鑛業權者ハ土地所有者ト協議シ又ハ土地所有者ノ請求ニ依リ相當ノ價金ヲ支拂フベシ但シ鑛業ヲ廢止シ又ハ使用ヲ完了シタルトキハ土地ノ原土地所有者ニ返還スルコトヲ要ス

第七十九條 鑛業上ノ作業ノ爲メ用地又ハ鑛區以外ノ土地

二五九

地價格ノ低減其ノ他ノ損失ヲ生ジタルトキハ鑛業權者ハ土地所有者及關係者ニ相當ノ價金ヲ支拂フコトヲ要ス但シ其土地カ從來ノ效用ヲ失フトキハ前條ノ規定ヲ準用ス

第八十條 使用土地ニ於テ道路、溝渠、溝渠其ノ他ノ工作物ノ増築又ハ改修ヲ必要トスル場合ハ第七十八條ノ規定ニ依リ一時價金ノ支拂ノ外鑛業權者ハ土地所有者及關係者ニ相當ノ價金ヲ支拂フコトヲ要ス

第八十一條 二人以上ノ鑛業權者カ共同シテ地面及附屬物ニ損害及ボシタルトキハ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ズ何レガ損害ヲ及ボシタルリヤ證明スルコト能ハザルトキ亦同シ

第八十二條 第七十四條第二項ノ公告又ハ通知ノ經タル後土地所有者及關係者ニシテ其ノ土地ノ性質ヲ變更シ又ハ新築、改築、大修繕其ノ他工事ヲ施行セントスルトキハ省主管官署ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス許可ヲ得ザル場合ハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ノ工事ニシテ鑛業ノ性質ト相容レズ又ハ建築ニ損害ナク鑛利ヲ損スルコト甚ダシキトキハ鑛業權者ハ省主管官署ニ施工ノ禁止ヲ申請スルコトヲ得

第八十三條 土地所有者ガ損害賠償ノ請求ヲ提出シ又ハ土地ニ損害ヲ受ケタルコトヲ明シ知リタル後故意ニ建築ニ着手シタルトキハ建築物ニ損害アルモ賠償ヲ請求スルコトヲ得ズ

土地所有者ガ土地ニ顯著ナル危險アルニ拘ハラズ注意ヲ怠リ建築ヲ爲シタル場合亦前項ノ規定ヲ適用ス

第八十四條 第七十四條第二項ノ公告又ハ通知ヲ經タル後鑛業ノ廢止又ハ變更アリタル場合鑛業權者ハ土地所有者又ハ關係者ガ之ニ因リ受ケタル損害ニ對シ相當ノ價金ヲ支拂フコトヲ要ス

第八十五條 土地所有者及關係者ハ價金ニ就キ鑛業權者ニ對シ相當ナル擔保ノ提供ヲ要求スルコトヲ得

第八十六條 鑛業權者カ價金ヲ支拂ハズ又ハ擔保ヲ提供セザルトキハ土地所有者及關係者ハ其ノ使用ヲ拒絕スルコトヲ得

第八十七條 土地ノ權利ハ使用期間中ハ礦業權者ニ歸シ其ノ他既ニ設定セラレタル權利亦停止スルモノトス但シ使用ニ妨ゲナキトキハ此ノ限リニ在ラス

第八十八條 土地ノ使用ヲ經テシタルトキハ礦業權者ハ其土地ヲ原狀ニ恢復シ土地所有者ニ返還スルコトヲ要ス

原狀ニ恢復スルコト能ハザル爲生ジタル損害ニ對シテハ第七十八條ノ規定ニ依リ償金ヲ支拂フ外土地所有者ニ相當ノ償金ヲ支拂フコトヲ要ス

第八十九條 土地使用ニ關スル規定ハ水ノ使用ニ之ヲ準用ス

第九十條 本章中礦業權者ニ關スル規定ハ國營礦業權ノ賃借人ニ準用ス

第六章 礦業稅

第九十一條 礦業稅ハ左記ニ分テ礦業權者之ヲ納入スベシ

一 礦區稅

二 礦產稅

二六〇

國營礦業權ヲ賃貸スルトキハ前項ノ礦業稅ハ賃借人之ヲ納入スベシ

第九十二條 礦區稅ハ地稅以外ノ稅トス其稅率左ノ如シ

一 試掘礦區ハ「アール」ニ付年額國幣一分八厘ニ在ル砂礦ハ河道十「メートル」ニ付年額國幣一分トス

二 探掘礦區ハ「アール」又ハ河道ノ長サ十「メートル」ニ付事業開始後五年内ハ年額國幣二分六厘ヨリ以降ハ年額國幣五分トス

探掘權者カ坑夫ノ罷業其他ノ不可抗力ニ因リ作業ヲ繼續スルコト能ハザルコト二月以上ニ及ブトキハ作業不能期間ニ於ケル礦區稅ノ免除ヲ申請スルコトヲ得

第九十三條 礦產稅ハ礦產物價格ノ百分ノ二乃至百分ノ三トス

前項ノ礦產物價格ハ產出地附近市場ノ平均市價ヲ指トス

準トシ實業、財政内部ニ於テ省主管署ノ報告ニ依リ之ヲ定ム

第九十四條 礦區稅ハ毎年一月七月ノ二期ニ分テ納シ礦產稅ハ實際產額ニ依リ市價ヲ概算シ毎月之ヲ納入スベシ

前項ノ毎月納入スル礦產稅ハ平均市價査定後毎年清算シテ年末之ヲ納入スベシ

第七章 礦業監督

第九十五條 農礦部又ハ省主管署ニ於テ必要ト認ムルトキハ探掘權者命シ施工計畫書及作業報告書ヲ提出セシムルコトヲ得

前項提出ノ施工計畫書及作業報告書ハ農礦部又ハ省主管署ニ於テ變更ノ必要アリト認ムルトキハ礦業權者ニ命ジ之ヲ變更セシムルコトヲ得

第九十六條 農礦部又ハ省主管署ニ於テ礦業作業ニ對シ危險又ハ公益ヲ害スルモノト認メタルトキハ礦業權者ニ命ジテ豫防方法ヲ講セシメ又ハ作業ヲ中止セシムルコトヲ得

第九十七條 礦業權消滅後一年以内ニ農礦部又ハ省主管署ニ於テ必要ト認ムルトキハ舊礦業權者命シ危險豫防ノ設備ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十八條 探掘權者ハ礦業事務所ニ坑内實測圖及礦業簿ヲ備ヘ其ノ副本ヲ作成シテ省主管署ニ提出スベシ

第九十九條 礦業權者ハ毎年一月全年ノ礦業狀況明細表ヲ作成シ農礦部及省主管署ニ提出スベシ

第一百條 試掘ノ時取得シタル礦物ハ省主管署ノ許可ヲ經ルニ非ザレハ賣却スルコトヲ得ズ

第一百一條 礦業權者ノ使用スル主要技術員ハ技術員登記法ニ依リ合格登記シタル者ノ中ヨリ之ヲ選任ベシ前項ノ技術員ニシテ不合格ノ者又ハ其ノ任ニ堪ヘザル者アルトキハ農礦部又ハ省主管署ハ其ノ改任ヲ命ズルコトヲ得

第一百二條 農礦部ハ各礦山ノ礦業ヲ監察スル爲礦業繁盛ノ區域又ハ重要礦山ニ礦業監察員ヲ置クコトヲ得

二六一

得

鑛業監察員規定ハ農礦部ニ於テ部令ヲ以テ之ヲ定ム

第百三條 鑛業權者事故ノ爲隣接鑛區ヲ調査スル必要アルトキハ農礦部又ハ省主管官署ニ對シ係員ノ派遣ヲ申請シ各鑛業權者ト共同シテ實地調査ヲナスコトヲ得

前項ノ規定ハ其ノ他ノ利害關係者ニ之ヲ適用ス

第百四條 農礦部又ハ省主管官署方職權ヲ以テ又ハ鑛業出願者若ハ鑛業權者ノ申請ニ依リ鑛業出願地又ハ鑛區ニ係員ヲ派遣スルトキハ其費用ハ其出願者又ハ鑛業權者ノ負擔トス

第百五條 專門學校以上ノ鑛科學生ニシテ鑛山ニ於ケル實習ヲ希望農礦部又ハ省主管官署ノ通知ヲ受ケタルトキハ鑛業權者ハ故ナク之ヲ拒絕スルコトヲ得ズ

實習規則ハ農礦部之ヲ定ム

第百六條 省主管官署ハ毎年所管内ノ鑛區面積、鑛物ノ種類、産額、鑛稅收入ヲ分別調査シ詳細ナル統計

二六二

計表ヲ作成シ四月以前ニ實業部ニ割一提出スベシ

第百七條 本章ノ鑛業權者ニ關スル規定ハ國營鑛業權者ノ貸與人ニ之ヲ適用ス

第八章 罰 則

第百八條 左記行爲ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ有期徒利又ハ三千元以下ノ罰金ニ處ス

一 詐術ヲ以テ鑛業權ヲ取得シ又ハ違法採鑛ヲ爲シタルトキ

二 第四十一條第二號ノ行爲アリタルトキ

第百九條 左記行爲ニ該當スル者ハ二千元以下ノ罰金ニ處シ其ノ契約ハ無効トス

一 鑛業權ヲ私ニ貸貸シ又ハ入賃ニ供シタルトキ

二 許可ヲ得ズシテ鑛業權ヲ讓渡シ又ハ抵當ニ供シタルトキ

第百十條 鑛區以外ニ於テ採鑛シタル者ハ一千元以下ノ罰金ニ處ス

第百十一條 前條及第百八條第一號ノ行爲アル者ハ其

權ノ貸與人ニ之ヲ適用ス

第九章 附 則

第百十九條 本法施行前既ニ鑛業權ヲ取得シタル者ハ本法ニ依リ鑛業權ヲ取得シタルモノト看做ス但シ其ノ期間ガ本法所定ノ期間ニ比シ短期ナルトキハ原則

同ニ依ル

第百二十條 本法ノ施行細則ハ農礦部之ヲ定ム

第百二十一條 本法ノ施行期日ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

二六三

ノ採掘シタル鑛產物ヲ沒收シ既ニ賣却シタルトキ又ハ自ラ使用シタルトキハ其相當代價ヲ追徴ス

第百十二條 第二十二條ノ規定ニ違反シ又ハ第九十六條及第九十七條ノ命令ニ從ハザル者ハ五百元以下ノ罰金ニ處ス

第百十三條 第九十五條第二項第百條及第百一條ノ規定ニ違反シタル者ハ二百元以下ノ罰金ニ處ス

第百十四條 第六十九條ノ規定ニ違反シタル者ハ百元以下ノ罰金ニ處ス

第百十五條 所轄官吏タル業ニ關スル帳簿又ハ物件ノ検査ヲ拒絕又ハ妨礙シタル者ハ五十元以下ノ罰金ニ處ス

第百十六條 脱稅者ハ納稅額ノ二倍以上五倍以下ノ罰金ニ處ス

第百十七條 鑛業權者ハ其代理人雇傭者又ハ其他ノ從業者ガ業務上本法ニ違反シタル者ハ其自己ノ意思ニ出テザルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免カレコトヲ得ズ

第百十八條 本章ノ鑛業權者ニ關スル規定ハ國營鑛業

鑛業法施行細則

民國十九年十二月十四日部令

- 第一條 中華民國領域内ノ鑛物ニシテ鑛業法第二條ニ列挙セザルモノニ鑛業法ヲ適用セントスルトキハ農鑛部ヨリ國民政府ニ申請シ國民政府之ヲ指定ス
- 第二條 中華民國人二人以上共同シテ探鑛ヲ出願スルトキ未ダ會社ヲ組織セザルトキハ先ツ會社ノ名稱及定款ヲ制定シ代表者ヲ定メ全員ノ連署ヲ以テ出願シ鑛業權取得後會社法ニ依リ登記ヲ申請スベシ但シ二人以上共同シテ探鑛又ハ小鑛業ノ出願ニ付テハスルトキ未ダ公司ノ會社ヲ組織セザルトキハ合併契約ヲ締結シ代表者ヲ定メ共同者全員ノ連署ヲ以テ出願スルトキ要ス出願人ノ變更鑛業權ノ設定移轉其他ノ重要事項ノ申請ニ關シテハ共同者ノ三分ノ二以上連署又ハ全員ノ決議書ヲ添附スベシ
- 第三條 鑛業法第五條第二項ノ規定ニ依リ會社ヲ組織シテ外國人ノ株主タルコトヲ認容スルトキハ其發行スル株券ハ記名式トシ且同項ニ列挙セル規定ハ會社ノ定款内ニ各別ニ明記スベシ既存ノ内外人合辦會社ノ定款前項ノ規定ニ適合セザルトキハ出願ニ先テ之ヲ改正スベシ
- 第四條 鑛區ノ形狀ハ整齊ナルコトヲ要シ且左記各款ノ制限ヲ受ケルモノトス
 - 一 全區ノ面積ハ中間ニ空曠アリ又ハ數箇所ニ分離スルコトヲ得ズ
 - 二 鑛床ノ露頭ニ就キ區劃ヲ定メ狹長ニ失シ又ハ彎曲セル地面ナルコトヲ得ズ
 - 三 鑛業出願地ノ面積カ鑛業法第七條ニ定ムル限度ヲ超過スルトキハ願書ニ其必要ナル事由ヲ記載スベシ
- 第五條 鑛業法第六條第三項ニ定ムル隣接鑛區ノ間隔内ノ鑛物ニシテ鑛利ヲ保護スル爲ニ試鑛又ハ探鑛ヲ出願スル必要アルトキハ鑛業出願人ハ鑛業權者ト協議ノ上協定書類ヲ添附シテ省主管官署ヲ經テ農鑛部ニ其ノ査定ヲ申請スベシ

- 第七條 同一地域内ニ於テ鑛床ヲ異ニスル各種ノ鑛物ノ試探探掘ヲ出願セントスルトキハ各種ノ鑛物ニ就キ各別ニ出願スベシ但シ各種鑛物方同一鑛床ニ在ルトキハ併せて一鑛業トシテ出願スルコトヲ得
- 第八條 試鑛製造スルニ通ゼズ又ハ製造スル試鑛炭冶金ニ通ゼズル有價炭ニ對シテ鑛業權ノ設定ヲ出願セントスルトキハ試鑛物及其分析表ヲ添附シテ農鑛部ノ檢定ヲ受ケルベシ
- 第九條 前項ノ規定ニ依リ鑛業權ヲ取得シタル後地質關係ニ因リ鑛區内ニ於テ冶金ニ通スル有價炭ヲ發見シ且埋藏量豐富ナルトキハ既ニ設定シタル鑛業權ノ期間滿了後之ヲ延長スルコトヲ要ス農鑛部ニ於テ國營鑛業權ヲ設定シ原鑛業權者ノ鑛業ニ使用シタル財産又ハ設備ヲ公平ニ評價シテ之ヲ買收スルコトヲ得但シ國家自ラ試掘又ハ探掘ヲ行フ必得ナキトキハ原鑛業權者ハ從前ノ條件ニテ賃借ノ優先權ヲ有シ鑛業法第五十二條ノ拘束ヲ受ケザルモノトス
- 第十條 其鑛物ノ鑛業權ヲ取得シタル後鑛業ノ符合セザルコトヲ發見シタルトキハ鑛物名稱ノ變更又ハ増補ヲ申請スベシ
- 第十一條 前項ノ規定ハ鑛業出願人ニ之ヲ通用ス
- 第十二條 鑛業法第九條第四項ノ許可ハ農鑛部之ヲ行ヒ其ノ試鑛等ノ鑛石ノ輸出ハ之ヲ制限シ必要アルトキハ適宜輸出稅ヲ增加スルコトヲ得
- 第十三條 農鑛部ガ鑛業法第十條ニ依リ國家保留區ヲ劃定スルトキハ鑛物及區域ヲ指定シ省主管官署ニ命ジテ所在地ノ縣市政府ニ轉令シ各別ニ公告セシムベシ
- 第十四條 前項ノ區域内ニ於ケル未指定ノ鑛物ハ法規ニ依リ試掘探掘ノ出願ヲ許可ス
- 第十五條 既ニ劃定シタル保留區域ト雖モ農鑛部ガ狀態ノ變遷ニ因リ保留ノ必要ナシト認メタルトキハ禁止ヲ解除スルコトヲ得
- 第十六條 鑛業法第九條第十條ニ定ムル鑛物發見ノ届出アリタルトキハ該鑛物が未ダ届出又ハ出願ナク又ハ地質調査機關ニ依リテ調査セラレズ其他書籍

ニ記載セラレザルモノナキトキハ既ニ探掘セルト否
トニ拘ラズ届出人ヲ該礦發見者ト看做ス但シ發見日
時發見經過及該礦發見ノ實情ヲ報告シ並ニ發見シタ
ル礦物ヲ添付スベシ發見人ガ礦物探査中ノ生活費亦
前項ノ實費ニ加算スルコトヲ得
發見届出ノ礦物ガ第一項ノ規定ニ合致シ農礦部ニ於
テ國家自ラ試掘若クハ探掘ヲ行ヒ又ハ國家ノ保留區
トナスノ必要ナシト認ムルトキハ賃借人又ハ礦業權
者ヨリ發見者ニ對シ礦業法第十一條ニ規定スル獎勵
金ヲ與フベシ
第十四條 礦業法第五條ニ規定スル縣市政府ノ優先
權ハ縣市ノ自治完成ノ前後ニ從ヒ順次之ヲ行使セシ
ム
第十五條 礦業法第三十一條第三十二條及第六十五
條ノ優先權ハ同法第五條ノ優先權ヲ拘束ス受ケズ
第十六條 礦業法第五條ニ定ムル縣市政府ノ優先權
ハ同法第二十條ノ規定ニ依リ之ヲ抽塞シタルモノト
看做シタル後ハ再ビ優先權ノ主張ヲナスコトヲ得ズ

第十七條 礦業權設定届出人ハ礦業法第二十條ノ規
定ニ依リ所在地ノ縣市政府ニ提出シタル申請書ノ受
領證ヲ省主管官署ニ送付スベシ縣市政府ガ申請書ヲ
受領シタル日ヨリ六月以内ニ省主管官署ニ該礦ノ探
掘ヲ出願セザルトキハ原出願書類ヲ農礦部ニ送付ス
ベシ
第十八條 縣市政府ガ礦業法第二十條ノ規定ニ依ル
申請書ヲ受領シタル後六月以内ニ該礦ノ探掘ヲ出願
シタルトキハ原出願人ニ對シ價金ヲ與フベシ爭アル
トキハ省主管官署之ヲ裁決ス
第十九條 縣市政府ガ前條ノ事情ニ依リ礦業權ヲ取
得シタル後該礦業權ガ取消サレタルトキハ礦業法第四
十一條第三號ノ事由ニ因リ取消サレタル場合ヲ除ク
ノ外省主管官署ハ直チニ原出願人ニ通知スベシ
原出願人ガ前項ノ通知書到着後六月以内又ハ通知ノ
方法ナキ爲公告ヲ爲シタル後六月以内ニ省主管官署
ニ出願シ復活ヲ申請セザルトキハ他人ヲシテ法規ニ
從ヒ出願セシムルコトヲ得

第二十條 礦業法第二十五條第二項ノ規定ニ依リ抽
掘ヲ以テ優先權ヲ決定スルトキハ抽掘日ヲ豫定シ十
五日以前ニ各礦業出願人ニ通知シ之ニ出願シテ自ラ
抽掘ヲ行ハシムベシ礦業出願人ガ抽掘日ニ出願セザ
ルトキハ省主管官署長官ハ署内ノ職員二名以上ヲ指
定シテ代リテ抽掘ヲ爲サシメ該礦業出願人ニ通知ス
第二十一條 礦業法第二十六條ノ同時出願ノ場合ハ同
法第二十七條ノ規定ハ之ヲ適用セズ
第二十二條 礦區内又ハ礦業出願地内ノ異ナル礦床ニ
アル異質ノ礦物ニ對シ他人ガ探掘ヲ出願シタル後該
業權者又ハ先願者ガ礦業法第三十一條第二項ノ期間
内ニ出願ヲ爲サザルトキハ省主管官署ハ他人ノ出願
ヲ轉送スルコトヲ得但シ該業權者ノ礦業ヲ妨害セザ
ルコトヲ要ス
第二十三條 礦業法第三十九條ノ規定ニ依リ礦區内ニ
異種ノ礦物ヲ發見シタルコトヲ届出アタルトキハ該
業法第九條ノ各礦物ニ屬スルモノヲ除クノ外農礦部
ハ前條第二項ノ規定ニ依リ辦理シ發見セラレタル異
種ノ礦物カ同一礦床ニ在ラザルトキハ前條第一項ノ
規定ニ依リ辦理スベシ
第二十四條 礦業出願人ハ名義ノ變更ヲ申請スルコト
ヲ得但シ省主管官署又ハ農礦部ノ許可ヲ得ルコトヲ
要ス礦業出願人ノ一部又ハ代表者ノ變更アリタルト
キハ省主管官署又ハ農礦部ニ届出フベシ
第二十五條 礦業出願ニ際シテ納入スベキ手数料左ノ
如シ
一 礦業權設定ノ出願三十元
二 礦業權ノ移轉抵當權ノ設定又ハ期間延長ノ出願
二十元
三 礦業權又ハ出願人又ハ出願地變更ノ申請十元
四 他人ノ礦區調査ノ申請又ハ他人ノ土地長期使用
ノ申請十元
前項ノ出願及申請事項ニシテ試掘又ハ小礦業ノ場合

ハ其ノ實額ヲ半減シテ徵收ス
 第二十六條 主管官署ハ前條ノ手数料ヲ徵收シタル後
 其ノ一半ヲ農務部ニ送付スルモノトス
 第二十七條 鑛業出願書ニハ左ノ各項ヲ記載スベシ
 一 出願ノ原因
 二 出願ノ目的
 三 鑛業出願地又ハ鑛區ノ詳細ナル地名及鑛物名
 四 出願地ノモノハ其ノ經過
 五 利害關係ヲ有スル第三者アルトキハ其ノ事實
 六 出願人ノ姓名、原籍、住所若シテ連署人アルトキ
 ハ其ノ姓名、原籍、住所
 七 出願人方法人ナルトキハ其ノ名稱及所在地並ニ
 原登記機關
 八 出願年月日
 第二十八條 鑛區圖ハ實測ニ依リテ記入シ本細則附屬
 第一號、第二號、及第三號ノ様式ニ依リテ之ヲ作成シ
 有光紙又ハ青寫眞ヲ使用スルコトヲ得ズ且左記各號
 ヲ記入スベシ

一 鑛業及鑛物ノ種類
 二 出願地ノ省縣市町村及其主要地名並ニ縣市又ハ
 町村ニ對スル方位距離
 三 出願地ノ面積
 四 出願地内及其附近ノ大小地名又ハ山河名
 五 基點及其ノ標識ノ名稱
 六 基點及測點ノ番號
 七 境界線及基點ト連接線ノ方位角度及長度
 八 南北線ノ表示
 九 縮尺ノ大小
 十 鑛床ニ露其露頭ノ走向及傾斜
 十一 隣接鑛區アルトキハ其ノ境界間ノ最短距離
 十二 出願地又ハ鑛區ノ更ノ場合ハ新舊ノ關係及面
 積
 十三 出願地ガ鑛業法第二十二條ニ列奉スル各地域
 内又ハ其附近ニアルトキハ其ノ距離及一切ノ關係
 十四、出願人及製圖人ノ姓名住所
 砂鑛ガ河底ニ在リテ面積ノ計算ニ不便ナルトキハ前

項第三號ノ面積、河流ノ總延長線ヲ以テ之ニ代フル
 コトヲ得
 第一項第五號ノ基點ノ標識ハ鑛業出願地内外ノ固定
 物體ヲ擇ブヘシ附近ニ固定物體ナキトキハ石柱又ハ
 其ノ他ノ堅固ナル標識ヲ立ツベシ
 第二十九條 鑛床説明書ハ左ニ掲グル各人ニ依リテ之
 ヲ説明スベシ
 一 鑛床ノ構造及形狀
 二 鑛物ノ種類及其ノ成分
 三 副産鑛物アルトキハ其ノ種類及成分
 前項ノ鑛床説明書ニ於テ各鑛物ノ成分ヲ確定シ能ハ
 ザルトキハ該鑛床中ノ鑛石標本ヲ以テ之ニ代フルコ
 トヲ得
 第三十條 鑛業法第十九條ノ規定ニ依リ鑛業權ノ設
 定ヲ出願スルトキハ願書ニ鑛區圖五部ヲ添付シ試掘
 出願ノ場合ハ別ニ鑛床説明書二部ヲ添付スベシ
 第三十一條 鑛業法第三十六條ノ規定ニ依リ鑛區ノ増
 減ニ因ル鑛業權變更ノ申請及鑛區ノ合併分割ニ因ル

鑛業權設定ノ申請ヲ爲ストキハ願書ニ鑛區圖五部新
 舊關係圖補部及理由書二部ヲ添付スベシ但シ願書ニ
 理由ヲ敘述セル場合ハ理由書ノ添付ヲ免除スルコト
 ヲ得
 第三十二條 鑛業法第三十八條ノ規定ニ依ル鑛業權
 者ノ請求ニ對シ隣接鑛業權者ガ正當ノ理由ナクシテ
 之ヲ拒絕シタルトキハ鑛業權者ハ鑛床ノ位置形狀及
 兩鑛區ノ關係ヲ圖面ニ表ハシテ説明シ省主管官署ノ
 裁定ヲ申請スルコトヲ得
 第三十三條 採鑛權者ガ鑛業法ノ規定ニ違反セズ且本
 細則第八條第二項ノ事由ナキトキハ農務部ハ期間延
 長ノ申請ニ對シテ許可ヲ與ヘ省主管官署ニ命ジテ登
 記ヲ爲サシムベシ
 前項ノ期間延長ノ申請ハ滿期前ニ申請書ヲ提出シタ
 ル者ヲ除クノ外已ムヲ得ザル事由ナキ限リ滿期後三
 月以内ニ之ヲ爲スベシ但シ滿期後農務部ガ延期ヲ許
 可スル迄ノ期間採鑛作業ノ繼續スルコトヲ得
 第三十四條 採鑛權ノ期間延長ノ許可アリタルトキハ

探掘権ニ設定シタル抵當権ハ之ニ關スル契約ニヨル制限ヲ除クノ外繼續シテ效力ヲ有ス

第三十五條 鑛業法第四十四條ノ規定ニ依リ探掘権ヲ抵當ニ供セントスルトキハ申請書ニ契約ノ原本ニ添付シ契約書ニ左記各號ヲ記載スベシ

- 一 抵當権者ノ氏名、原籍、法人ナルトキハ其ノ名稱及原登記機關
- 二 債權ノ金額又ハ價格
- 三 抵當物件
- 四 償還方法及期限
- 五 相互ノ制限條件

第三十六條 探掘権者ガ鑛業権ノ名義變更又ハ分割合併ニ因リ別ノ鑛業権設定ノ申請ヲ爲ストキハ本細則第三十一條ノ規定ニ依リ辦理スルヲ除クノ外鑛業法第四十五條ノ規定ニ依リ抵當権者ノ承諾書ヲ添付スベシコトヲ要ス

第三十七條 鑛業法第四十七條ノ規定ニ依リ鑛業権ノ

購買ヲ完了シタルトキハ原鑛業権ノ抵當権ハ消滅ス

第三十八條 鑛業権競落人ハ鑛業法第五條ノ規定ニ從フコトヲ要ス

第三十九條 鑛業権移轉ノ申請ハ左記各號ノ規定ニ從フコトヲ要ス

- 一 相續ニ因リ移轉スルトキハ相續人ハ原鑛業許可證及證明文件ヲ添付シテ申請スベシ
- 二 譲渡ニ因リ移轉スルトキハ讓受人ハ原鑛業権者ト連署シ原鑛業許可證ヲ添付シテ申請スベシ
- 三 競買ニ因リ移轉スルトキハ競買人ハ競買官署ノ證明書ヲ添付シテ申請スベシ

第四十條 鑛業権消滅後ト雖モ原鑛業権者ハ權利保護及危險豫防ノ設備ニ對シ農礦部又ハ省主管官署ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ自由ニ處分スルコトヲ得ズ

第四十一條 鑛業出願書及圖面ガ省主管官署ニ到達シタルトキハ當日中ニ順次文書受付簿ニ記載シ且發行シタル受領書ニ日附ヲ記入シテ主管官署員署名捺印シ鑛業出願人ニ交付スベシ

前項ノ願書圖面等ヲ郵送スル場合ハ配達證明書留郵便トシ其ノ受領證ヲ保存スベシ省主管官署ハ郵便到着ノ日附ヲ記載シ並ニ受領證書面ニ到着日ヲ記載スベシ

第四十二條 農礦部又ハ省主管官署ハ探掘ノ出願ニ對シ期日ヲ定メテ出願人ヲ立會ハシメ左記各點ヲ調査スベシ

- 一 鑛區圖ニ記載スル各基點及各境界線並ニ詳細ナル地名ト實地ガ符合スルヤ否ヤ
- 二 出願地ト他人ノ鑛區又ハ先願ノ出願地トノ間ノ距離ノ有無及隣接鑛區ニ對スル規定ノ距離
- 三 鑛業法第二十二條ノ規定ニ違反セザルヤ且同法第三十四條ニ記載スル事情ノ有無
- 四 出願地ト鑛床ノ位置形狀トカ相符合スルヤ否ヤ且出願書ニ記載スル鑛物ト鑛床内ノ鑛物カ相符合スルヤ否ヤ
- 五 出願地内ニ於ケル其他ノ鑛物又ハ鑛床ノ有無
- 六 鑛業法第二十四條第二項ノ事情ノ有無
- 七 出願地ノ面積カ鑛業法第七條ニ規定スル最大限度ヲ超過スルトキハ其特別狀況ノ調査
- 八 鑛業法第三十六條ニ依リ出願ニ對シテハ其新舊鑛區ノ關係ノ調査
- 九 小鑛業ノ場合ハ其實地狀況ガ鑛業法第五十九條ノ規定ニ該當スルヤ否ヤ
- 十 其他調査ノ必要アル事項
- 十一 鑛業法第三十四條ノ事由ニ因リ許可ヲ與ヘザルトキハ公益ニ害アリ又ハ經營ノ價值ナキ正確ナル事實及理由ヲ各別ニ批示スベシ
- 十二 鑛業法第三十三條及第三十七條ノ事由ニ因リ期限ヲ附シテ鑛業出願地ヲ更正セシメ又ハ鑛區ノ訂正ヲ命ズルトキハ更正又ハ訂正ヲ行フべき點ヲ詳細ニ指示スベシ
- 十三 鑛業ノ出願ニシテ左記各號事由ノ一アルトキハ省主管官署ハ之ヲ受理セズ
- 一 出願地又ハ鑛區ガ管轄内ニ在ラザルトキ
- 二 願書ニ出願人ノ氏名住所ヲ記入セズ又ハ出願人

が鑛業法第五條ノ規定ニ該當セザルトキ
 三 出願事項ハ鑛區圖ヲ以テ根據トスベキヲ以テ鑛區圖ヲ添附セズ又ハ添附シタル鑛區圖ニ地名基點及鑛區ノ境界ナキトキ
 四 出願シタル鑛物カ鑛業法第二條ニ列舉セラレス並ニ指定ノ價値ナキトキ
 五 出願シタル鑛物カ鑛業法第九條ニ依リ國營ニ歸スベキモノ並ニ小鑛業權設定ニ關スル規定ニ該當セズ又ハ同法第十條ニ依リ試掘採掘ヲ禁止スベキモノナルトキ
 前項ニ列記スル出願ハ之ヲ優先權ノ根據ト爲スコトヲ得ズ
 第四十六條 鑛業出願ニシテ左記事由ノ一アルトキハ省主管官署ハ期限ヲ定メテ更正又ハ補充出願ヲ命ズベシ
 一 鑛業法第二十一條ノ規定ニ依リ出願人ノ更正又ハ補充シタル鑛區圖ニ尙遺漏又ハ錯誤アルトキ
 二 必要ナル證明文書ノ完備セザルトキ

二七二
 三 納入スベキ手数料ヲ納入セザルトキ
 四 違害スベキ者方連署セザルトキ
 五 第三者ト協議又ハ協定スベキ事項ヲ協議又ハ協定セザルトキ
 六 鑛業出願地カ鑛業法第二十二條ニ列舉スル土地ニアルニ拘ハラズ許可書ヲ添附セザルトキ
 七 其他鑛業法及本細則ノ規定ニ違反シ共更正又ハ補呈ヲ命ズベキトキ
 前項ノ期限ハ道路里程ノ遠近及事項ノ難易ニヨリ適宜之ヲ定ム
 第四十七條 鑛業ノ出願ニシテ左記事由ノ一アルトキハ直子ニ取消ノ旨公告シ同時ニ出願人ニ通知スベシ
 一 鑛業法又ハ本細則ニ依リ許可スベカラザルトキ
 二 前條ニ定ムル期限ヲ遵守セズ期限附警告ヲナスコト二回ニ及ブモ尙之ニ從ハズ且其ノ事由ヲ申シ出アザルトキ
 三 鑛業出願人が實地調査ノ時其出願地ヲ明示スル能ハズ又ハ其指定スル地域カ鑛區圖ノ記載ト全然

符合セザルトキ
 四 鑛業出願人が指定ノ期日ニ調査測量ニ立會ハズ期限附警告ヲナスコト數回ニ及ブモ尙其期日ニ現過ニ到ラズ且其事由ヲ届出アザルトキ
 五 其他鑛業法又ハ本細則ニ依リ取消ヲナスベキトキ
 前項ニ列舉スル取消ヲナスベキ出願ノ取消公告ヲ爲サザル時ト雖モ未ダ取消ナキ故テ以テ權利ノ主張ヲ爲スコトヲ得ズ
 第四十八條 鑛業ノ出願ニシテ左ニ掲ゲル事由ノ一アルトキハ省主管官署ハ直子ニ農鑛部ニ轉送スベシ
 一 出願事項カ農鑛部ノ許可ヲ經ベキモノニシテ調査ノ結果前條ニ掲ゲル事由ナキトキ
 二 出願事項カ鑛業法又ハ本細則ノ規定上疑義アリ豫メ解釋ヲ明ニスベキ必要アルトキ
 三 出願換物カ新發見ノ鑛物ニシテ國民政府ノ指定ヲ要スルモノナルトキ
 第四十九條 鑛業權ノ變更移轉又ハ鑛區ノ訂正及鑛區

ノ分割ニ因リ鑛業權ノ設定ヲ爲シ鑛業許可證ノ書換ヲ爲ストキハ鑛業權ノ滿期年月日ハ原鑛業許可證ニ記載スル所ニ從フ
 鑛區ノ合併又ハ分割ト合併ト同時ニ行フニ因リ鑛業權ノ設定ヲ爲シ鑛業許可證ヲ書換フルトキハ各鑛業權ノ未滿期間ヲ合計平均シテ其ノ鑛業權ノ存續期間ト爲ス
 第五十條 左ニ掲ゲタル事項ハ出願ヲ許可シタル後原鑛業許可證ニ記載捺印スベシ
 一 鑛業權ノ期間延長
 二 鑛業權者ノ名稱變更
 三 鑛業合併人ノ脱退又ハ相繼又ハ加入
 四 鑛物名稱ノ更正又ハ増補
 五 其他記載スベキ事項
 第五十一條 鑛業權カ消滅シタルトキ又ハ鑛業許可證ヲ書換フル時ハ原鑛業權者ヲシテ原鑛業許可證ヲ返納セシメ之ヲ廢棄スベシ
 第五十二條 鑛業權ノ設定變更又ハ區訂正ノ許可ヲ爲

シタルトキハ其ノ農園ハ農園部及省主管官署ニ於テ各別ニ按印シ各一部ヲ保存シ所在地縣市政府及原出願人ニハ省主管官署ヨリ各一部ヲ交付スベシ
第五十三條 農園法第四十一條ノ十定ニ依リ農園部ノ査定ヲ經テ農園部ヲ取消シタルトキハ省主管官署ヲシテ之ヲ公告セシムベシ
第五十四條 農園法第三章ニ稱スル國營農園ト國家ガ農園部ヲ設定シタル農園ヲ言フ同法第九條ニ屬セザル各農園ニシテ中央又ハ地方各官署ノ經營スルモノハ法令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外同法ノ農園部ニ關スル規定ヲ適用ス
第五十五條 農園法第四十九條ノ規定ニ依リ農園部ガ國營農園部設定ヲ申請スルトキハ農園部一部ヲ添附シ登記ヲ爲サシムルトキハ農園部一部ヲ添附シ省主管官署ヨリ所在地縣市政府ニ一部ヲ交付シテ各別ニ之ヲ公告スベシ
第五十六條 省政府ノ農園法第五十二條ノ規定ニ依リ國營農園部買借ノ申請ハ縣市政府ノ申請未許可前ニ

二七四

於テハ優先權ヲ有ス
第五十七條 國營農園部ハ試掘採取權ノ區別ナシ
第五十八條 國營農園部ノ買貸又ハ其ノ解約ハ農園部ニ於テ省主管官署ヲシテ登記セシム
第五十九條 國營農園部買借人ハ營業年度終了ノ時決算書、營業報告書及貸借對照表ヲ作成シ農園部ニ提出スベシ農園部ハ係ヲ派シテ其ノ營業狀況ヲ調査シ帳簿ヲ検査スルコトヲ得
第六十條 農園部ハ國營農園部買借人ニ對シ保證金ヲ納入セシムルコトヲ得
第六十一條 買貸シタル國營農園部ノ期間満了シ國家ガ之ヲ回收シテ自ラ經營スル必要アルトキハ滿期ノ六月前ニ買借人ニ通知スベシ
第六十二條 國營農園部買借契約消滅後國家自ラ經營ヲ行フ必要アルトキハ原買借人ハ保安ノ範圍内ニ於ケル必要ナル設備ニ關シテ價金ヲ要求スルコトヲ得ズ
第六十三條 農園法第五十九條ノ規定ニ依リ小農園部

城ハ農園部ノ許可又ハ取消アリタルトキハ省主管官署及所在地縣市政府ヨリ各別ニ之ヲ公告スベシ
第六十四條 小農園部ノ出願人ハ其ノ願書ニ該出願ガ農園法第五十九條第一項第何號ノ規定ニ依リタルカヲ記載スベシ
第六十五條 農園法第四十一條ニ列舉スル事由ニ因リ小農園部ヲ取消スベキトキハ省主管官署之ヲ行フベシ但シ農園部ニ之ヲ報告スルコトヲ要ス
第六十六條 二以上ノ小農園部ノ相隣接セル地域ニ於テ農園法第六十二條第二項ノ出願アルトキハ省主管官署ハ該小農園部ヲシテ一年以内ニ農園部合併ヲ出願セシムベシ若シ期間内ニ出願ヲ爲サザルトキハ他人ヲシテ農園部ノ出願ヲナサシムルコトヲ得其ノ小農園部ノ原有期間ガ六月以内ニ滿了スルトキハ同法第六十五條ノ規定ヲ適用スベシ
第六十七條 農園法第六十五條ノ優先權ノ規定ハ同法第九條ノ農園部ニハ之ヲ適用セズ
第六十八條 農園法第六十八條第六十九條及第七十條ノ事由ニ因リ地方官署ニ許可ヲ申請スルトキハ申請書ニ左記各號ヲ記載スベシ
一 土地ノ名稱及種類
二 土地所有者又ハ土地占有者ノ姓名住所
三 使用目的
四 障礙物除去ノ必要アルトキハ障礙物ノ名稱及價格
農園法第七十三條及第七十四條第一項ノ規定ニ依リ他人ノ土地使用並ニ農業計畫ノ審定ヲ申請スルトキハ申請書ニ前項第一第二第三各號ノ事項ヲ記載スル其ノ他使用期間ヲ記載スベシ
第六十九條 土地使用ノ賠償又ハ報償又ハ擔保ニ關シテ申請アルトキハ主管官署ノ査定ヲ申請スルコトヲ得
第七十條 土地所有者又ハ關係人ガ前條ノ査定ニ服サザルトキハ農園部者ハ價金又ハ擔保ヲ提供シテ其ノ土地ヲ使用スルコトヲ得但シ主管官署ニ届出ザルコトヲ要ス
第七十一條 價金又ハ擔保ノ査定ニ關シテ不服アルト

二七五

キハ法ニ依リ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第七十二條 鑛區稅ハ農礦部ニ於テ徵收又ハ省主管官署ニ委託シテ代ツテ徵收セシム省主管官署ハ鑛區稅ヲ徵收シタルトキハ農礦部ニ送付シ農礦部ニ於テ之ヲ受領シタルトキハ直ニ省主管官署ニ通知スベシ
第七十三條 鑛區稅ハ財政部農商部ト協同シ省主管官署ニ委託シテ代ツテ徵收セシム又ハ別ニ徵收機關ヲ指定シテ辦理セシム
第七十四條 鑛業權者又ハ小鑛業權者及國營鑛業權者ハ毎年一月及七月ニ於テ當期六月分ノ鑛區稅ヲ農礦部又ハ省主管官署ニ納入スベシ
第七十五條 鑛區ノ分割又ハ合併ヲ申請シ既ニ鑛區稅ヲ納入シタル場合ヲ除クノ外鑛業權ノ設定又ハ變更ノ申請ヲ爲ストキハ省主管官署ニ於テ調査ノ上該申請人ニ通知シテ六月分ノ鑛區稅ヲ豫納セシメ之ヲ第一期ノ鑛區稅トシ書類ニ添ヘテ農礦部ニ轉送スベシ前項豫納ノ鑛區稅ハ月割ヲ以テ計算スベシ
第七十六條 鑛業法第九十二條第二項ノ鑛區稅免除規定ニ關シ作業不能期間ノ計算ハ本規則第八十六條ノ届出ヲ基準トスベシ鑛業權者ハ届出ヲ爲サズ又ハ届出ノ確實ナルトキハ農礦部又ハ省主管官署ハ鑛區稅免除ノ申請ヲ許可セザルコトヲ得
第七十七條 鑛業權者又ハ小鑛業權者及國營鑛業權者ハ月割ニテ鑛區稅ヲ納入スルトキハ當月ノ出賃數表及市價表ヲ添附スベシ省主管官署又ハ指定徵收機關ガ前項ノ稅額及市價表ヲ検査ノ上錯誤又ハ納稅不足ヲ確認シタルトキハ納稅人ヲシテ之ヲ補納セシムベシ
第七十八條 鑛業法第九十三條第二項ノ規定ニ依リ省主管官署ハ附近市場ノ市價ヲ毎月農礦部ニ報告スベシ
農礦部ハ前項ノ報告ニ依據シ毎年年末ニ於テ平均市價ヲ査定シ財政部ト共ニ之ヲ省主管官署又ハ指定徵收機關ニ通達シ納稅者ニ轉知シ査定標準ニ依リ清算セシムベシ
第七十九條 省主管官署又ハ指定徵收機關ガ鑛區稅ヲ

取納シタルトキハ報告及送金ヲ爲スノ内一月及七月ニ於テ各種鑛產物及稅收總額表ヲ作成シ各別ニ財政部及農礦部ニ提出スベシ
第八十條 鑛業權者ハ鑛業權取得後六箇月以内ニ作業ヲ開始シ且事務所ヲ設置スベシ作業開始ノ期日及雇用スル主要技術員ハ各別ニ農礦部及省主管官署ニ届出ツベシ
第八十一條 鑛業法第九十五條第一項ノ規定ニ依リ探鑛權者ガ施業計畫書及作業報告書ヲ提出スルトキハ圖面ヲ附シテ詳細ニ説明スベシ
第八十二條 坑内實測圖ハ本規則附屬第四號第五號ノ様式ニ依リ作成シ並ニ毎月月上旬ニ於テ前月中ノ掘進狀況ヲ記入スベシ
第八十三條 鑛業權ハ日記簿及月記簿ノ二種ニ分チ日記簿ハ左記各號ニ依リ逐日記載シ月記簿ハ左記各號ニ依リ一月ノ總額ヲ記載シ且當月ノ作業日數及實業採掘ヲ記載スベシ
一 鑛物採掘高
二 鑛物賣上高
三 賣上金額
四 勞働者數
第八十四條 鑛業明細表ハ鑛業狀況ニ就キ第六號第七號及第八號様式ニ依リ作成シ一年間ニ於ケル各項數重テ當欄内ニ記入スベシ
第八十五條 鑛業權者ガ選鑛煉鑛ノ工場ヲ附設スルトキハ詳細ナル説明書圖面ヲ各別ニ農礦部及省主管官署ニ提出スベシ
第八十六條 鑛業權者ガ中途ニテ作業ヲ停止シ又ハ作業ヲ復キスルトキハ各別ニ農礦部及省主管官署ニ届出ア且其ノ原因ヲ記載スベシ
前項ノ作業停止ノ届出ハ農礦部又ハ省主管官署之ヲ調査シ其原因不明ナルカ又ハ消滅シタルト認メタルトキハ期限ヲ附シテ其ノ開始ヲ命ズルコトヲ得
第八十七條 鑛業法第九十六條ノ鑛區面積統計規定ニ依リ省主管官署ハ鑛物ノ種類、鑛業權ノ種類、鑛區所在地名稱、鑛業權者及各鑛區ノ面積ニ就キ各別ニ記

載シタル表冊ヲ編成シ並ニ同時ニ管轄區域内ノ國營
鑛業區、國家保留區、試掘鑛區、探掘鑛區、小鑛業
鑛區ニ就キ省鑛區ノ位置關係圖ヲ作成シ別ニ色彩ヲ
以テ其ノ鑛質ヲ表示スベシ
前項鑛區ノ位置關係圖ハ各鑛區ノ増減變更ニ就キ毎
年各一種ノ圖面ヲ作成シ一部ヲ農鑛部ニ提出シ且公
報ニ登載シテ之ヲ公告スベシ
第八十八條 鑛業法施行前ニ於テ取得シタル鑛業權ニ
シテ期間ナキモノハ鑛業法ニ規定スル期間ニ依リ鑛
業法施行ノ日ヨリ起算スベシ但シ鑛區稅ノ徵收ニ關
シテハ鑛業權ヲ取得シタル年月ヨリ起算ス
第八十九條 鑛業法施行前ニ於テ鑛業權ヲ取得シタル
者ハ同法施行ノ日ヨリ一年以内ニ鑛業許可證ノ書換
テ申請スベシ
第九十條 鑛業登記ニ關シテハ農鑛部ニ於テ別ニ之
ヲ定ム
第九十一條 本規則ハ鑛業法ト同日ニ之ヲ施行ス

鑛業條例修正條文

民國二十七年十二月二十一日

「鑛業法」ヲ「鑛業條例」ニ改ム各項中ノ「本法」ヲ
「本條例」ニ「國民政府」ヲ「政府」ニ「農鑛部」ヲ
「實業部」ニ改並ニ第二條、第五條、第九條、第五十
條、第五十三條、第六十一條ヲ左ノ如ク改ム
第二條 本條例ニ於テ鑛物ト稱スルハ左記ノ各種
トス
金鑛、銀鑛、銅鑛、鐵鑛、錫鑛、鉛鑛、安質母尼鑛、
「ニッケル」鑛、「コバルト」鑛、亞鉛鑛、「アル
ミニウム」鑛、水銀鑛、銻鑛、「モリブデン」
鑛、白金鑛、「イリヂウム」鑛、「クロム」鑛、
「ウラニウム」鑛、「ラヂウム」鑛、「タンゲス
テン」鑛、「マグネシウム」鑛、鈾「バナヂニウ
ム」鑛、「カリウム」鑛、硫酸鑛、砒鑛、格
魯脈鑛、耐火頁岩、耐火粘土、水晶、石棉、雲母、
石膏、岩鹽、明礬、金剛石、天然青礬、重晶石、硝

酸鹽、硼砂、黑鉛、綠松石、螢石、耐火粘土、滑石、
磁土、大理石、苦土石、石灰類、石油類、瀝青砂類、
顏料石類、滿條鑛、滿條鑛ハ民國二十八年二月二十
七日附政府公報第四十三號ヲ以テ追加
其ノ他政府ノ指定シタルモノ
第五條 第二條ニ掲ゲタル各鑛物ハ第九條ニ定ム
ル國營及第十條ニ定ムル國家保留區ヲ除クノ外中華
民國人ハ本條例ニヨリ鑛業權ヲ取得スルコトヲ得但
シ所在地ノ縣市政府ハ優先權ヲ有ス
前項中華民國人ノ經營スル鑛業ニシテ會社組織ナル
トキハ株式會社ニ限リ外國人ノ株主タルコトヲ許ス
コトヲ得但シ左記兩號ノ規定ニ依ラザルベカラズ
一 會社總株數ノ半數以上ハ中華民國人ノ所有トナ
スベシ
二 會社ノ社長、取締役、監査役、總支配人及支配
人等ノ職ハ外國人所有ノ株式ガ會社總株數ノ半數
ニ達シタルトキ中華民國人及外國人各半數共ノ職
ニ任ズルヲ得

前項ノ外資ヲ要スルトキ外國人所有ノ株式ヲ總株式ノ半數以上ニ増加シ之ニ因リ取締役、監査役、支配人亦各員ノ人數ヲ變ヘシムルニ非ザレバ會社其ノ目的ヲ達スルコト能ハザルトキハ實業部ハ事情ニ依リ之ヲ伸縮スルコトヲ得

第九條 鐵礦、石油礦、銅礦及治金用ニ進スル有價証券ハ國家ニ於テ試探採掘ヲ行フ國家自ラニ於テ試探採掘ヲ行フ必要ナキトキハ之ヲ實業部ニ試探採掘ヲ爲サシムルコトヲ得但シ實業部ハ中華人民國人ニ限ル天然瓦斯ニシテ「ヘリウム」瓦斯ヲ含有スルモノニ付テハ政府其ノ瓦斯ニ對シ採取權ヲ保留スルコトヲ得第一項ノ實業部ハ會社組織ナルトキハ外國人ノ加入ニ關シテハ第五條第二項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ礦產物ニシテ國外へ輸出セントスルトキハ之ガ數量及期限ニ關スル契約ハ中央主管機關ノ許可ヲ經ルニ非ザレバ無効トス但シ必要ノ場合ハ尙制限ヲ加フルコトヲ得

第五十條 國營礦業ニシテ外資ヲ必要トシ又ハ民營ト合作シテ試探採掘セントスルトキ適法ノ會社ト認メタル場合ハ國家ハ國營礦業權ヲ現金ノ出資ニ準作スルコトヲ得

第五十三條 國營礦業權ノ賃借人ニシテ所要資本ガ概算ヲ認メ自ラ試探採掘ヲ行フコト能ハザルトキハ第五十條ノ規定ニ從ヒ實業部ニ申請シ其ノ賃借權ヲ以テ他人ト合辦シ又ハ他ノ會社ニ出資ヲ爲スコトヲ得並ニ之ヲ以テ抵當權又ハ讓渡ノ目的ト爲スコトヲ得

第六十一條 小礦業ノ經營ニ外資ヲ必要トスルトキハ第五條第二項第三項ニ依リテ處理ス

鑛業條例施行細則修正條文

民國二十七年十二月二十一日

「鑛業法施行細則」ヲ「鑛業條例施行細則」ニ改ム各條中ノ「鑛業法」ヲ「鑛業條例」同法「同條令」ニ「國民政府」ヲ「政府」ニ「鑛業部」ヲ「實業部」ニ改メ並ニ第十二條、第八十八條、第八十九條、第九十條、第九十一條ヲ左ノ如ク改ム

第十二條 已ニ劃定シタル保留區ト雖モ情勢ノ變遷ニ因リ實業部ニ於テ其ノ保留ノ必要ナシト認メ政府ノ認可ヲ經テ禁令ヲ解除シタルトキハ法ノ定ムルトコロニ從ヒ人民ヲシテ試探採掘セシムルコトヲ得

第八十八條 本細則公布前既ニ法ニ依リ取得シタル鑛業權ハ施行ノ日ヨリ六月以内ニ鑛圖ヲ附シ鑛稅ヲ納メテ登記ヲ出願シ新證書ノ書換ヲ受クベシ但シ期間經過後ト雖モ遲延ノ理由ヲ明シタルトキハ事情ヲ斟酌スルニヨリ三月ヲ限リ延期ヲシ鑛稅完納後前項ノ規定ニ依リテ處理スルコトヲ得

第八十九條 本細則公布前ニ於テ行ヒタル各種鑛業登記及其ノ既ニ發給シタル證書ニ關シテハ公布ノ日ヨリ三月以内ニ本細則ニ依リ登記ヲ更新シ新證書ヲ受クベシ

其ノ既ニ三月ヲ超エルモ正當ナル理由アリ懈怠ニ出アタルニ非ザルトキ事實ヲ具申シテ主管機關ニ審査處理ヲ請求スルコトヲ得

第九十條 鑛業登記規則ハ實業部ニ於テ之ヲ定ム

第九十一條 本細則ハ鑛業條例同日ニ之ヲ施行ス

商標法

民國二十七年十一月八日

第一條 自己ノ生産、製造、加工、選擇、卸賣又ハ取扱商品ナルコトヲ表明スル爲商標ヲ專用セムトスル者ハ本法ニ依リ登録ヲ申請スベシ、商標ニ用フル文字、圖形、記號又ハ其ノ結合シタルモノハ特別顯著ニシテ且名稱及施スベキ色ヲ指定スルコトヲ要ス本法施行前ニ登録ヲ受ケタル商標ハ專用權者ニ於テ原登録證及原商標圖樣ヲ返納シ新證書ヲ受領スルニ非ザレバ繼續シテ效力ヲ有セズ

前項ノ新證書受領期間ハ不可抗力ノ事由アル場合ヲ除クノ外本法施行ノ日ヨリ二月以内トス其ノ期間ヲ經過スルトキハ商標ノ專用權ヲ放棄シタルモノト看做ス

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ商標トシテ登録スルコトヲ得ズ

一 中華民國國旗、國徽、國璽、軍旗、官印及勳章

二八二

二 赤十字章又ハ外國ノ國旗若ハ軍旗ト同一又ハ類似ノモノ

三 風俗秩序ヲ妨害シ又ハ公衆ヲ欺罔スルノ虞アルモノ

四 同一種類商品ニ習慣上用ウル標章ト同一又ハ類似ノモノ

五 世界ニ周知セラルル他人ノ標章ト同一又ハ類似ノモノヲ同一商品ニ使用スルモノ

六 政府ノ附與シタル獎章及博覽會又ハ勸業會等ノ附與シタル獎牌若ハ褒狀ト同一又ハ類似ノモノ但シ自己ノ受賞シタルモノヲ商標ノ一部分ト爲ストキハ此ノ限ニ在ラズ

七 他人ノ肖像、姓名、商號又ハ法人又ハ其ノ他ノ團體ト同一名稱ヲ有スルモノ但シ其ノ承認ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラズ

八 他人ノ登録シタル商標ノ失効後一年未滿ノモノト同一又ハ類似ノモノ但シ其ノ登録失効前一年

以上使用セザルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

九 使用シタル商標ノ文字又ハ圖形ノ讀音ニシテ既ニ登録ヲ受ケタル商標ノ讀音ト類似ノモノ但シ讀音ヲ以テ標準トス

第三條 二人以上ノ者同一商品ニ付同一又ハ類似ノ商標ノ登録ヲ申請シタルトキハ中華民國領土内ニ於テ實際上ノ最先使用者ノ登録ヲ許可スベシ其ノ申請前ニ未ダ使用セズ又ハ最先使用者不明ナルトキハ最先申請者ノ登録ヲ許可スベシ其ノ申請同日ナルトキハ各申請者ヲシテ協議セシメ其ノ一人ノ專用ニ歸スルニ非ザレバ之ガ登録ヲ許サズ

第四條 中華民國領土内ニ於テ善意ヲ以テ十年以上繼續使用シタル商標ニ付之ガ登録ノ申請ヲ爲シタルトキハ第三條第五號及第三條ニ規定シタル制限ヲ受ケズ但シ商標局ニ於テ必要ト認メタルトキハ其ノ形式又ハ施スベキ色ニ修正又ハ制限ヲ加フルコトヲ得

第五條 同一商人ニシテ同一商品ニ對シ類似ノ商

二八三

標ヲ使用スルトキハ聯合商標ト爲ス場合ニ限り登録ヲ申請スルコトヲ得

第六條 外國人民ニシテ商標相互保護ニ關スル條約ニ依リ其ノ商標ヲ專用セントスルトキハ本法ニ依リ登録ヲ申請スベシ

第七條 商標登録ノ申請ニ因リ生ジタル權利ハ其ノ營業ト共ニ他人ニ移轉スルコトヲ得

前項ノ權利ヲ承繼シタルトキハ原申請人ノ名義變更ヲ申請スルニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第八條 中華民國領土内ニ住所又ハ營業所ヲ有セザル者ハ中華民國領土内ニ住所又ハ營業所ヲ有スル者ニ委託シテ代理人ト爲スニ非ザレバ商標登録ノ申請及其ノ他ノ手續ヲ爲スルコトヲ得ズ且商標專用權又ハ商標ニ關スル權利ヲ主張スルコトヲ得ズ

前項ノ代理人ハ特ニ委託ヲ受ケル權限ヲ有スルノ外本法及其ノ他ノ法令ニ定ムル商標ニ關スル一切ノ手續及訴訟事務ニ付本人ヲ代表ス

第九條 前條ノ代理人ノ選任、更迭又ハ其ノ代理權ノ變更若ハ消滅ハ商標局ニ申請シ其ノ登録許可ヲ經ルニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第十條 商標局ハ商標ニ關係テ有スル代理人ヲ不適當ト認メタルトキハ之ヲ更迭セシメ其ノ商標ニ關シテ爲シタル行爲ヲ無効ト爲スコトヲ得

第十一條 商標局ハ外國及僻遠ノ地又ハ交通不便ノ地ニ居住スル者ニ對シ職權ニ依リ又ハ申請ヲ待テ其ノ商標局ニ對シ爲スベキ手續ノ法定期間ヲ延長スルコトヲ得

第十二條 商標ニ關スル申請及其他ノ手續ニシテ法定又ハ指定ノ期間後ニ爲サレタルトキハ商標局ハ之ヲ却下スルコトヲ得 但シ止テ得ザル事由アリト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 事由ヲ表明シ商標ニ關スル證明、圖樣ノ模寫及書類ノ査閲又ハ抄録ノ申請アリタルトキハ商標局ハ秘密ヲ守ル必要アリト認ムルモノヲ除クノ外之ヲ拒絕スルコトヲ得ズ

第十四條 商標ハ登録ノ日ヨリ登録人ニ於テ商標專用權ヲ取得ス 商標專用權ハ登録申請ノ際ニ指定シタル商品ニ限ル

第十五條 普通ニ使用セラルル方法ヲ以テ自己ノ姓名、商號、商品ノ名稱、產地、品質、形狀及效用等ヲ表示シタルモノハ商標專用權ノ效力ニ拘束セラレズ 但シ商標登録後意テ以テ同一ノ姓名又ハ商號ヲ使用シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 商標ノ專用期間ハ登録ノ日ヨリ二十年トシテ得但シ毎回二十年ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十七條 商標專用權ハ其ノ營業ト共ニ他人ニ移轉シ又ハ商標使用ノ商品ニ附隨シ分割シテ移轉スルコトヲ得但シ聯合商標ノ商標權ハ分割シテ移轉スルコトヲ得ズ

第十八條 商標專用權ノ移轉ハ商標局ノ許可ヲ經テ

登録スルニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ、其ノ商標專用權ヲ以テ實權ノ目的物ト爲ストキ亦同シ

第十九條 商標專用權ハ登録人ニ於テ申請ニ依リ取消スコトヲ得ルノ外左ノ事由ノ一ニ該當スルトキハ商標局ハ其ノ職權ヲ以テ又ハ利害關係人ノ申請ニ依リ之ヲ取消スコトヲ得

一 其ノ登録商標ヲ自ら變更シ又ハ附記シ之ヲ欺用使用シタルトキ

二 登録後正當ノ事由ナクシテ滿一年間使用セズ又ハ滿二年間使用ヲ停止シタルトキ

三 商標權移轉後滿一年間登録ノ申請ヲ爲サザルトキ 但シ相續ニ因ル移轉ハ此ノ限ニ在ラズ

前項第二號ノ規定ハ聯合商標ニ仍其一ヲ使用スルトキハ之ヲ適用セズ、商標局ハ第一項所定ノ取消處分ヲ爲サルトキハ六十日以前ニ商標專用權者又ハ其ノ代理人ニ通知スベシ

第一項所定ノ取消處分ニ不服アルトキハ六十日以内ニ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第二十條 商標專用期間内ニ其ノ營業ヲ廢止シタルトキハ商標專用權ハ消滅ス

第二十一條 商標ノ專用又ハ其ノ專用期間延長ノ登録ニシテ第一條乃至第五條ノ規定ニ違反シタルトキハ商標局ノ評定ヲ經テ無効トス

第二十二條 商標局ニハ商標原簿ヲ備ヘ商標專用權又ハ商標ニ關スル權利及法令ニ定ムル一切ノ事項ヲ登録スベシ、登録認可ヲ經タル商標ハ商標原簿ニ登録シ登録證ヲ下付ス

第二十三條 商標局ハ商標公報ニ登録商標及商標ニ關スル必要事項ヲ登載スベシ

第二十四條 登録事項ニ付變更又ハ抹消ノ申請アリタルトキハ商標局ノ許可ヲ經タル後商標公報ニ登載シテ之ヲ公告スベシ

第二十五條 商標ノ專用又ハ其ノ專用期間延長ノ登録ヲ爲サルトキハ申請人ニ於テ申請ニ當リ規定ノ登録費ヲ納付スベシ但シ商標局ニ於テ却下シタル

トキハ之ヲ返還スベシ

第二十六條 登録申請シタルトキハ各商品ノ類別ニ就キ其ノ商標ヲ使用スル商品ヲ指定スベシ
 前項ノ商品ノ分類方法ハ施行細則ニ之ヲ定ム
 第二十七條 商標局ハ專用申請シタル商標ニ付審査ノ上合法ト認メタルトキハ審査費ヲ以テ申請人ニ通知スルノ外之ヲ商標公報ニ登載シ六月ヲ経テ利害關係人ノ異議申立ナキトキ又ハ其ノ異議ニ對シ辯明アリタル後始メテ登録ヲ行フ
 專用期間ノ延長ヲ申請シタル商標ニシテ審査ノ上合法ト認メタルトキハ登録證ヲ再下付シ商標公報ニ登載シテ之ヲ公告スベシ
 第二十八條 商標申請人ニシテ却下ニ對シ不服アルトキハ審査費送達ノ日ヨリ三十日以内ニ不服理由書ヲ具シ再審査ヲ申請スルコトヲ得
 再審査ノ決定ニ對シ不服アルトキハ六十日以内ニ訴願ヲ提起スルコトヲ得
 第二十九條 商標ニ關スル異議ニ就テハ前條ノ規定ヲ

二八六

準用ス
 異議申立ニ對シ裁定アリタル後ハ相手方ハ同一事實及證據ニ因リ評定ヲ請求スルコトヲ得ズ
 第三十條 左ノ事項ハ利害關係人ニ於テ評定ヲ請求スルコトヲ得
 一 第二十一條ノ規定ニ依リ其ノ登録ヲ無効トスベキモノ
 二 商標專用權ノ範圍ヲ認定スベキモノ
 第三十一條 第一條又ハ第二條第一號乃至第六號ノ規定ニ違反シ其ノ登録ヲ無効トスベキトキハ審査員ハ評定ヲ請求スルコトヲ得
 第二條第七號、第八號及第三條乃至第五條ノ規定ニ違反シタル登録商標ニシテ商標公報ニ登載ノ日ヨリ滿三年ニ達シタルトキハ評定ヲ請求スルコトヲ得ズ
 第三十二條 評定ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ請求書正副本ヲ商標局ニ提出スベシ評定事項ニ關シ各當事者ノ提出シタル書狀ハ商標局ニ於テ其ノ副本ヲ相手方ニ送付シ期限内ニ書面ヲ具シ相互ニ答辯セシメ且

訪問書ヲ發シテ陳述セシムルコトヲ得

第三十二條 評定ハ評定委員三人ノ合議ニ依リ其ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス
 評定委員ハ商標局長ニ於テ事件毎ニ之ヲ指定ス
 評定委員ニシテ該事件ニ利害關係ヲ有シ又ハ參與シタルコトアルトキハ之ヲ選避スベシ
 第三十三條 評決ハ書狀ニ就キ之ヲ爲スコトヲ得、但シ必要ト認ムルトキハ日時ヲ指定シテ當事者ヲ召集シ口頭辯論ヲ爲サシムベシ
 評定ニ關スル當時者ニシテ法定又ハ指定ノ期間ニ出頭セザルトキト雖評定ハ之ニ因リテ中止セズ
 第三十四條 評定ニ關スル事件ニ利害關係ヲ有スル者ハ評定終結以前ニ參加申請スルコトヲ得其ノ評否ハ當事者ニ詢問シ且評定委員ニ於テ合議ノ上之ヲ決定ス
 第三十五條 評定ノ評決ニ對シ不服アルトキハ評定書送達ノ日ヨリ三十日以内ニ再評定ヲ請求スルコトヲ得、其ノ一切ノ手續ハ評定ニ關スル規定ヲ適用ス

再評定ノ評決ニ對シ不服アルトキハ六十日以内ニ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第三十六條 再評定ノ評決ニ對シ不服アルトキハ六十日以内ニ訴願ヲ提起スルコトヲ得
 第三十七條 商標ニ關スル事件ニシテ評定ノ評決ヲ經テ確定シタル後ハ同一事實及同一證據ニ就キ同一ノ評定ヲ請求スルコトヲ得ズ
 第三十八條 特利事業ニ非ザル商品ニ標章ヲ專用セムトスル者ハ本法ニ依リ登録申請スルコトヲ得ズ
 第三十九條 商標登録費及其ノ他商標關係事件ニ付納付スベキ公費ハ施行細則ニ之ヲ定ム
 第四十條 本法施行細則ハ實業部ニ於テ之ヲ定ム
 第四十一條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

二八七

度量衡暫行條例

民國二十七年十一月十六日

- 第一條 中華民國度量衡ハ萬國權度公會ノ制定シタル白金、イリヂウム合體ノ公尺、公斤原器（メートル、キログラム原器）ヲ以テ標準ト爲ス
- 第二條 中華民國度量衡ハ萬國公制ヲ採用シテ標準制ト爲シ茲ニ暫時補助テ設ケ之ヲ市用制ト稱ス
- 第三條 標準制長度ハ公尺（メートル）ヲ以テ單位トシ容量ハ公升（リットル）ヲ以テ單位トス一公尺ハ公尺原器ノ攝氏寒度計零度ノ時ニ於ケル首尾兩標點間ノ距離ニ等シク一公斤ハ公斤原器ノ重量ニ等シク一公升ハ一公斤ノ純粹ノ水ノ最高密度七百六十公釐氣壓ノ時ニ於ケル容積ニ等シク此ノ容積ハ通常一立方公尺トス
- 第四條 標準制ノ名稱及定位法左ノ如シ

公分	公尺ノ百分ノ一即チ十公釐ニ等シ	0.01	公尺
公寸	公尺ノ十分ノ一即チ十公分ニ等シ	0.1	公尺
公尺	單位即チ十公寸	10	公尺
公丈	十公尺ニ等シ	10	公尺
公引	百公尺即チ十公丈ニ等シ	100	公尺
公里	千公尺即チ十公引ニ等シ	1000	公尺
公畝	公畝ノ百分ノ一ニ等シ單位即チ一百平方公尺	0.01	公畝
公頃	公畝ノ百分ノ一ニ等シ單位即チ一百分畝ニ等シ	100	公畝
公撮	公升ノ千分ノ一ニ等シ	0.001	公升
公勺	公升ノ百分ノ一即チ十公撮ニ等シ	0.01	公升
公合	公升ノ十分ノ一即チ十公勺ニ等シ	0.1	公升
公升	單位即チ一立方公寸	10	公升
公斗	十公升ニ等シ	100	公升

二八八

重量

公石	百公升即チ十公斗ニ等シ	100	公升
公乘	千公升即チ十公石ニ等シ	1000	公升
公秭	公升ノ百萬分ノ一ニ等シ	0.000001	公升
公毫	公升ノ十萬分ノ一即チ十公秭ニ等シ	0.00001	公升
公釐	公升ノ一萬分ノ一即チ十公毫ニ等シ	0.0001	公升
公分	公升ノ千分ノ一即チ十公釐ニ等シ	0.001	公升
公錢	公升ノ百分ノ一即チ十公分ニ等シ	0.01	公升
公兩	公升ノ十分ノ一即チ十公錢ニ等シ	0.1	公升
公斤	單位即チ十公兩	10	公升
公擔	十公斤ニ等シ	10	公升
公噸	百公斤即チ十公擔ニ等シ	100	公升
公噸	千公斤即チ十公擔ニ等シ	1000	公升

長度

里	千五百公尺ニ等シ	1500	公尺
引	百公尺ニ等シ	100	公尺
丈	十公尺ニ等シ	10	公尺
尺	單位即チ十寸	10	公尺
寸	尺ノ十分ノ一即チ十分ニ等シ	0.1	公尺
分	尺ノ百分ノ一即チ十分ニ等シ	0.01	公尺
釐	尺ノ千分ノ一即チ十分ニ等シ	0.001	公尺
毫	尺ノ萬分ノ一ニ等シ	0.0001	公尺

二八九

地積	毫	釐	分	撮	容量	重量
畝ノ千分ノ一ニ等シ	0.001	0.001	0.001	0.001	升ノ千分ノ一ニ等シ	斤ノ千分ノ一ニ等シ
畝ノ百分ノ一ニ等シ	0.01	0.01	0.01	0.01	升ノ百分ノ一ニ等シ	斤ノ百分ノ一ニ等シ
分ノ十分ノ一ニ等シ	0.1	0.1	0.1	0.1	升ノ十分ノ一ニ等シ	斤ノ十分ノ一ニ等シ
撮ノ千分ノ一ニ等シ	100	100	100	100	升ノ千分ノ一ニ等シ	斤ノ千分ノ一ニ等シ
撮ノ百分ノ一ニ等シ	10	10	10	10	升ノ百分ノ一ニ等シ	斤ノ百分ノ一ニ等シ
撮ノ十分ノ一ニ等シ	1	1	1	1	升ノ十分ノ一ニ等シ	斤ノ十分ノ一ニ等シ
撮ノ千分ノ一ニ等シ	0.1	0.1	0.1	0.1	升ノ千分ノ一ニ等シ	斤ノ千分ノ一ニ等シ
撮ノ百分ノ一ニ等シ	0.01	0.01	0.01	0.01	升ノ百分ノ一ニ等シ	斤ノ百分ノ一ニ等シ
撮ノ十分ノ一ニ等シ	0.001	0.001	0.001	0.001	升ノ十分ノ一ニ等シ	斤ノ十分ノ一ニ等シ
撮ノ千分ノ一ニ等シ	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001	升ノ千分ノ一ニ等シ	斤ノ千分ノ一ニ等シ

定スルコトヲ要ス

第十一條 度量衡ニ關スル事項ハ私人ノ買賣取引ニ於テ市用制ヲ遵行スルコトヲ得ルノ外他ハ均シク標準制ヲ用フベシ

第十二條 度量衡ノ製一ハ實業部ニ於テ全國度量衡局ヲ設立シ之ヲ掌理セシムベシ省及直轄市ハ度量衡檢定所ヲ設立シ縣及市ハ度量衡檢定分所ヲ設立シ檢定事務ヲ處理セシムルコトヲ得 度量衡局、度量衡檢定所及分所規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十三條 度量衡原器及標準器ハ實業部全國度量衡局ニ於テ度量衡製造所ヲ設立シ之ヲ製造ス 度量衡製造所規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十四條 度量衡器具ノ種類、様式、物質、公差及其ノ使用ノ制限ハ實業部ニ於テ部令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 度量衡器具ハ法ニ依リテ檢定シ其ノ印證アルモノニ非ザレバ之ヲ販賣又ハ使用スルコトヲ得

第十六條 國ノ公私ニ使用スル度量衡器具ハ檢査テ

受クルコトヲ要ス

度量衡檢査執行規則ハ實業部ニ於テ之ヲ定ム

第十七條 度量衡器具ノ製造、販賣及修理ヲ以テ業ト爲ス者ハ地方主管機關ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス 度量衡器具營業條例ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條 許可ヲ得タル度量衡器具ノ製造、販賣又ハ修理ノ營業者ニシテ本法ニ違反スルノ行爲アルトキハ主管機關ハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十九條 第十五條又ハ第十八條ノ規定ニ違反シテ檢定ヲ受ケズ又ハ檢査ヲ拒絶シタル者ハ三十元以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 本條例施行細則ハ實業部ニ於テ之ヲ定ム

第二十一條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

交易所法

民國二十七年十一月十六日

- 第一章 設立
 - 第一條 商業繁盛ノ區域ニハ商人ヨリ實業部ニ申請シテ免許ヲ受ケ有價證券ヲ買賣シ又ハ一種若ハ數種ノ物件ヲ買賣スル交易所ヲ設立スルコトヲ得
 - 第二條 有價證券ノ買賣又ハ同種物件ノ買賣ヲ爲ス交易所ノ設立ハ一區域ニ一箇所ヲ限リ共ノ區域ハ實業部ニ於テ之ヲ定ム
 - 第三條 交易所ハ設立後滿十年ヲ以テ其ノ存立年限トス但シ地方ノ商業情況ニ依リ滿期ノ際實業部ニ申請シ共ノ認可ヲ經テ之ヲ繼續延期スルコトヲ得
 - 第四條 有價證券ヲ買賣シ又ハ同種物件ニ依リ貨物ヲ買賣スル市場ハ均シク交易所ト看做シ本法ニ依ルニ非ズレバ之ヲ設立スルコトヲ得ズ
- 第二章 組織
 - 第五條 交易所ハ地方ノ商業情況及買賣物件ノ種類ニ依リ同業會員ニ於テ之ヲ組織シ又ハ株式會社ヲ以テ之ヲ組織スベシ
 - 第六條 同業會員組織ノ交易所ハ其ノ買賣ヲ爲シ得ル者ヲ該所ノ會員ニ限リ株式會社組織ノ交易所ハ其ノ買賣ヲ爲シ得ル者ヲ該所ノ取引員ニ限ル
 - 第七條 交易所ハ實業部ノ認可ヲ受ケ該交易所ノ買賣ニ附帶スル業務ヲ經營スルコトヲ得
 - 第八條 株式會社組織ノ交易所ハ倉庫業務除クノ外前項ノ業務ヲ兼營スルコトヲ得ズ
 - 第九條 交易所ノ定款ハ實業部ニ申請シテ認可ヲ受クベシ
 - 第十條 交易所ノ取引員トナラムトスル者ハ交易所ヲ經營スル實業部ニ免許登錄ヲ申請スベシ
 - 第十一條 中華民國ノ國籍ヲ有スル人民又ハ法人ニ非ズレバ交易所ノ會員又ハ取引員トナルコトヲ得ズ但シ領事裁判權ヲ放棄シタル國家ノ人民又ハ法人ハ此ノ限ニ在ラズ

- 左ノ事由ノ一ニ該當スル者ハ交易所ノ會員又ハ取引員トナルコトヲ得ズ
 - 一 行為能力ヲ有セザル者
 - 二 破産ノ宣告ヲ受ケタル者
 - 三 公權ヲ褫奪セラレ未ダ復權セザル者
 - 四 一年以上ノ徒刑ニ處セラレ執行完了又ハ赦免後五年未滿ノ者
 - 五 本法第四十五條乃至第五十二條ノ規定ニ依リ刑罰ニ處セラレ刑ノ執行ヲ終リ又ハ赦免ヲ受ケタル後五年未滿ノ者
 - 六 交易所ニ於テ除名處分ヲ受ケタル後五年未滿ノ者
- 第十一條 交易所ノ會員又ハ取引員ニシテ前條第一項及第二項ニ掲グル事由ノ一ヲ發生シタルトキハ直ニ其ノ資格及登錄ノ效力ヲ喪失ス
- 第十二條 不正ナル手段ヲ用キテ會員又ハ取引員トナリタル者ハ實業部ニ於テ其ノ登錄ヲ取消シ又ハ除名シ又ハ交易所ヲ退出セシムルコトヲ得
- 第十四條 會員又ハ取引員ハ支店又ハ其ノ他如何ナル名義ヲ用フルヲ問ハズ其ノ他ノ同種交易所ヲ有スル區域ニ在リテ同種ノ買賣ヲ取扱フコトヲ得ズ
- 第十五條 何人ト雖交易所ノ買賣取引委託ノ代理權介又ハ取次ヲ以テ營業ト爲スコトヲ得ズ但シ會員又ハ取引員ニシテ實業部ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 第十六條 會員又ハ取引員ハ交易所ニ對シ其ノ買賣ニ因リ生ズル一切ノ責任ヲ負フベシ
- 第十七條 取引員登錄ヲ申請スルトキハ登錄費ヲ納付スベシ
- 第十八條 前項ノ登錄費ハ實業部ニ於テ之ヲ定ム
- 第十九條 會員又ハ取引員ハ保證金ヲ交易所ニ納付シ置クベシ
- 第二十條 交易所ハ定款ヲ以テ會員又ハ取引員ノ責

メタルトキハ交易所ニ命ジテ職員ヲ補選シ之ヲ繼任セシムルコトヲ得

第二十五條 株式會社組織ノ交易所ノ職員又ハ雇員ハ如何ナル名義ヲ用フルヲ問ハズ自身又ハ他人ニ委託シテ交易所ニ於テ買賣ヲ爲スコトヲ得

前項ノ交易所ノ職員又ハ雇員ハ其ノ取引員ニ對シ資本ヲ供給シ又ハ損益ヲ分擔又ハ取引員ノ營業ト特別ノ利害關係ヲ有スルコトヲ得

第二十六條 交易所ニ評議會ヲ設ケ交易所ノ重要事項ヲ評議スベシ

交易所ハ證券交易所ヲ除クノ外鑑定員ヲ置キ受渡物品ノ等級ヲ鑑定セシムベシ

第五章 買賣

第二十七條 交易所ノ買賣ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ三月ヲ超ユルコトヲ得ズ棉花、綿絲、綿布、金銀、雜穀、米穀、油類、皮革、生絲及砂糖ニ在リテハ六月ヲ超ユルコトヲ得ズ其ノ他ノ物品ニ在リテハ實業部ノ定ムル期限ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二十八條 證券交易所ハ該所ノ株券ノ買賣ヲ爲スコトヲ得

第二十九條 交易所ノ買賣方法ニ關シテハ別ニ實業部部令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條 株式會社組織ノ交易所ハ定款ノ規定ニ依リ買賣雙方ニ證據金ヲ納付セシムベシ其ノ金額ト買賣登記價格ノ比例ハ左ノ規定ニ依ル

一 物品取引 百分ノ十ヲ下ルコトヲ得ズ但シ綿絲ハ百分ノ五ヲ下ルコトヲ得

二 證券取引 百分ノ八ヲ下ルコトヲ得

三 金取引 百分ノ五ヲ下ルコトヲ得

第三十一條 交易所ハ買賣契約ヲ履行セザル者アルトキハ其ノ證據金及保證金ヲ以テ損害賠償ノ用ニ充ツルコトヲ得

第三十二條 株式會社組織ノ交易所ハ買賣ノ違約ニ依リ生ジタル損害ニ付賠償ノ責ヲ負フ但シ違約者ニ對シ其ノ賠償シタル金額及違約ニ因リ生ジタル一切ノ費用ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

格ヲ規定シ其ノ員數ヲ限定スルコトヲ得

會員又ハ取引員ニシテ前項ノ資格ヲ喪失シタルトキハ直ニ其ノ登録ノ效力ヲ喪失ス

會員組織ノ交易所ノ會員ノ地位ハ全體會員ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ得ルニ非ザレバ讓渡スルコトヲ得

第二十一條 取引員ニシテ廢業シタル者アルトキハ其ノ交易所ニ於テ取扱ヒタル買賣ノ結了後二週間ヲ經過スル迄仍廢業セザルモノト看做ス

會員又ハ取引員ニシテ死亡、解散、除名、脱退及登録ノ取消又ハ失効等ノモトアリタルトキハ其ノ交易所ニ於テ取扱ヒタル買賣ノ結了ニ至ル迄前項ノ規定ヲ準用ス

前二項ノ規定ニシテ該會員又ハ取引員ノ買賣ヲ結了スル者ナキトキハ交易所ハ定款ニ依リ他ノ會員又ハ取引員ニ委託シテ之ヲ結了セシムルコトヲ得

第四章 職員

第二十二條 交易所ノ職員ハ左ノ如シ

理事長 一人

理事 二人以上

監察役 若干人

交易所職員ノ任期ハ三年トシ會員又ハ株主中ヨリ之ヲ選任シ實業部ノ認可ヲ經テ登錄スベシ

第十條第一項及第二項ニ該當スル者ハ交易所ノ職員トナルコトヲ得

取引員ニ對シ資本ヲ供給シ損益ヲ分擔シ又ハ取引員ノ營業ト特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ其ノ交易所ニ於テ職員トナルコトヲ得

第二十三條 職員ニシテ前條第四項ノ事情アリ又ハ免許登録ヲ經テ取引員トナリタルトキハ直ニ退職スベシ理事長又ハ理事ニシテ認可登録ヲ經テ其ノ他ノ交易所ノ理事長又ハ理事トナリタルトキ亦同シ

實業部ニ於テ職員ノ不正手段ニ依リ登録ヲ申請シタル事實又ハ前條ノ規定ニ違反シテ職員トナリタル者ヲ發見シ又ハ職員ニ第二十五條第二項ノ規定ニ違反スル者アリト認メタルトキハ退職セシムルコトヲ得

第二十四條 職員ニ缺員ヲ生ジ實業部ニ於テ必要ト認

第三十三條 株式會社組織ノ交易所ハ前條ノ規定ニ依リ賠償ノ責ヲ負フトキハ營業保證金ヲ圓庫ニ納付シ置クベシ
第三十四條 株式會社組織ノ交易所ハ賣買高ニ依リ賣買雙方ヨリ手数料ヲ徵收スルコトヲ得 其ノ率ハ實業部ノ認可ヲ受クベシ
第三十五條 交易所ハ保證金、保證金ニ付處分ノ優先權ヲ有ス
第三十六條 交易所ノ賣買ノ委託者ハ會員又ハ取引員ノ委託契約ニ違反シタル場合ニ於テ其ノ違約ニ因リ生ジタル債權ニ關シ會員又ハ取引員ノ保證金ニ付交易所ヲ除クノ外其ノ他ノ債權者ニ比シ優先權ヲ有ス
第三十七條 會員又ハ取引員ハ受託シタル賣買ニ付其ノ所屬交易所内ニ於テ買付、賣付又ハ受渡ヲ爲シタルトキニ非ザレバ委託者ニ對シ同種又ハ類似ノ計算方法ヲ爲スコトヲ得ズ
前項ノ賣買ノ決済書ハ交易所ニ於テ作成シ雙方ノ會員又ハ取引員之ニ署名シテ受渡ヲ爲スコトヲ要ス

二九六

五 會員又ハ取引員ノ營業停止若ハ除名
第四十二條 實業部ハ交易所監理員ヲ任命シテ交易所ノ業務、帳簿、財産及其他ノ物件及會員又ハ取引員ノ帳簿ヲ検査シ市場價格變動ノ原因ニ注意セシムベシ
交易所ノ職員、會員又ハ取引員ハ前項ノ検査ニ對シ物品又ハ文書ヲ提供シ質問ニ應答スルノ義務ヲ有ス
第四十三條 實業部ハ必要ト認ムルトキハ交易所ヲシテ定款ヲ變更セシメ又ハ其ノ決議案又ハ處分ヲ停止シ禁止シ若ハ取消スコトヲ得
第四十四條 交易所ハ存立年限内ニ自ラ解散スルトキハ實業部ノ認可ヲ受クベシ
第七章 罰則
第四十五條 第二十五條ノ規定ニ違反シタル者ハ一萬元以下ノ罰金ニ處ス
第四十六條 第十四條又ハ第十五條ノ規定ニ違反シタル者ハ五千元以下ノ罰金ニ處ス
第四十七條 第三十條ノ規定ニ違反シタル者ハ納ムベキ保證金ノ二倍以上十倍以下ノ罰金ニ處ス
第四十八條 第四十條ノ規定ニ違反シタルトキハ會員取引員及公務員ヲ賣買價格ノ二倍以上十倍以下ノ罰金ニ處シ其ノ刑事ニ涉ルトキハ法院ニ送致ス
第四十九條 交易所ノ職員、評議員又ハ鑑定員ニシテ其ノ職務ニ付賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ三年以下ノ徒刑又ハ一萬元以下ノ罰金ニ處ス因テ不正ノ行為ヲ爲シ又ハ相當ノ行為ヲ爲サザルトキハ本刑ノ二分ノ一ヲ加重ス
前項ノ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スル能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス
第五十條 左ノ各款ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ徒刑又ハ三千元以下ノ罰金ニ處ス
一 交易所ノ職員、評議員又ハ鑑定員ニ對シ賄賂ヲ交付、贈與又ハ約束シタル者
二 交易所ノ公定相場ヲ偽造シテ之ヲ公告シタル者
三 公告若ハ頒布ノ目的ヲ以テ虚偽ノ相場ヲ記載シタル文書ヲ作成シ又ハ之ヲ頒布シタル者

二九七

四 免許登録ヲ受ケズシテ交易所ヲ設立シタル者又ハ第三十八條ノ規定ニ違反シタル者
前項第一號ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑罰ヲ免除シ又ハ輕減スルコトヲ得
第五十一條 交易所ニ於ケル相場ノ變動ヲ意圖シテ流言ヲ流布シ又ハ偽計ヲ行使シ又ハ暴行ヲ施シ又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ二年以下ノ徒刑又ハ六千元以下ノ罰金ニ處ス
第五十二條 交易所以外ニ於テ交易所ノ相場ニ依リ損益ヲ計リ空賣買取ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ徒刑又ハ三千元以下ノ罰金ニ處ス
第五十三條 會員又ハ取引ノ同居者、親族又ハ雇人ニシテ第十五條ノ規定ニ違反シタル者ハ第十六條ニ依リ處罰スベシ。該會員又ハ取引員ハ自己ノ指揮シタルニ非ザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ。此場合ニ於テハ罰則ハ第四十六條ノ規定ヲ準用ス
第五十四條 本法ノ罰則ハ法人ニ在リテハ其ノ行爲ヲ爲シタル董事、理事其ノ他業務ヲ執行スル職員ニ之

ヲ適用ス
第八章 附則
第五十五條 交易所課稅法ハ別ニ之ヲ定ム
第五十六條 交易所ノ資本金額、營業保證金及積立金等ニ關シテハ實業部令ヲ以テ之ヲ定ム
第五十七條 本法施行細則ハ實業部ニ於テ之ヲ定ム
第五十八條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

交通部航政局管理船舶暫行章程
民國二十八年三月十八日(交通部令)

第一章 總則
第一條 交通部航政局ハ本章程ノ規定ニ依リ船舶ノ處理ヲ行フ
第二條 船舶ハ他ノ關係法令ヲ遵守スルノ外本章程ノ規定ヲ遵守スベシ
第三條 本章程ニ於テ船舶ト稱スルハ總噸數二十噸以上ノ汽船及二百噸以上ノ帆船ヲ謂フ
第四條 中華民國國籍ヲ取得セル船舶ハ外國國旗ヲ掲揚スルコトヲ得ズ中華民國國籍船舶ニ非ザル船舶ハ中國國旗ヲ掲揚スルコトヲ得ズ
第五條 左ノ各款ノ事情ノ一ニ該當スルモノノ外中國船舶ニ非ザル船舶ハ中華民國港灣ニ停泊スルコトヲ得ズ
一 法律ニ特別ノ規定アルモノ
二 中華民國政府ノ許可ヲ得タルモノ

三 港灣ヲ爲セルモノ
第六條 船舶ハ船舶國籍證書又ハ船舶臨時國籍證書ヲ所持スルニ非ザレバ航行スルコトヲ得ズ但シ左ノ各款ニ掲グル事情ニ依リ航政局ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラズ
一 試運轉ノトキ
二 噸數計量ノトキ
三 正當ノ事由アルトキ
第七條 船舶ハ船舶國籍證書又ハ船舶臨時國籍證書ヲ取得スルニ非ザレバ中華民國國旗ヲ掲揚スルコトヲ得ズ但シ左ノ各款ノ事情ノ一ニ適シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
一 中華民國國慶日又ハ記念日
二 外國港口ニ停泊中該國國慶日ニ遇ヒタルトキ
三 前二款ノ場合ヲ除クノ外慶祝又ハ敬意ヲ表示スベキトキ
四 進水式ヲ舉行スルトキ
五 前條ノ規定ニ依リ其ノ航行ヲ許可セラレタルトキ
二九九

八 條 船舶ハ左ノ各號ニ掲グル標識ヲ具備スベシ
 一 船名
 二 船籍港名
 三 船舶ノ登録噸數
 四 船舶登記番號
 五 吃水尺度
 前項各號ノ標識ハ之ヲ毀壞塗抹スルコトヲ得ズ但シ捕獲ヲ避クル爲行フ場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 標識事項ニシテ登記事項ノ變更ニ因リ之ヲ變更スルノ要生ジタルトキハ直ニ其ノ變更ヲ爲スベシ
 九 條 船舶ハ左ノ各號ニ掲グル文書ヲ具備スベシ
 一 船舶国籍證書
 二 船舶登記證書
 三 船舶検査證書
 四 船舶噸數證書
 五 海員證書
 六 海員名簿
 七 旅客名簿
 八 運送契約及貨物積込ニ關スル書類
 九 船具目錄
 十 航海日誌簿
 十一 條 船名ハ船舶所有者之ヲ定ム但シ同一船舶港ニ於ケル他船名ト同一ナル名稱又ハ字音ヲ混同スル名稱ヲ附スルコトヲ得ズ
 第二章 船舶検査
 十一 條 船舶ハ最初ノ航行ヲ開始セザルトキ航行期間満期ノトキ及航行期間内ニ於テ必要アルトキハ検査ヲ施行ス最初ノ航行ヲ開始セザルトキ及航行期間満期ノトキノ検査ハ船舶所有者ヨリ航政局ニ願出アノ上之ヲ施行ス航行期間内ノ検査ハ航政局ニ於テ職權ニ依リ之ヲ施行ス
 十二 條 已ニ検査ヲ受ケタル船舶ノ航行期間ハ三ヶ月以上一年以内トス但シ帆船ノ場合ニ在リテハ六月

三〇〇

以上三年以内トス期限ヲ經過シタル船舶ハ更ニ再検査ヲ受ケ之ニ合格スルニ非ザレバ航行スルコトヲ得ズ航行中満期ト爲リタル船舶ハ満期後最初ノ到達港ニ於テ該港ノ航政局又ハ航政局辦事處ニ申請シ検査ヲ受ケベシ
 十三 條 船舶検査ハ航政局又ハ航政局辦事處所在地ニ於テ之ヲ施行ス但シ申請人ヨリ事由ヲ具シ該地ニ於テ検査シ能ハザル旨申出タルトキハ航政局ニ於テ検査員ヲ派遣シ船舶所在地ニ於テ之ヲ施行ス
 十四 條 検査員規程ニ照シテ検査ヲ施行シ合格ト認メタルトキハ指定航路、搭載人員、汽壓制限及航行期間ヲ列記シタル書類ヲ航政局ニ提出シ船舶検査證書ノ下附ヲ受ケシムベシ
 十五 條 航政局ハ臨時検査員ヲ船ニ派遣シ検査ヲ爲サシムルコトヲ得検査員法令ノ規定ニ適合セザル船舶ヲ発見シ又ハ航行上危険若ハ障礙ヲ生ズル悞レアリ早急ニ検査ヲ要スト認メタルトキハ暫時其ノ航行ヲ停止スルコトヲ得
 十六 條 船長ハ船舶ノ船體堅固ナラズ又ハ船具ノ不完備若ハ其ノ他ノ事由ニ依リ航行上危険若ハ障礙ノ生ズル悞アルコトヲ發見シタルトキハ航政局ニ検査ノ施行ヲ申請スベシ其ノ航行中ナルトキハ着港後前段ノ申請ヲ爲スベシ
 十七 條 船舶所有者検査ノ結果ニ不服アルトキハ事由ヲ具シ交通部ニ申請シ検査員ノ特派ヲ乞ヒ再検査ヲ受ケタルコトヲ得再検査未ダ終了セザル以前ニ船舶ノ原狀ヲ變更スルコトヲ得ズ
 十八 條 中國船舶ニ對シテハ公務専用ノ船舶ヲ除クノ外本章程ノ規定ニ依リ検査ヲ施行ス
 十九 條 左ノ各號ニ掲グル外國船舶ニ對シテハ法令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外本章程ノ規定ニ依リ検査ヲ施行ス
 一 中國人民ノ賃借セル中國各港間又ハ中國ト外國間ノ航行ヲ爲ス外國船舶
 二 法律又ハ政府ノ許可ニ依リ中國港灣口岸間ヲ航行スル外國船舶

三〇一

中國港ヨリ客貨ヲ搭載シ出發セントスル外國船舶ハ
船長ニ於テ航政局ニ對シ船舶検査書ノ検査ヲ申請シ
若シ該検査書ノ期限既ニ滿了セルトキハ航政局ニ於
テ更ニ検査ヲ施行ス
第二十條 前二條ニ掲グル船舶ハ検査ニ合格シ證書
ヲ下附セラレタル後航行スルコトヲ得
第三章 船舶ノ丈量
第二十一條 船舶ハ國籍證書ヲ附申請前ニ船舶所有者
ヨリ航政局ニ對シ丈量ノ申請ヲ爲スベシ
第二十二條 外國ニ於テ船舶ヲ製造又ハ取得シタル者
ハ最初ニ到着シタル中國ノ港ニ於テ前條ノ規定ニ依
リ丈量ノ申請ヲ爲スベシ
第二十三條 登記ヲ了シタル船舶ノ船體、機式若ハ容
積ヲ變更シ又ハ噸數計算ニ錯誤アリト認めルトキハ
船舶所有者ハ變更完了又ハ錯誤發覺ノ日ヨリ一月以
内ニ第二十一條ノ規定ニ依リ重新テ丈量ヲ申請スベ
シ航政局ニ於テ發見シタル場合ハ職權ニ依リ重新テ
丈量ヲ行フ

三〇二

再交付又ハ港換ヲ申請スベシ
第二十九條 船舶船籍港以外ノ中國港又ハ外國港ニ停
泊中前條ノ事情發生シタルトキハ該船舶ノ船長ハ該
港ノ航政局、主管航政官署又ハ中國領事館ニ對シ船
舶臨時國籍證書ノ發給ヲ申請スベシ
航行中前條ノ事情發生シタルトキハ該船舶ノ船長ハ
到達港ノ航政局、主管航政官署又ハ中國領事館ニ對
シ前項ノ申請ヲ爲スベシ
第三十條 前條ノ事情ニ遭遇シタルトキハ船舶所有
者ハ該船舶船籍港ニ到達シタル後十日以内ニ航政局
ニ對シ船舶臨時國籍證書ト引換ニ船舶國籍證書ノ交
付ヲ申請スベシ
第三十一條 登記ヲ了シタル船舶滅失沈没シ捕獲セラ
レ又ハ國籍ヲ喪失シタルトキハ船舶所有者ハ之等ノ
事實ヲ發見シタル日ヨリ三十日以内ニ航政局ニ對シ
登記取消ノ申請ヲ爲スベシ此ノ場合ニ於テハ船舶國
籍證書ヲ確實ニ遺失シタル場合ヲ除クノ外該證書
ヲ返還スルコトヲ要ス船舶行跡不明ト爲リ六月ヲ經
ルモ仍所在不明ナルモノニ付亦同ジ
前項ノ場合ニ於テ期限ヲ經過スルモ仍登記ノ取消及
證書ノ返還ヲ爲サザル者ニ對シテハ航政局ハ一月以
内ノ期限ヲ定メ登記ノ取消及證書ノ返還ヲ催告スル
コトヲ得期限ヲ經過スルモ正當ナル事由ナクシテ催
告ニ從ハザル者アルトキハ職權ニ依リ登記及證書ノ
取消ヲ爲スコトヲ得
第三十二條 中國港又ハ外國港ニ於テ船舶ヲ取得シ中
國ニ於ケル他ノ港ヲ船籍港ト定ムル場合ニ於テハ船
舶所在港ノ航政局、主管航政官署又ハ中國領事館ニ
對シ船舶臨時國籍證書ノ發給ヲ申請シ船舶船籍港ニ
到達シタル後第二十六條ノ規定ニ依リ登記及船舶臨
時國籍證書ノ取消ヲ申請スベシ
第三十三條 船舶臨時國籍證書ノ有効期間ハ國外ニ於
テ發給スル場合ニ在リテハ一年、國內ニ於テ發給ス
ル場合ニ在リテハ六月ヲ越ユルコトヲ得但シ日ム
コトヲ得ザル事由アルトキハ延期ノ申請ヲ爲スコト
ヲ得

三〇三

第三十四條 船舶臨時開港證書ハ有效期間満了前ト雖モ船舶開港ニ到達シタルトキハ其ノ效力ヲ失フ
第五章 罰 則
第三十五條 第五條ノ規定ニ違反シタルトキハ當該船長ヲ二千元以下ノ罰金ニ處ス其ノ情狀重大ナルトキハ當該船及積載貨物ヲ沒收スルコトヲ得
第三十六條 國籍ヲ偽稱スル目的ヲ以テ第四條ノ規定ニ違反シタルトキハ當該船長ヲ一千元以下ノ罰金ニ處ス其ノ情狀重大ナルトキハ當該船ヲ沒收スルコトヲ得
第三十七條 虚偽ノ事實ヲ以テ登記又ハ丈量ヲ申請シ依テ船舶國籍證書、船舶登記證書、船舶検査證書又ハ船舶噸數證書ヲ取得シタル者ハ一年以下ノ有期徒刑又ハ千元以下ノ罰金ニ處ス
第三十八條 第六條又ハ第七條ノ規定ニ違反シタルトキハ當該船長ヲ五百元以下ノ罰金ニ處ス
第三十九條 第八條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ五百元以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 第二十八條又ハ第三十九條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百元以下ノ罰金ニ處ス
第四十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行為ヲ爲シタルトキハ當該船長ヲ一千元以下ノ罰金ニ處ス
一 船舶検査證書ヲ受領セズシテ航行シタルトキ
二 故ナク指定ノ航路若ハ航行期間ヲ遵守セズ又ハ汽壓制限ヲ超過シタルトキ
三 検査員ノ臨時検査ヲ拒絕シ又ハ航行停止命令ニ違反シタルトキ
四 第二十條ノ規定ニ違反シタルトキ
第四十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行為ヲ爲シタルトキハ當該船長ヲ五百元以下ノ罰金ニ處ス
一 第九條ノ規定ニ違反シタルトキ
二 船舶ノ屬具ノ整備ヲ完了セズシテ航行シタルトキ
三 登載セル旅客其ノ定員ヲ超過シタルトキ
第四十三條 本章程ニ掲グル船長ニ對スル罰則ハ船長ヲ代理スル者又ハ船長ノ職務ヲ執行スル者ニ對シテ

モ之ヲ適用ス。
第六章 附 則
第四十四條 船舶検査章程、船舶丈量章程、船舶登記章程、船舶噸數證書章程其ノ他船舶管理ニ關スル各章程ハ別ニ之ヲ定ム
前各條ノ規定及新ニ制定公布セラルル規程ノ外現行法令ニ抵触セザル範圍内ニ於テ從前ノ規程ヲ適用ス
第四十五條 本章程ノ規定ニシテ事宜ヲ盡サザル所アルトキハ臨時之ヲ改正スルコトヲ得
第四十六條 本章程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

實業部管理絲繭事業臨時辦法

二十七年九月二十九日(實業部令)

- 第一條 江蘇、浙江、安徽三省及各市區管轄區域內ニ於テ左ノ絲繭事業ヲ經營セントスル者ハ豫メ維新政府實業部ニ申請シ其ノ許可證ノ下附テ受ケタル後營業ヲ開始スルコトヲ得
 - 一 蠶種製造事業
 - 二 機械製絲事業
 - 三 繭問屋
- 維新政府實業部ハ前項各號ノ事業ノ管理及許可ニ關シ本辦法ノ外必要ニ應ジ命令ヲ發スルコトヲ得
- 第二條 前條第一項第一號ノ蠶種製造事業ノ申請者ハ本年十一月三十日迄ノ期間内ニ於テ申請書ヲ維新政府實業部ニ提出スベシ
 - 第三條 前條第一項第二號ノ機械製絲事業ノ申請者ハ本年十一月三十日迄ノ期間内ニ於テ申請書ヲ維新政府實業部ニ提出スベシ
 - 第四條 前條第一項第三號ノ繭問屋ノ申請者ハ本年十一月三十日迄ノ期間内ニ於テ申請書ヲ維新政府實業部ニ提出スベシ

三〇六

- 二 公司ノ性質及資本金額
 - 三 蠶種製造ノ場所及育蠶ノ場所
 - 四 製種育蠶ニ使用スル家屋ノ間數及其平方面積ノ尺寸(標準制又ハ市制ニ按照シ計算ス)
 - 五 孵化稚蠶ノ數量及其ノ品名種別並ニ製種製造數量ノ確定額
- 第三條 第一項第二號ノ機械製絲事業即チ生絲製造事業ノ申請者ハ本年十月三十一日迄ノ期間内ニ於テ申請書ヲ維新政府實業部ニ提出スベシ
 - 前項ノ申請書ニハ詳細ニ左ノ各號ノ事項ヲ記載シ且必要ナル證明書類ヲ添附スベシ
 - 一 商號ノ名稱及經營者ノ氏名
 - 二 公司ノ性質及資本金額
 - 三 工場ノ所在地
 - 四 絲綫ノ種類及數量(總數及ピ台數)
 - 五 毎年絲綫工作ノ日數
 - 六 従業員工ノ員數及其ノ職務ノ區別
 - 七 事業計劃概要ノ説明

- 八 設備ノ要領
- 申請者ハ其ノ申請書中ニ前條第三號ノ工場ガ自己ノ所有ナリヤ否ヤヲ明記シ若シ他人ニ貸與シ經營スル場合ニ於テハ必要貸借契約書ヲ申請書ニ添附シ上維新政府實業部ニ提出スベシ
- 第四條 第一項第一號ノ繭問屋ノ申請者ハ本年十一月三十日迄ノ期間内ニ於テ申請書ヲ維新政府實業部ニ提出スベシ
 - 前項ノ申請書ニハ左ノ各號ノ事項ヲ明記スベシ
 - 一 商號ノ名稱及經營者ノ氏名
 - 二 會社ノ性質及資本金額
 - 三 繭問屋ノ所在地
 - 四 繭乾機ノ種類及毎日生産スル乾機繭ノ數量
 - 五 新繭買入ノ見種數量(春、夏、秋露ニ區別シテ記入スベシ)
 - 六 開業ノ豫定期日

- 第六條 實業部蠶絲事業ノ統制ニ關シ必要ト認メタルトキハ命令ヲ發スルコトヲ得
- 第七條 第一條ノ規定ニ依ル許可證ノ下附テ受ケスシテ營業ヲ爲ス者ハ一千元以下ノ罰金ニ處ス
- 第八條 第六條ノ規定ニ依ル命令ヲ違背セザルベキハ維新政府實業部ハ許可ヲ取消シ爲スコトアルベシ
- 第九條 本辦法ノ規定ニ依ル申請書ハ當該各省ノ建設廳ヲ經由ノ上維新政府實業部ニ提出シ其ノ審査ヲ受ケベシ(南京、上海ノ市區内ニ在ル者ハ督辦市政府公署ヲ經由ノ上實業部ニ提出シ其ノ審査ヲ受ケベシ)
- 第十條 各省建設廳申請書ヲ受領シタルトキハ直ニ意見又ハ説明ヲ具シ維新政府實業部ニ送達スベシ
- 第十一條 各省建設廳ハ本辦法ノ規定ニ依リ必要ノ手續費ヲ徴收スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ豫

三〇七

メ實業部ニ申請シ其ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス管轄市
 政公署ノ場合ニ付亦同シ本辦法施行前ニ各省、市及
 地方機關ノ制定セル各項暫行辦法ハ本辦法施行ノ日
 ヲリ一律ニ其ノ執行ヲ停止ス

第十二條 本辦法ハ民國二十七年十月一日ヨリ之ヲ
 施行ス

第十三條 第一條第一項各號ノ事業經營者ハ本辦法
 施行後其ノ定メラレタル期間内ニ申請書ヲ提出スベ
 シ若シ期限ヲ經過シタルトキハ維新政府實業部ハ申
 請書ヲ受理セズ又ハ許可ヲ爲サザルコトアルベシ

三〇八

華中蠶絲股份有限公司規程

二十七年十一月二十一日(實業部令)

第一條 華中機械製絲業ハ從來亂立ヲ放置スルノ
 状態ニ在リ爲ニ製絲業者間ノ激烈ナル競争ヲ惹起シ
 無統制ノ經營ハ巨額ノ經濟的損害ヲ齎シ破産者續出
 シ刺ヘ農民經濟ノ健全ナル發達ヲモ阻害シ爲政者ノ
 深慮ニ堪エザル處ナリ政府茲ニ無益ノ競争ヲ除去シ
 統制アル經營法ヲ實行シ以テ製絲業者ノ安全ヲ確保
 シ同時ニ本業ノ健全ナル發達ニ貢獻セシメンガ爲華
 中蠶絲股份有限公司ヲシテ機械製絲業ノ合理的經營
 ヲ實行セシメ既存ノ當該業者ヲ糾合シテ該公司ノ統
 制ニ服セシメ爾後同種事業ヲ新設スルヲ許サズ以テ
 同業相食ムノ弊ヲ免レシム

第二條 蠶種製造業ト機械製絲業トハ密接不可分
 ノ關係アリ若シ其ノ經營相互ニ法ヲ得ザレバ絲業ノ
 開發發達ヲ望ムコトヲ得ズ政府ハ茲ニ蠶ミ華中蠶絲
 股份有限公司ヲシテ華中ノ蠶種製造業及既存ノ該業

ヲ包括糾合シ蠶種ノ供給調整ヲ爲サシメ以テ良質廉
 價ノ蠶種ヲ供給セシム

第三條 華中蠶絲股份有限公司ハ左ノ事項ニ付必
 ズ政府ノ審査及許可ヲ受クベシ

一 定款内ノ重要事項ノ變更
 二 社長及副社長ノ選任及解任
 三 合併又ハ解散ノ決議

附 則

第四條 本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三〇九

上海恆産股份有限公司章程

民國二十七年九月十日實業部令

第一章 總則

- 第一條 上海恆産股份有限公司ハ上海附近ニ於ケル都市港灣建設事業ノ實施並ニ都市港灣建設ニ關係アル事業ノ經營ヲ其ノ目的トス本公司ハ本社ヲ上海ニ置ク
- 第二條 上海恆産股份有限公司ノ資本金ハ二千萬元トス但シ必要アルトキハ之ヲ増加スルコトヲ得
- 第三條 政府ハ二千萬元ニ限り上海恆産股份有限公司ニ出資ス政府ハ現金以外ノ財産ヲ出資ノ目的ト爲スコトヲ得
- 第四條 上海恆産股份有限公司ハ株金全額拂込前ト雖資本ヲ増加スルコトヲ得
- 第五條 上海恆産股份有限公司ノ株式ハ記名式ヲ用フ

第二章 職員

- 第六條 上海恆産股份有限公司ニ董事長(社長)及副董事長(副社長)各一人、理事二人以上、監事二人以下ヲ置ク
- 第七條 董事長ハ上海恆産股份有限公司ヲ代表シ公司ノ業務ヲ總理ス副董事長ハ董事長事故アルトキハ董事長ノ職務ヲ代理シ董事長ノ職務ヲ執行ス
- 第八條 董事長、副董事長共ニ事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ董事長副董事長共ニ職員ノトキハ其ノ職務ヲ執行ス
- 第九條 董事長及理事ハ董事長ヲ輔佐シ上海恆産股份有限公司ノ業務ヲ分掌ス
- 第十條 上海恆産股份有限公司ノ業務ヲ監察ス
- 第十一條 董事長及副董事長ハ株主總會ニ於テ選任シ任期ハ共ニ四年トス
- 第十二條 株主總會ニ於テ選任シ任期ハ三年トス
- 第十三條 監事ハ株主總會ニ於テ選任シ任期ハ二年トス

三二〇

第九條 上海恆産股份有限公司ハ左記業務ヲ經營ス

- 一 都市建設事業
 - 二 港灣建設事業
 - 三 土地及建築物ノ賣買、賃貸、利用並ニ管理
 - 四 不動産信託業務
 - 五 其ノ他前各號ニ附随スル業務
- 第十條 上海恆産股份有限公司ハ二十年ヲ存続期限トスル土地賃借權ヲ設定スルコトヲ得
前項ノ土地賃借權ノ讓渡或ハ土地賃借權ニ對シ權利ヲ設定セムトスルトキハ上海恆産股份有限公司ノ認可ヲ經ルニ非ザレバ效力ヲ發生セズ
- 第四章 政府ノ監督及補助
- 第十一條 政府ハ上海恆産股份有限公司ノ業務ヲ監督ス
- 第十二條 董事長及副董事長ノ選任及解任、定款内ノ重要事項ノ變更、社債ノ發行、彩票ノ發行並ニ事業ノ重要事項、利益金ノ處分及合併又ハ解散ノ議決
- 等ハ均シク政府ノ認可ヲ受クベシ
- 第十三條 上海恆産股份有限公司ハ都市建設及港灣建設事業ノ進行ニ按ジテ道路、公園等ノ公共施設ヲ政府ニ引續クベシ但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 第十四條 政府ハ都市建設及港灣建設事業ノ爲ニ必要ナル土地ヲ取得シテ之ヲ上海恆産股份有限公司ニ交付スルコトヲ得
- 第十五條 上海恆産股份有限公司ハ法令ノ定ムルコロニ依リ都市建設及港灣建設ノ爲ニ必要ナル土地ヲ徵用スルコトヲ得
- 第十六條 上海恆産股份有限公司ハ法令ノ定ムルコロニ依リ都市建設及港灣建設ノ實施ニ因リ顯著ナル利益ヲ享受シタル者ニ對シ其ノ享ケタル利益ヲ限度トシテ所屬經費ノ全部或ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得
- 第十七條 上海恆産股份有限公司ノ所有地ニシテ未タ土地賃借權ノ設定ヲ經ザルモノニ對シテハ地租ヲ

三二一

免除ス

第十八條 上海恆産股份有限公司ハ一億元ニ限リ社債ヲ發行スルコトヲ得

上海恆産股份有限公司ノ社債ハ獎金ヲ給スルコトヲ得

上海恆産股份有限公司ノ社債ハ公司法第七十八條ノ規定ニ拘ラズ其ノ債券ノ金額ヲ十元迄低減スルコトヲ得

第十九條 上海恆産股份有限公司ハ法令ノ定ムルコトニ依リ彩票ヲ發行スルコトヲ得

第二十條 政府ハ上海恆産股份有限公司ノ發行スル社債ノ元利償還ヲ保證ス

第二十一條 上海恆産股份有限公司ノ第一次社債ハ法令ノ規定ニ依リテ寄託或ハ供託ヲ以テ政府ニ對スル保證或ハ擔保ノ用ニ充ツルコトヲ得

第二十二條 上海恆産股份有限公司ハ政府ノ認可ヲ經テ第一次公債ヲ以テ本公司ノ株金拂込ノ用ニ充ツルヲ承認スルコトヲ得

第二十三條 上海恆産股份有限公司ハ每營業年度ニ於テ其ノ配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ滿タザルトキハ政府ノ所有スル株式ニ對シ配當ヲ爲スコトヲ要セザルモノトス

第二十四條 上海恆産股份有限公司ノ每營業年度ニ於テ配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ滿タザルトキハ政府ハ其ノ不足額ヲ補給ス

每營業年度ニ於テ配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過シタルトキハ其ノ超過額ハ先ヅ之ヲ前項補給金ノ償還ノ用ニ充ツベシ

第二十五條 上海恆産股份有限公司ノ每營業年度ニ於テ配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スル利益配當ヲ爲サムト

三二

スルトキハ其ノ利益配當ガ總株式ノ拂込金額ニ對シ均一ノ比率ニ至ル迄ヲ限度トシテ其ノ超過額ヲ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額及政府ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ一ト二トノ比率ヲ以テ配當スベシ

附則

第二十六條 本章程ハ中華民國二十七年九月十日ヨリ之ヲ施行ス

三三

華中電氣通信株式會社ニ關スル件

民國二十七年八月十五日(公版)

- 第一條 政府ハ華中電氣通信株式會社ヲシテ中支那ニ於ケル電氣通信事業ヲ統制經營セシム同會社ノ外ニ同種事業ヲ新設スルコトヲ得ズ又既存ノ同種事業ハ速ニ同會社ノ統制下ニ置クベシ
- 第二條 華中電氣通信株式會社ハ一般通信ノ處理ニ關シ損害賠償ノ責任ヲ負フコトナシ
- 第三條 一般通信ニ關スル料金ノ不納金額ニ付テハ華中電氣通信株式會社ハ國稅ニ次ギ先取特權ヲ有ス
- 第四條 華中電氣通信株式會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ電報ノ發行人ニ對シ其ノ電報ニ用ヒタル暗號又ハ隱語ノ說明ヲ求ムルコトヲ得
- 第五條 華中電氣通信株式會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ電報ノ發行人ニ對シ其ノ電報ニ用ヒタル暗號又ハ隱語ノ說明ヲ求ムルコトヲ得

三一四

- 第六條 華中電氣通信株式會社ハ拂込株金額ノ二倍ヲ限度トシテ社債ヲ募集スルコトヲ得
- 第七條 華中電氣通信株式會社ハ毎營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ總株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達セザルトキハ政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ付其ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄利益配當ヲ爲シ殘餘アルトキハ之ヲ政府ノ所有スル株式ニ配當スベシ
- 第八條 華中電氣通信株式會社ハ電線路ノ建設、保守又ハ測量ノ爲必要アルトキハ他人ノ土地若ハ建造物ニ立入り又ハ他人ノ土地ニ測量標ヲ設置スルコトヲ得但シ日没ヨリ日出迄ノ間ニ於テハ急迫ノ場合ニ非ザレバ占有者ノ意思ニ反シテ邸宅又ハ構内ニ立入ルコトヲ得ズ

- 前項ノ規定ニ依リ他人ノ邸宅又ハ構内ニ立入ル場合ハ占有者ニ據メ之ヲ通知スベシ
- 前二項ノ規定ニ依リ他人ノ土地又ハ建造物ニ立入ル者ハ其ノ身分ヲ證明スル證據ヲ携帶スベシ
- 第九條 華中電氣通信株式會社ハ電線路ノ建設又ハ公衆通信ニ障礙アル竹木其ノ他ノ植物ノ伐除若ハ移植ヲ所有者若ハ其ノ他權利者ニ請求シ又ハ自ら之ヲ伐除若ハ移植スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ所有者又ハ其ノ他權利者ニ對シ相當ノ補償ヲ爲スベシ
- 第十條 華中電氣通信株式會社ハ電線路ノ建設又ハ公衆通信ニ障礙アル瓦斯支管、上下水道支管、電燈線、電力線、專用電氣通信施設其ノ他ノ工作物ノ移植ヲ所有者若ハ其ノ他權利者ニ請求シ又ハ自ら之ヲ移植スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ所有者又ハ其ノ他權利者ニ對シ相當ノ補償ヲ爲スベシ
- 第十一條 華中電氣通信株式會社ハ道路、橋梁、溝渠、堤防、公園其ノ他公共ノ用ニ供セラルル土地又

三一五

- ハ官有地ニ電線路ヲ建設スル必要アルトキハ其ノ效用ヲ妨ゲザル限度ニ於テ其ノ管理者ノ許可ヲ受ケテ使用スルコトヲ得
- 第十二條 華中電氣通信株式會社ハ他人ノ土地ニ電線路ヲ建設スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ土地ノ所有者又ハ其ノ他權利者ニ據メ之ヲ通知スベシ
- 第十三條 政府ハ華中電氣通信株式會社ノ事業ニ關シ公益上必要ナル命令ヲ爲シ又ハ其ノ設備ニ付公益上必要ナル措置ヲ爲スコトヲ得
- 前項ノ命令又ハ措置ニ因リ會社ニ損失ヲ生ジタルトキハ政府ハ之ヲ補償ス
- 第十四條 華中電氣通信株式會社ハ左ノ事項ニ付政府ノ認可ヲ受クベシ
 - 一 定款中重要ナル事項ノ變更
 - 二 社長及副社長ノ選任及解任
 - 三 合併及解散ノ決議

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス